

「イスラーム地域研究」第2期研究実績報告書

(2013 年度)

2014 年 6 月 17 日

早 稲 田 大 学

東 京 大 学

上 智 大 学

京 都 大 学

(公財)東洋文庫

【事業全体の目的】

1. 拠点形成の目的

21 世紀に入ると、アメリカでの同時多発テロ（2001 年 9 月）をかわきりに、米英軍などはアフガニスタンやイラクに侵攻し、いわゆる「テロ国家・テロ組織」の根絶をめざした。これらの事件や戦争の背後には、「イスラームのグローバル化と先鋭化」という事実が存在することも確かである。しかしそれと同時に、私たちは、東南アジアや中東諸国の着実な経済発展とそれに伴う富裕な中間層の形成という、近年の新しい潮流にも目を向けなければならない。21 世紀における世界の動向、各地域・各国の政治・社会変動、石油資源の分配や経済開発、地域紛争の性格などを正しく理解するためには、このような新しい現実をふまえたうえで、イスラームと各地域社会との関係を多様なディシプリン研究を活用して具体的に明らかにすることが不可欠である。第2期研究計画の実行により、第1期（2006-11 年）の研究成果を基礎として、研究テーマや課題を絞り込み、研究を深化・発展させることによって、日本におけるイスラーム研究・教育の特色ある拠点形成をめざす。具体的には、以下の3点を主要な課題として設定する。

1. 現地の研究者、研究機関との国際的な共同研究を実施し、「他者」と「当事者」双方の目を通して「イスラームと地域」の係わりを分析することにより、現代イスラーム世界について実証的な知の体系を築くと同時に、その理解の深化をはかる。
2. 次世代のイスラーム研究を担う若手研究者育成のために、部局の枠を越えた大学院教育の組織構築を検討するとともに、大学間の協力につとめる。各研究拠点の活動が、イスラーム地域研究に関する大学院教育の充実につながるよう配慮するとともに、国内・国外の若手研究者が本イスラーム地域研究へ参加することを積極的に奨励する。
3. 以上の課題を踏まえたうえで、イスラーム地域研究のネットワークを構成する各拠点は、研究・教育環境、現有の研究スタッフ、担当する研究分野、独自予算の充実などを視野にいれながら「特色ある拠点づくり」をさらに推進する。

2. 研究対象

現代のイスラームは、地域を越える共通の問題と同時に、地域の歴史や文化と結びつく地域の個性に関わる問題を抱えている。イスラーム地域研究では、この双方の問題に取り組み、イスラームの知と文明、イスラームの宗教・思想と政治運動、イスラームの社会と文化、イスラーム世界の国際組織、イスラーム地域研究の史資料学などの側面から総合的に研究する。対象となる地域は、中東、北アフリカ、中央アジア、南アジア、東南アジアばかりでなく、必要に応じてアフリカ、ヨーロッパ、中国、さらにはアメリカや日本にも及ぶことになる。

3. 研究方法

対象となる地域の規模は、中東や中央アジアなど従来の地域概念にとらわれることなく、課題に応じて中小の地域を設定し、地域を越える共通の問題と同時に、イスラームと地域の個性との関わり方を追究する。イスラーム地域研究は、宗教学、政治学、経済学、歴史学、社会学、文化人類学などのディシプリン研究を基礎とし、それらの研究成果を総合することをめざす。この総合を実現するために、(1) いくつかの地域をとりあげ、それらを比較する地域間比較の手法と、(2) 現代の問題ではあっても、歴史をさかのぼって解明する歴史的アプローチの手法とを採用する。このような研究手法を活用することによって、国際的な共同研究を実施し、現代イスラーム世界に関する実証的な知の体系を築くことがねらいである。

4. 研究組織・ネットワーク

イスラーム地域研究は、早稲田大学イスラーム地域研究機構を中心拠点とし、東京大学大学院人文社会科学系研究科次世代人文学開発センター、上智大学研究機構、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、公益財団法人東洋文庫研究部に置かれる5拠点を結ぶ「ネットワーク型の研究組織」をつくり、人間文化研究機構との共同研究事業として実施される。各拠点の研究領域・テーマは以下の通りである。

中 心 拠 点：早稲田大学イスラーム地域研究機構・イスラーム地域研究所

〔総括責任者〕：桜井啓子（イスラーム地域研究機構長、早稲田大学国際学術院教授）

〔中心テーマ〕：「イスラームの知と文明」

東京大学拠点：東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター・イスラーム地域研究部門

〔総括責任者〕：大稔哲也（次世代人文学開発センター流動教員、東京大学大学院人文社会系研究科准教授）

〔中心テーマ〕：「イスラームの思想と政治：比較と連関」

上智大学拠点：上智大学研究機構・イスラーム研究センター

〔総括責任者〕：私市正年（イスラーム研究センター長、上智大学外国語学部教授）

〔中心テーマ〕：「イスラーム近代と民衆のネットワーク」

京都大学拠点：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・イスラーム地域研究センター

〔総括責任者〕：小杉 泰（イスラーム地域研究センター長、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）

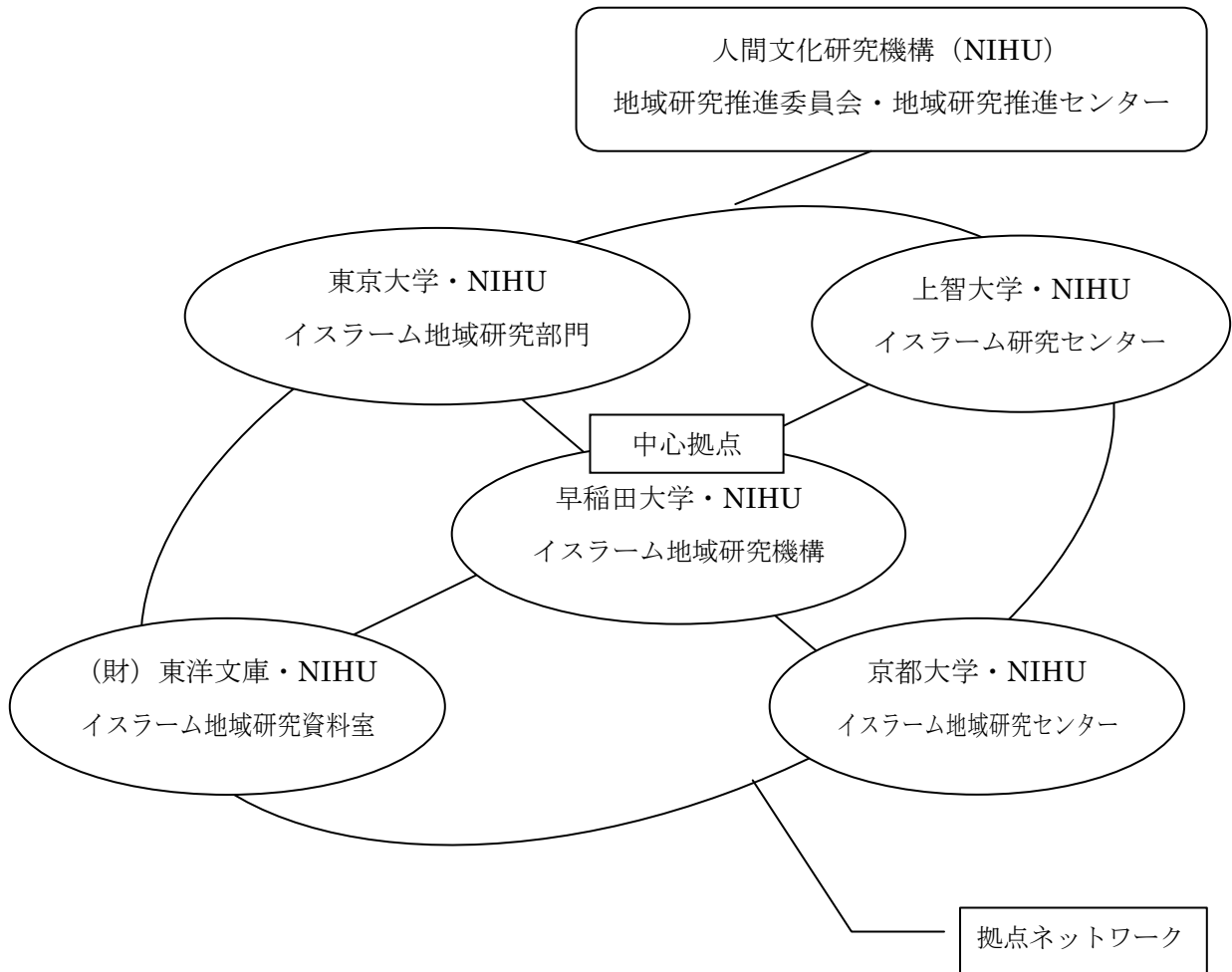
〔中心テーマ〕：「イスラーム世界の国際組織」

東洋文庫拠点：公益財団法人東洋文庫研究部・イスラーム地域研究資料室

〔総括責任者〕：三浦 徹（イスラーム地域研究資料室長、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授）

〔中心テーマ〕：「イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓」

【組織図】



【2013 年度事業の目的と活動内容】

1. 地域研究推進センター研究員の派遣

第 2 期イスラーム地域研究推進事業の実施に伴い、人間文化研究機構地域研究推進センターでは、第 1 期に引き続き、本事業の推進に必要な研究者を「地域研究推進センター研究員」として採用し、各拠点へ派遣している。

事業 3 年次である今年度は、6 名の研究員を引き続き派遣するとともに、現代インド地域研究との連携事業である地域研究間連携研究の推進事業「南アジアとイスラーム」を担当する研究員の公募選考（平成 25 年 5 月 22 日～平成 25 年 6 月 17 日）を実施し、センターと拠点が連携して選考を行い、拠点における選考結果をふまえ、人間文化研究機構地域研究推進委員イスラーム地域部会で候補者を決定し、同年 10 月 1 日付けで新たに 1 名の研究者を採用・派遣した。これにより、5 拠点へ各 1 名（早稲田大学拠点のみ 3 名）、計 7 名を派遣している。7 名の研究員は、第 1 期に設置した研究拠点の継続的な運営基盤を確立し、また拠点間ネットワークの活動を強化するとともに、特に今年度はパキスタン・ラホール経営大学で開催された国際会議の運営等を担当する等、拠点運営の実務及び国際共同研究のさらなる推進を担った。（詳細は、各拠点の研究活動の箇所を参照）

なお、新たに採用した 1 名を除く 6 名の研究員については、平成 26 年 3 月末付けで任期満了をむかえたが、拠点運営、研究活動等が高く評価され、イスラーム地域部会での審議を経て、最終的に機構役員会で 2 年間の派遣期間の延長が承認された。

また、昨年度に引き続き、3 地域の研究員が一同に会して第 3 回地域研究推進センター研究員研究発表会（幹事：イスラーム地域研究早稲田大学拠点 西村淳一氏）を、平成 26 年 2 月 8 日（土）～9 日（日）の 2 日間にわたり、早稲田大学早稲田キャンパス 26 号館（大隈記念タワー）において開催した（プログラム及び発表者等は以下のとおり）。当日は、40 年ぶりの大雪に見舞われ、残念ながら交通網の麻痺により一部の研究員については出席ができなかったが、各地域研究の先生方にもご出席いただき、無事開催に至った。研究員による各発表後には、専門や地域に関係なく積極的に研究員の間で活発な議論が行われたが、討論の時間が足りず、最終日の議論でも意見があったが、次年度の発表会では発表時間、質疑応答の時間が改善されることを望む。また、これまでは専門が異なる研究員が集まるということで、発表者には専門が異なる研究者にも分かりやすい研究発表をお願いしてきたが、3 回目となった今回の発表会では特に地域や専門の違いに関係無く、研究員が異なる地域等の発表に対しても自身の研究事例に置き換えて比較、討論を行うことが可能であるということを実感できたのは、新たな発見であった。

発表会の最後に行われたディスカッションでは、次年度の研究発表会に係る方針等について検討がなされたほか、今年度実施した「現代インド地域研究」の国内全体集会にイスラーム地域研究の西村研究員、現代中国地域研究の伊藤研究員にコメンテーターとして出席いただき 3 地域で討論を行ったように、地域研究間の交流も積極的に行い、若い研究者間の地域をまたぐ連携を今後も一層期待したい。

○プログラム

日 時：2014 年 2 月 8 日(土)～2 月 9 日(日)

場 所：早稲田大学早稲田キャンパス 26 号館（大隈記念タワー）702 号室

出席者：中尾正義、西村淳一、吉村武典、澤井一彰、河原弥生、三代川寛子、今松泰、徳原靖浩、鄭成、張望、武上真理子、江藤名保子【2 日目】、伊藤亜聖【2 日目】、福士由紀、相原佳之、山本達也、石坂晋哉、小川道大、小西公大【1 日目】(以上、19 名)

欠席者：宇根義己、宮本万里、上田知亮（以上 5 名）

陪席者：【1 日目】桜井啓子（早稲田大学教授）、天児慧（早稲田大学教授）

2 月 8 日（土）

13:00 開始

13:00－13:10 中尾センター長挨拶

13:10－14:00 吉村武典（「イスラーム地域研究」早稲田大学拠点）「マムルーク朝時代のエジプト統治システム：ナイル治水、農業、地方（仮）」

14:00－14:50 張望（「現代中国地域研究」早稲田大学拠点）「地域研究のアプローチ:歴史学と国際関係学の融合の可能性―日中関係研究を事例として」

14:50－15:00 休憩

15:00－15:50 山本達也（「現代インド地域研究」京都大学拠点）「チベット難民社会におけるナショナリズムをめぐる近年の動向」

15:50－16:40 澤井一彰（「イスラーム地域研究」早稲田大学拠点）「オスマン帝国史研究における環境歴史学と自然災害史研究―1563 年のイスタンブール大洪水を事例として―」

16:40－16:50 休憩

16:50－17:40 武上真理子（「現代中国地域研究」京都大学拠点）「『科学の時代』の孫文：上海東方大港計画を例として」

18:20－ 懇親会

2 月 9 日（日）

9:00－9:50 福士由紀（「現代中国地域研究」総合地球環境学研究所拠点）「暴れる民衆・逃げる女性―ペスト騒動（1910）から見た民衆と医療・衛生―」

9:50－10:40 小川道大（「現代インド地域研究」東京大学拠点）「軍馬徴用制度の崩壊にみる、19 世紀前半のインド西部の社会経済変化」

10:40－10:50 休憩

10:50－11:40 今松泰（「イスラーム地域研究」京都大学拠点）「オスマン朝下の神学―流入についての一考察」

11:40－12:30 江藤名保子（「現代中国地域研究」慶應義塾大学拠点）「中国『愛国主義』の変容と歴史認識問題」

12:30－13:00 全体討論

13:00 終了・解散

拠 点 名 称	氏 名	職 名	派遣期間
早稲田大学 イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所	西村 淳一	地域研究推進センター研究員 早稲田大学イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所研究員	23.4.1 ～26.3.31 (更新) 26.4.1 ～28.3.31
早稲田大学 イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所	吉村 武典	地域研究推進センター研究員 早稲田大学イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所研究員	23.4.1 ～26.3.31 (更新) 26.4.1 ～28.3.31
早稲田大学 イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所	澤井 一彰	地域研究推進センター研究員 早稲田大学イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所研究員	25.10.1 ～28.3.31
東京大学 大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター イスラーム地域研究部門	河原 弥生	地域研究推進センター研究員 東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター イスラーム地域研究部門研究員	23.4.1 ～26.3.31 (更新) 26.4.1 ～28.3.31
上智大学研究機構 イスラーム研究センター	三代川寛子	地域研究推進センター研究員 上智大学アジア文化研究所客員研究員	23.4.1 ～26.3.31 (更新) 26.4.1 ～28.3.31
京都大学 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 附属イスラーム地域研究センター	今松 泰	地域研究推進センター研究員 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科客員准教授	23.4.1 ～26.3.31 (更新) 26.4.1 ～28.3.31
公益財団法人東洋文庫研究部 イスラーム地域研究資料室	徳原 靖浩	地域研究推進センター研究員 公益財団法人東洋文庫研究員	23.4.1 ～26.3.31 (更新) 26.4.1 ～28.3.31

(中尾正義)

2. 事業全体の活動内容

2-1. 事業全体の研究内容及び研究成果の概要

事業全体としては、イスラーム地域研究の課題である「他者」と「当事者」の双方の視点から「イスラームとイスラーム文明」に関する実証的な知の体系を築くという目標のもと、全拠点が、国際会議や研究会を通じて海外の研究者との研究協力を推進した。また、研究に際しては、「現代問題への歴史的アプローチ」と「地域間比較の手法」を採用することで、時間軸と地理的な横軸を交差させ、文献研究と現地におけるフィールド調査を駆使してイスラーム地域研究を推進した。

様々な研究活動のなかで本年度の特筆すべき成果は、パキスタンのラホールにて開催した第四回イスラーム地域研究国際会議である。クアラルンプール(2008)、カイロ(2009)、京都(2010)を経て、世界最大のムスリム人口を抱える南アジアにて、日本発イスラーム研究の実績や独自のアプローチを披露することができ、かつ現地の研究者から一定の評価を受けることができた。また、各拠点のこれまでの研究成果を踏まえながら、イスラーム政党、領土分断、周縁化、神秘主義、法改革、女性、イスラームと人文学というテーマにおいて、日本の研究者と海外の研究者が共同でパネルを組み、議論をし、理解を深めることができた。緻密な分析と細部へのこだわりが日本の研究者に共通する傾向であったのに対して、海外の研究者は文明論を含む大枠からのアプローチを得意とし、全体として相互補完的であった。日本の良さを生かしつつ、海外でも評価されるような研究成果を生み出していくためには上述の二つの視点を取り込む必要があることが明らかとなった。

上智拠点で実施した合同集会では、東南アジアにおける文化交流をテーマに据え、東南アジアにおけるイスラームの受容における特性が明らかにされた。全拠点が関与する国際会議と合同集会の双方において、南アジア、東南アジアを重視したのは、イスラーム地域におけるアジアの重要性が高まっているからである。また各拠点が実施しているイスラーム地域研究の対象は、中東・北アフリカ、中央アジア、東アジア、南アジア、東南アジア、さらには日本を含む先進諸国にまで広がっており、地域研究でありながら、すでにその対象は地球規模に広がっている。こうした状況から、イスラーム地域研究の特性は、複数の文化圏、文明圏を含む広大な空間を対象とする「地域」を超えた「地域研究」だといえる。また、京大拠点のテーマであるイスラーム金融、早大拠点のテーマの一つであるハラール食品など、イスラーム地域に端を発しつつも、今や先進諸国も関心を寄せるグローバルなテーマが誕生している点も、イスラーム地域研究の特色となっていることを強調したい。

なお出版を通じた研究成果の公表としては、原典叢書シリーズとして『ジャポンヤ』(岩波書店)を刊行した。また「イスラームを知る」シリーズ(山川出版社)では、第一期の12冊目の刊行を終え、第二期の3冊を刊行した。また、各拠点ごとに、資料集、文献目録、国際会議の報告集、ジャーナルなどを刊行し、多様な形で研究成果の発信に努めた。詳細については各拠点の報告を参照していただきたい。

2-2. 事業全体の活動内容

(1) 合同集会

イスラーム地域研究 2013 年度合同集会

日時：2013 年 10 月 19 日(土) 13:00～17:30

場所：上智大学四谷キャンパス、2 号館 17 階 1702 号室

概要：イスラーム写本美術に関しては、ソロモンの印章、三尾一頭魚などの事例を通して、東南アジアにおける文化交流の一端が紹介された。「夜の旅と昇天」物語に関しては、17～18 世紀以降中東のイスラーム学の書籍がマレー語に翻訳されていく中で、同物語が宗教教育の教科書の一つとなったことが指摘された。ムスリム服とアイデンティティに関しては、インドネシアの女性のムスリム服が制服のような役割を果たしていること、ムスリム・アイデンティティの表出としての役割を果たしていることが指摘された。

(三代川寛子)

プログラム

13:00 - 13:05 開会あいさつ：桜井啓子（早稲田大学）

13:05 - 13:10 主催者あいさつ：私市正年（上智大学）

13:10 - 13:25 趣旨説明：川島緑（上智大学）

13:25 - 14:15 アナベル・T・ギャロップ（大英図書館）

「東と西：東南アジアのイスラーム写本美術にみる多文化交流」

14:15 - 14:30 休憩

14:30 - 15:20 菅原由美（大阪大学）

「東南アジアに渡った「夜の旅と昇天」物語」

15:20 - 16:10 塩谷もも（島根県立大学短期学部）

「現代インドネシアのムスリム服とアイデンティティ」

16:10 - 16:25 休憩

16:25 - 17:25 パネルディスカッション

赤堀雅幸（上智大学）、青山亨（東京外国語大学）、小林寧子（南山大学）

17:25 - 17:30 閉会の辞：東長靖（京都大学）

報告司会：三代川寛子（上智大学）、登利谷正人（上智大学）

パネルディスカッション司会：東長靖（京都大学）

(2) イスラーム地域研究第4回国際会議（ラホール国際会議）

日時：2013年11月2日（土）～4日（月）

場所：ラホール経営大学（LUMS）（パキスタン）

概要：パキスタン・イスラーム共和国のラホール経営大学（Lahore University of Management Sciences (LUMS)）との共催により、同大学にて「第4回イスラーム地域研究国際会議 in ラホール」を開催した。政情不安定な同国において、国際学術会議を計画通りにつつがなく実施し、3日間で延べ300人以上の参加者を得た。本会議を通じて「イスラーム地域研究」の成果を海外へ積極的に発信し、また「イスラーム地域研究」ネットワークに南アジアをリンクさせ、「イスラーム地域研究」のさらなる発展に結び付けることができた。

（西村淳一）

プログラム

第1日 2013年11月2日（土）

12:30 – 13:30 Registration

14:00 – 14:30 Opening Ceremony

14:45 – 16:30 Plenary Session 1 “The Marginalized and the Muslim”

Midori Kawashima “Muslim Minorities and the Nation-State: Marginalization of Philippine Muslims and Reconstruction of Their Identity”

Ali Usman Qasmi “A Study of the Second Constitutional Amendment”

Mashal Saif “Notes from the Margins: Shi’a Political Theology in Pakistan”

Discussant / Moderator / Chairperson: Hasan Karrar

16:45 – 18:30 Plenary Session 2 “Sufism and Tariqas: Tradition, Heritage and Change”

Ayako Ninomiya “Life and Legend of Ashraf Jahāngīr Simnānī”

Lukas Werth “Sharing versus Prescriptions and Proscriptions: Intellectual Gestures in Contemporary Pakistani Discourses”

Madiha Shaukat “‘Ilm al-Qalb: The Epistemology of the Heart in Maulānā Rūmī and Imām Ghazālī”

Discussant / Moderator / Chairperson: Yasushi Imamatsu

第2日 – 11月3日（日）

9:30 – 11:15 Plenary Session 3 “Legalized Islamic Parties in a Domestic and Global Contexts”

So Yamane “Correlation between Sense of Crisis and Islamic Revivalism through the Study of Jama’at-e Islami in Pakistan”

Aurangzeb Haneef “Religious Nationalism in the Charter of Hamas: From Resistance to Politics”

Natalia Laskowska “The Paradigmatic Difference in the Debates on ‘Islamic State’ in Indonesia and Malaysia”

Discussant / Moderator / Chairperson: Takayuki Yokota

11:30 - 13:15 Plenary Session 4 “Politics of Partitions from a Comparative Perspective”

Aiko Nishikida “The Politics of Partition in the British Mandate for Palestine”

Ishtiaq Ahmed “British Strategic Thinking Behind the Partition of India”

Elisabetta Iob “Memories of Blood, Sword and Freedom: Partition, Communal Clashes and the Early Flows of Refugees in Punjab”

Discussant / Moderator / Chairperson: Akira Usuki

14:45 - 16:30 Parallel Session 1 “Women’s Agencies in Islam: From Past to Present”

Emi Goto “Reading Discourses on “the Role of Women”: The Case of Twentieth Century Egypt”

Golnar Mehran “Educating the “Ideal Muslim Woman” in the Islamic Republic of Iran”

Anjum Alvi “Veiling in Diasporas”

Discussant / Moderator / Chairperson: Sadaf Aziz

14:45 - 16:30 Parallel Session 2 “Legal Reforms in Muslim Countries”

Tomoki Okawara “The ‘Ottoman’ Mecelle/ Majalla Reconsidered”

Nobuaki Kondo “Judicial Reform and Shari’a in 19th Century Iran”

Syed Zainuddin Moulvi/Arafat Mazhar “Plurality, Dissent, and Hegemony: The Story behind Pakistan’s Blasphemy Law”

Discussant / Moderator / Chairperson: Khalid Masud

17:00 – 18:00 Poster Session

第3日 – 11月4日(月)

9.00 - 11:30 Special session by Mitsubishi Corporation “New Developments and Prospects for Islamic Finance”

Syed Babar Ali, Pro Chancellor, LUMS

Hiroshi Inomata, Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary, Embassy of Japan in Pakistan

Arif ul Islam, Deputy CEO & Executive Director, Meezan Bank Limited

Atif Bajwa, CEO, Bank Alfalah Limited

Suri Hanim Mohamed, Vice President/Manager, Islamic Banking Department, Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ (Malaysia) Berhad

Masumi Hamahira, Advisor, Islamic Banking Department, Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ (Malaysia) Berhad

Kimihide Ando, General Manager for Pakistan, Mitsubishi Corporation

12:15 - 14:00 Closing Session “The Study of Islam, Humanities, and Social Sciences in a Globalizing World”

Kentaro Sato “Ibn Khaldun Studies in Japan”

Omar Farouk “Islam as Humanities in the Contemporary World”

Mohammed Rehan Malik “Study of Humanities for Influencing Social Reform in Pakistan”

Discussant / Moderator / Chairperson: Syed Nomanul Haq

(3) 「イスラームを知る」シリーズの刊行

- ①三浦徹ほか著『イスラームを学ぶ』（イスラームを知る 3）山川出版社、2013 年
- ②森伸生『サウディアラビア：二聖都の守護者』（イスラームを知る 19）山川出版社、2014 年
- ③子島進『ムスリム NGO：信仰と社会奉仕活動』（イスラームを知る 21）山川出版社、2014 年
- ④保坂修二『サイバー・イスラーム：越境する公共圏』（イスラームを知る 24）山川出版社、2014 年

(4) 「イスラーム原典叢書」シリーズの刊行

- ①アブデュルレシト・イブラヒム著、小松香織・小松久男訳『ジャポンヤ ― イブラヒムの明治日本探訪記』岩波書店、2013 年

各拠点別報告

【本編】

早稲田大学イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所

代表：桜井啓子（早稲田大学国際学術院・教授）

中心テーマ 『イスラームの知と文明』

イスラームの規範は、個人のレベルだけでなく、社会のレベルにおいても遵守されなければならない。ムスリムは、こうした教えを実践するために様々な社会活動に従事している。具体的には、イスラーム的な正義や相互扶助精神に基づく社会福祉活動、識字教育・職業訓練・クルアーン読誦などの教育活動、信仰強化のための布教活動、モスク・聖廟・孤児院など公共空間の整備、ムスリム・マイノリティの権利擁護活動などである。そして、これらの活動の多くを支えるワクフ、ザカート、サダカといった制度の背後には、イスラーム固有の理念が存在している。

早稲田大学拠点は第1期（2006-11年）において、二つの研究グループに分かれて研究活動を遂行した。

研究グループ「イスラームの知と権威：動態的研究」は、イスラームの政治運動や社会生活の実態を理解するために、イスラームに固有な知のありかた、あるいは地域社会における権威やリーダーシップの問題を、歴史と現状に照らして動態的に分析することを課題として研究を進めた。それを通じて、イスラーム的理念が社会的にどのように反映されてきたか、あるいは社会的状況が理念の中にどのような影響を与えてきたかを明らかにしてきた。

研究グループ2「アジア・ムスリムのネットワーク」は、ムスリムによる様々な実践活動（マドラサにおける宗教教育活動、イスラーム的 NGO、滞日ムスリムの宗教活動、回族知識人の活動）に関する研究をフィールド・ワークを中心に展開し、社会活動のさまざまな分野に関する新しい知見を獲得した。同時に、イスラームの理念や制度は、現実的な社会的実践と表裏の関係をなしていることが明らかにされてきた。

第2期においては、上記のような研究成果の上に立って、新しく研究課題を設定し直して、ムスリムの社会的実践の諸相をその背後にあるイスラーム的理念と関連づけながら明らかにする。これにより現代イスラームの理解を深めていくことを目標とする。

【研究事業名】

①総括事業

②研究グループ「イスラームの社会的実践とその理念」

代表：桜井啓子（早稲田大学国際学術院教授）

※研究組織については、資料編を参照。

【拠点形成の目的と意義】

当研究所は、前記の 5 拠点を結んで行われる共同研究の調整・とりまとめを行うことにより、中心拠点としての役割を果たす。各拠点が特色ある研究の拠点を形成し、これらをネットワークで結ぶことにより、全体としてイスラーム地域研究の重要拠点を形成することがねらいである。

第 1 期で立ち上げた当研究所の和文・英文のホームページを継続して運用し、5 拠点全体の研究計画、研究活動、研究成果、教育カリキュラム、国際交流の企画などについて新情報を提供する。また、現地の大学・研究所と提携することにより、イスラームに関する共同研究の実施、研究・教育に関する情報の収集と発信などを通じて、国際的な共同研究、学術交流における中心拠点を形成する。

早稲田大学における研究は、研究所の研究員を中心に、学内外の研究者の協力を得ながら、「イスラームの知と文明」というテーマに関わる研究を実施する。具体的には「イスラームの社会的実践とその理念」という課題をかかげ、これにより「総合的なイスラーム文明理解」を目的とする研究拠点の構築を目指す。また、これらと並んで、若手研究者育成を目的とする大学院教育の構築を目指す活動を展開する。

【2013 年度事業の目的と活動内容】

①2013 年度事業の目的

総括事業では、5 拠点のネットワークの拡充を、WEB、合同集会、研究推進連絡会議を通して拡充することを目指す。和文、英文両出版事業も継続する。また、拠点事業としては、「イスラームの社会的実践とその理念」に関する研究を推進するために、(1) 原典講読を通じた理念研究、(2) 社会的実践に関する調査研究、という二つの研究アプローチを採用する。後者に関しては、ムスリムがマイノリティである社会、ムスリムがマジョリティである社会の双方におけるイスラーム的实践を調査研究の対象とする。

②2013 年度事業の研究内容及び研究成果の概要

総括事業としては、5 拠点の連携を拡充するために合同集会（上智大学拠点主催）（1 回）、研究推進連絡会議（3 回）を開催した。イスラーム地域研究第 4 回国際会議をパキスタンのラホール経営大学（LUMS）にて 11 月 2～4 日に開催し、海外の研究者との議論を通じてイスラームとイスラーム地域に関わる諸問題についての議論を深化させることができた。またポスターセッションの導入により若手研究者の海外発信力を強化した。また講演会等への参加の呼び掛けや研究成果の国内外への発信のために、和文・英文による WEB サイトの充実に努めた。さらに WEB サイトを通じた多言語発信（アラビア語、ペルシア語、トルコ語、インドネシア語、マレー語、ウルドゥー語、中文、韓国語の 8 言語）も行った。その結果、サイトへのアクセスや国外からの問い合わせが増加するなど、確かな手ごたえを得た。

イスラーム地域研究・若手研究者の会（7 回）を実施し、若手研究者の育成と研究交流を支援した。また、歴史学研究会ヨーロッパ中近世史合同部会との合同シンポジウムを開催した。

海外研究者の招聘事業として、4 名（パキスタン、インド、トルコ、アルジェリア）を招聘し複数拠点において研究会、講演会を開催し、研究者の交流と意見交換を行った。

早稲田大学拠点の研究活動としては、(1) 原典講読を通じた理念研究を推進するために、『アラブ・イスラーム哲学における唯物論的諸傾向』研究会（5 回）、『イブン・ハルドゥーン自伝』読書会（11 回）および研究合宿（2 回）、ウマリー原典講読会（10 回）、イブン・スィーナー『治癒の書』研究会（2 回）、回儒の著作研究を進めるために研究会（1 回）および研究合宿（2 回）を実施し、訳出・注釈を進めた。

(2) イスラームの社会実践に関する調査研究においては、ムスリムがマイノリティである日本社会における事例研究推進のために、「第 6 回全国マスジド（モスク）代表者会議」を開催し、滞日ムスリムが抱える食生活に関する問題を議論し、課題を明らかにした。「イスラームとジェンダー」に関する研究会（2 回）を実施し、イラン家族法の訳出と家族法改訂をめぐる議論や論点を明らかにした。

イスラーム系宗教大学の国際的展開に関する研究会としては、プリンストン大学との共催で同大にて国際会議を開催し、イスラームにおける知の伝承において、特にハディースの分野で女性学者の貢献があったことを明らかにした。また、イランにおける宗教専門家の育成に関する研究会（1 回）実施した。また、鹿島学術振興財団研究助成との共催で中東の水資源の利用と文化背景に関する一般公開のシンポジウム（3 回）を開催した。海外派遣事業として、海外調査（イラン、モロッコ）を実施し、研究成果の海外発信と現地調査を進めた。

マラヤ大学と連携し早稲田大学にて国際セミナー「Islam and Multiculturalism: Coexistence and Symbiosis」
（日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業と共催）を実施し、海外の研究機関との共同研究
の推進、成果の社会還元を推進した。

出版事業においては、『イスラーム地域研究ジャーナル』第6号研究成果の公開に努めた。

【文責 桜井啓子】

※活動内容の詳細については、資料編を参照。

東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター・イスラーム地域研究部門

代表：大稔哲也（東京大学大学院人文社会系研究科・准教授）

中心テーマ 『イスラームの思想と政治：比較と連関』

中東と中央ユーラシアを主要な研究対象とし、18 世紀以降の近現代における思想と政治の動態にみちた相互関係を比較と連関の視点から実証的に研究することを目的とする。

【研究事業名】

研究グループ「近現代中東・中央ユーラシアの思想と政治」

代表：大稔哲也（東京大学大学院人文社会系研究科・准教授）

※研究組織については、資料編を参照。

【拠点形成の目的と意義】

本研究科は、これまでアジア文化研究専攻を中心として西アジア・中央アジア地域の歴史およびイスラームの思想と文化を研究する大学院生を育成し、日本のイスラーム研究を支える多くの若手研究者を送り出してきた。当該分野に関する博士論文も質量ともに確実に向上している。今回の拠点形成は、このような実績をふまえた上で、これまでになかった現代性を意識したイスラーム地域研究を立ち上げることにより、新しい研究領域の開拓をめざすとともに、従来の歴史、思想、文化研究に新たな展望を開くことを目的とする。そのために次世代人文学開発センター内に創設されるイスラーム地域研究部門に研究科の内外から専門研究者を招き、具体的な研究プロジェクトを実践・展開する中で若手研究者の育成をめざしたい。プロジェクト研究の成果を大学院教育に還元することも計画している。また、英語その他の言語による成果の国際的な発信に努めたい。

【2013 年度事業の目的と活動内容】

①2013 年度事業の目的

パレスチナ問題、中東・イスラーム諸国の民主化の研究を第一期より継続する。他方、「近現代における政治・社会思想の形成と動態」に関連したテーマとしては「近現代におけるウイグル人知識人の思想と政治的活動に関する研究」、「カザフスタンにおけるソ連時代の記憶」を主要課題として定め、新たに海外の研究者を迎えて研究ネットワークの強化を図りつつ研究活動を展開する。

②2013 年度事業の研究内容及び研究成果の概要

第 1 のテーマであるパレスチナ問題研究に関しては、2013 年がオスロ合意 20 周年にあたることに鑑み、合意におけるイスラエル側の交渉担当者を招聘して国際ワークショップを開催した。そこでは、イスラエルとパレスチナの共存、和平プロセス、難民の帰還、一国家・二国家論争などの焦眉の課題が討議された。継続的に行われた定例研究会でも、和平と二国家の併存や、抵抗運動等の様々な問題が、政治学・歴史学的アプローチによって検討された。なお、この研究領域において、今年度も若手研究者の活躍が目立ったことは特記すべきであろう。

第 2 の中東・イスラーム諸国の民主化研究に関しては、「アラブの春」後の各国の政治変動について詳細な検討と分析を行った。また、レバノンやエジプト出身の専門家を招聘して講演会を開催し、「アラブの春」やその後の政治変動が各国に与えた影響について議論した。そして、定例研究会では、マレーシア、パキスタン、イランの選挙について分析がなされた。さらに、エジプト、バングラデシュにおいて「2011 年アラブ革命」や民主化の現状に関する現地調査を行った。

第 3 の近現代における政治・社会思想の形成と動態の研究に関しては、近代エジプト社会におけるシャリーアの運用についてエジプトの第一人者を招聘して講演会を開催した。また、「カザフスタンにおけるソ連時代の記憶」研究では、海外研究協力者をクルグズスタンで開催された学会へ派遣した。「ソ連解体後のムスリム社会の変容に関する調査・研究」では、ウズベキスタンにおけるハラール食品の現状について現地調査を行った。「中央アジアにおける宗教文化と政治に関する文献研究」については、イランにおいて中央アジア史に関連するペルシア語史料の校訂出版準備と聖者廟の実地踏査を継続した。さらに「中央ユーラシア研究会」では、定例研究会のほか、イランのシーア派聖者廟研究の専門家を招き、国際セミナーを開催した。

研究成果の公刊については、東トルキスタン史に関する貴重な未公刊のテュルク語史料が、*The World as Seen from Yarkand: Ghulām Muḥammad Khān's 1920s Chronicle 'Mā Tīṭayniḥ wāqī'asi*、及び *The Autograph Manuscript of Muḥammad Amīn Bughra's Sharqī Turkistān Tārīkhi* として刊行されたことを特記しておきたい。

【文責 大稔哲也】

※活動内容の詳細については、資料編を参照。

上智大学研究機構 イスラーム研究センター

代表：私市正年（上智大学外国語学部・教授）

中心テーマ 『イスラーム近代と民衆のネットワーク』

近代以降のイスラーム（宗教・思想・文明など）の著しい特徴は、その地域的拡大と社会的深化にある。その原動力は政治的力によるよりも、民衆を主体とした人とモノと情報のネットワークの力による方が大きい。歴史的、地理的な広がりを見視野に入れつつ、民衆のネットワークによって形成されるイスラームの社会・文化・宗教の諸相や運動のダイナミズムを研究する。

【研究事業名】

研究グループ「イスラーム近代と民衆のネットワーク」

代表：私市正年（上智大学外国語学部・教授）

※研究組織については、資料編を参照。

【拠点形成の目的と意義】

当センターは、上智大学研究機構内の常設の研究所であるアジア文化研究所と密接な連携をとりつつ、外国語学部アジア文化研究室、大学院グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻における学部・大学院での教育活動と研究教育活動を軸として、学内外にその活動を展開していくことをめざす。

第1期で立ち上げた当センターは、将来的には上智大学研究機構内の常設のイスラーム研究センターとして改組されることを視野に入れて活動を行う。そのためには、学内的には学部、大学院、研究所と連携しつつ、学外および国際的には本学の海外カトリック・ネットワークとも協力しつつ、イスラーム研究の推進と組織化をはかる。

上智大学における研究は、研究センターのスタッフを中心に「イスラーム近代と民衆のネットワーク」というテーマに関わる研究グループを編成する。具体的には、第1期で得られた主要な成果、「政治運動から自立したイスラーム運動の社会的側面」、「民衆的イスラームの拡大と発展」、「東南アジアから、中東、アフリカまでをつなぐイスラーム・ネットワークの実態」の三つを共通研究課題として掲げ、この研究拠点の構築をめざす。

【2013 年度事業の目的と活動内容】

①2013 年度事業の目的

「イスラーム近代」「民衆」「ネットワーク」という三つの鍵概念が、歴史と現状のなかで現れる実態の分析をめざす。第一に、2011 年のいわゆる「アラブの春」をへたイスラーム運動がめざす方向、権力および民衆との関わりなどを各国のイスラーム運動組織の分析を通じて明らかにする。第二に、東南アジアのムスリムと近代に関して、特に教育、出版活動、国際認識、イスラーム運動に焦点を当て、東アジア、南アジアとの比較を視野に入れつつ国際共同研究を実施する。その一環として、東南アジア・キターブ・コレクションを本格的に公開して利用を促進するとともに、キターブ収集と目録改訂作業を継続する。第三に、スーフィズム・聖者信仰複合に関する研究の基礎作業として、研究の国際交流強化を推進し、CNRS の同一分野の研究者との連携による国際ワークショップ開催を年 1 回のペースで行う。加えて、これまでの研究蓄積の成果刊行を進める。

②2013 年度事業の研究内容及び研究成果の概要

昨年度に引き続き、アラブ諸国の政変に関する研究会、シンポジウム、合宿を開催した。政治と宗教の関係に注目しつつ、各国のイスラーム主義運動の事例分析を行うとともに、政変が発生しなかったアラブ諸国の政治・経済状況および政教関係を比較検討した。ヨルダン、チュニジアでの海外調査を行い、各国の政治情勢の調査を行った。フランス、アメリカでは研究資料の収集と研究者との意見交換を行った。イスラーム原典叢書シリーズ（岩波書店）の一冊として刊行すべく『ハサン・バンナー論考集』の翻訳作業を進め、仕上げの段階に到達した。加えて、チュニジアにおける女性解放運動の主要なイデオログであったターヒル・ハッダードの著作の一部を和訳し、出版した（SIAS Working Paper Series No. 20）。

また、上智拠点では、第 1 期イスラーム地域研究から継続して東南アジア各地のキターブ刊本を収集してきたが、これらの収集資料やその他のキターブを用いて、東南アジアのキターブの比較研究を継続した。それにより、研究会での議論を、比較の軸の設定や発展性のあるテーマの発見に結び付ける必要があるとの見解を得た。今年度はタイでキターブ収集を行い、その分類・整理およびカタログ化を行った。インドネシアから研究者を招聘して国際ワークショップを行った。加えて、拠点出版物（SIAS Working Paper Series No.21、No.22）を通して、2012 年度の国際ワークショップの成果を公開するとともに、1920～30 年代の世界情勢とマレー世界の関連についての議論を研究成果として公開した。

加えて、スーフィズム・聖者信仰に関しては、モノによって媒介される聖性、スーフィー教団の聖性について、京都大学拠点との連携により学際的かつ地域横断的な視点から研究した。若手研究者が主体の英語による国際ワークショップを開催し、若手研究者が自らの研究を国際的に発信するための訓練の場を提供した。ウズベキスタンの聖者廟を訪問し、聖者崇拝に関する状況調査を行った。京都大学拠点および CNRS と連携して、パリでスーフィズム・聖者信仰に関する国際ワークショップを開催した。

【文責 私市正年】

※活動内容の詳細については、資料編を参照。

**京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
附属イスラーム地域研究センター**

代表：小杉 泰（京都大学イスラーム地域研究センター・センター長・
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）

中心テーマ 『イスラーム世界の国際組織』

中東・南アジアを中心として、イスラーム世界に広がるさまざまな形態の国際組織やグローバル・ネットワークについて、その背景となっているウンマ論やイスラーム連帯論などの研究を進めるとともに、とくに国際関係・情報ネットワーク・広域タリカ・イスラーム経済・イスラーム法に関連する組織やネットワークの理念・実態・動向を研究し、現代イスラーム世界の理解を総合的に深めることをめざす。

【研究事業名】

研究グループ「イスラーム世界の国際組織とグローバル・ネットワーク」

代表：小杉泰（京都大学・教授）

※研究組織については、資料編を参照。

【拠点形成の目的と意義】

当センターは、京都大学、とくに大学院アジア・アフリカ地域研究研究科において、これまで展開されてきた文理融合による総合的地域研究とその研究成果をさらに発展させ、イスラーム地域研究の大学院教育および若手育成を推進する拠点を形成することをねらいとする。

第 1 期において研究科再編を通じて立ち上げたグローバル地域研究専攻、とくにイスラーム世界論講座と連携して、拠点間ネットワークの協力のもとに、大学院教育カリキュラムの開発、専門的教育のための資料収集、若手育成に資する「知のインフラ」整備、大学院レベルでの交流・協力を中心とする国際的ネットワーク作り、大学院での教育・研究に関する情報の収集と発信などを通じて、イスラーム地域研究の大学院教育および若手育成を推進する拠点を形成する。

京都大学における研究は、京都大学のスタッフを中心に「イスラーム世界の国際組織」に関わる研究グループを編成する。具体的には「イスラーム世界の国際組織とグローバル・ネットワーク」という課題をかかげ、国際関係・情報ネットワーク・広域タリカ・イスラーム経済・イスラーム法などをめぐる研究をおこなうと同時に、研究と大学院教育を架橋する拠点の構築を目指す。

【2013 年度事業の目的と活動内容】

①2013 年度事業の目的

「国際関係（国際組織・情報ネットワークを含む）」研究班、「広域タリカ」研究班、「イスラーム経済とイスラーム法」研究班が、地域研究間連携研究の推進事業「南アジアとイスラーム」と連携することで、研究の深化をともなった研究課題の遂行を目指して活動する。同時に研究課題と一体となった大学院教育・若手研究者育成を目指す。具体的には、研究活動、国際ワークショップ、拠点発行物に若手の参加を促していき、また研究活動を大学院教育にフィードバックさせていく。またさらなる国際交流の促進と拠点整備の充実を目指す。

②2013 年度事業の研究内容及び研究成果の概要

拠点全体の活動は以下の通りである。ブルネイ・ダールッサラム大学スルターン・オマル・サイフッディーン・イスラーム研究センターとの合同国際セミナーは、若手研究者育成の観点からも大きな成果を得、知的連携をともなった国際交流を展開するうで大変意義のあるものとなった。韓国地中海研究所との合同セミナーでは、イスラーム地域研究と地中海研究の強いつながりを再度確認することができた。グローバル研究セミナーは 2 度開催された。実践を通して得難い知識を得ることができるとともに、現代エジプトの事象を明らかにする点で成果を得た。

以下に、各研究班の活動を述べる。第 1 班はとくに連携事業との共催研究会、講演会を行うことで、これまで以上の成果を得ることができた。とくに現代インド地域研究の研究者が参加することで、両者の知的交流が促進されたことは大きな成果と言えるであろう。またオイルショック 40 周年・日章丸事件 60 周年に際して開催されたシンポジウムは、国際組織の問題のみならず、昨今のエネルギー問題に関する議論を行う上でも貴重な知識を得る機会となり、同時に成果を一般に還元する役割を果たした。第 2 班は従来通り、上智大学拠点と連携して活動した。1 回の研究会、1 回の研究合宿、2 回の国際ワークショップおよびフランス国立科学研究所（CNRS）との合同国際セミナーを開催し、各活動において若手に積極的な参加を促した。パリで開催された CNRS との合同国際セミナーは、スーフィズム・聖者信仰に係る諸相を明らかにするとともに、現地の研究者との交流を促進するものとなった。またラホール国際会議におけるセッションは、南アジアにおけるスーフィズム・聖者信仰の新たな事例を明らかにするとともに、連携研究の観点からも重要な寄与をなした。ウズベキスタンでの海外調査はとくに聖者信仰に関して新たな知見を与えるものであった。第 3 班は、研究会を 1 回、国際ワークショップを 2 回開催した。本年度はとくにイスラーム経済関連、とくにイスラーム金融に関するさまざまな問題を明らかにした。国際ワークショップの成果は『イスラーム世界研究』において公表された。

拠点整備については、ウルドゥー語文献の大型コレクションであるアキールコレクションの整理・登録を継続して行った。

【文責 小杉泰】

※活動内容の詳細については、資料編を参照。

公益財団法人東洋文庫研究部・イスラーム地域研究資料室

代表：三浦 徹（東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室・室長、
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科・教授）

中心テーマ 『イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓』

イスラーム地域研究の基盤となる、史資料の体系的な収集と整理、研究を組織的に行うための書誌・研究文献情報の編纂と普及、史資料学の開拓の 3 つの事業を進め、史資料の利用にかかわる環境を整備し、研究機関や研究者とのネットワークを構築し、史資料学の拠点をつくる。

【研究事業名】

研究グループ「イスラーム地域研究史資料ネットワークの構築」

代表：三浦徹（東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室・室長、
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科・教授）

※研究組織については、資料編を参照。

【拠点形成の目的と意義】

当拠点は、イスラーム地域研究の基盤となる書誌情報・文献情報の体系化（史資料学の開拓）と史資料の体系的収集・利用のための環境を構築し、史資料の組織的な利用にむけ、5 つの拠点をはじめ国内外の研究機関のネットワークを構築することを目的とする。

拠点構成員を中心に、史資料に関わる諸機関と連携し、「イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓」というテーマに関わる事業を推進する。研究課題を「イスラーム地域研究史資料ネットワークの構築」とし、イスラーム地域研究の史資料ネットワークを構築し、その拠点としての役割を果たす。

【2013 年度事業の目的と活動内容】

①2013 年度事業の目的

現地語史資料の所蔵・整理・利用環境に関する調査の結果を踏まえ、現地語史資料の体系的収集を継続し、共同利用を促進する。調査やアラビア文字資料司書連絡会等で得た情報や要望に基づき、現地語史料の整理・書誌データ作成のための補助ツールや資料の作成と公開、「日本における中東・イスラーム研究文献データベース」の編集をはじめとする関連データベースの拡充を進める。また、史料研究について、原典講読会および国内研究機関との連携による研究活動を実施し、研究情報の共有と若手研究者の育成をはかる。これらによって、史料および研究文献の収集と整理（情報化）と利用の 3 つの局面を連結したサイクルを築き、国際的な共同利用にむけた環境改善をはかる。

②2013 年度事業の研究内容及び研究成果の概要

現地の出版状況や、現地及び海外の研究動向を踏まえ、現地語資料および欧文研究書等の収集と整理を行った。「日本における中東・イスラーム研究文献データベース」は、データの更新と検索語の表記ゆれに対応するシステム改修を行い、登載文献数は 5 万件を超えた。本拠点が第一期から蓄積した史資料収集と文献情報システムに関わるノウハウを、拠点関係者の共同執筆により一般向けに書き下ろした『イスラームを学ぶ：史資料と検索法』（「イスラームを知る」シリーズ）を刊行したことは今年度の大きな成果といえる。目録作成のノウハウの蓄積や、文献情報の発信の取り組みの成果として、PNC2013NIHU 企画セッションにて発表を行い、毎年恒例のアラビア文字資料司書連絡会では、資料整理のノウハウの共有だけでなく、大学・研究機関間でのリソースの共有といった課題が提出され、東洋文庫拠点が更なる役割を果たすことが期待されている。拠点ホームページのリニューアルにより、研究成果や研究動向をより迅速かつ容易に発信できるようにした。学生と直に接して文献の検索方法や文献リストの作成方法を教える情報リテラシーセミナー（通算 3 回目）を開催し、研究の基礎となる文献検索スキルの向上を図った。

史料研究では、昨年度に引き続きオスマン民法典の翻訳を目的とした「シャリーアと近代」研究会を計 4 回行い、多分野の研究者や法実務家の共同作業によって「賃約の書」の最後（611 条）までの訳文を完成させた。同じく多分野の参加者からなるオスマン史研究会、近代中央ユーラシア比較法制度史研究会、中央アジア古文書セミナー、オスマン文書セミナーも開催した。これらのセミナーは学生が普段触れることのできない文書史料の読み方を学べる貴重な機会として定着し、学部生の参加も増え、史資料研究の裾野の広がりが見られる。本年度より「イスラーム圏におけるイラン式簿記術の成立と展開」研究会との連携も行い、扱う史資料もより多彩になっている。さらに、ラホール国際会議でのセッションに加え、国際セミナー「ワクフとイスラーム経済」の開催、北米中東学会のラウンドテーブルの共催など、国際的な史資料のネットワーク形成にも努めた。

【文責 三浦徹】

※活動内容の詳細については、資料編を参照。

各拠点別報告

【資料編】

早稲田大学イスラーム地域研究機構 イスラーム地域研究所

代表：桜井啓子（早稲田大学国際学術院・教授）

中心テーマ 『イスラームの知と文明』

【研究組織】

（研究拠点構成員）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
桜井 啓子	イスラーム地域研究所長、国際学術院教授	研究拠点代表 (比較社会学、地域研究)
西村 淳一	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究院准教授	研究グループ研究分担者 (イラン史)
吉村 武典	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構次席研究員	研究グループ研究分担者 (マムルーク朝史)
澤井 一彰	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構次席研究員	研究グループ研究協力者 (オスマン朝史)
店田 廣文	イスラーム地域研究所研究員、人間科学学術院教授	研究グループ研究分担者 (社会学、滞日ムスリム)
佐藤健太郎	イスラーム地域研究機構招聘研究員、北海道大学大学院文学研究科准教授	研究グループ研究分担者 (マグリブ・アンダルス史)
深見奈緒子	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究院教授	研究グループ研究協力者 (イスラーム建築)
鈴木 恵美	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究院准教授	研究グループ研究協力者 (近現代エジプト)
野田 仁	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究院准教授	研究グループ研究協力者 (中央アジア、カザフスタン史)
砂井 紫里	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究助手	研究グループ研究協力者 (中国の回族社会)
秋山 徹	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究助手	研究グループ研究協力者 (中央アジア、クルグス史)

岡井 宏文	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究助手	研究グループ研究協力者 (日本のイスラーム)
貫井 万里	イスラーム地域研究機構招聘研究員、(公財) 日本国際問題研究所研究員	研究グループ研究協力者 (近代イラン経済)
佐藤 尚平	イスラーム地域研究機構招聘研究員、金沢大学人間社会研究域法学系准教授、	研究グループ研究協力者 (国際関係、湾岸近現代政治)
小島 宏	イスラーム地域研究所研究員、社会科学総合学院教授	研究グループ研究協力者 (人口政策論)
新保 敦子	イスラーム地域研究所研究員、教育・総合科学学術院教授	研究グループ研究協力者 (中国教育史、中国ムスリム研究)
小松 香織	イスラーム地域研究所研究員、教育・総合科学学術院教授	研究グループ研究協力者 (オスマン朝史)
中町 信孝	イスラーム地域研究機構招聘研究員、甲南大学文学部准教授	研究グループ研究協力者 (マムルーク朝史)
日下部達哉	イスラーム地域研究機構招聘研究員、広島大学教育開発国際協力研究センター准教授	研究グループ研究協力者 (比較教育学)
錦田 愛子	イスラーム地域研究機構招聘研究員、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教	研究グループ研究協力者 (パレスティナ研究)
アブドゥル・カリーム・ラーフェク	イスラーム地域研究機構招聘研究員、ウィリアム&メアリ大学教授	研究グループ研究協力者 (オスマン朝期シリア)
アフマド・ハサン・サイード	イスラーム地域研究機構招聘研究員、ベングリオン大学講師	研究グループ研究協力者 (比較政治)
ムハンマド・アフイーフィー	イスラーム地域研究機構招聘研究員 カイロ大学文学部歴史学科教授	研究グループ協力者 (オスマン朝期エジプト史)

研究グループ：「イスラームの社会的実践とその理念」

(研究グループメンバー)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
桜井 啓子	イスラーム地域研究所長、国際学術院教授	研究グループ代表 (比較社会学、地域研究)
店田 廣文	イスラーム地域研究所研究員、人間科学学術院教授	研究分担者 (社会学、アジア社会論)

佐藤健太郎	イスラーム地域研究機構招聘研究員、北海道大学大学院文学研究科准教授	研究分担者 (マグリブ・アンダルス史)
オマール・ファルーク	イスラーム地域研究機構招聘研究員、アル＝ブハーリー国際大学副学長、教授	研究分担者 (比較政治学)
ゴルナー・メフラン	アルザフラー大学教育心理学部准教授	研究分担者 (教育心理学)
西村 淳一	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究院准教授	研究分担者 (イラン史)
吉村 武典	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構次席研究員	研究分担者 (マムルーク朝史)

(研究グループ海外共同研究者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
ステファン・ハンフリーズ	カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授 (アメリカ合衆国)	イスラーム史
ファリバー・アーデルハーン	国際関係調査研究センター (CERI) 上級研究員 (フランス)	人類学

(研究グループ研究協力者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
青木 隆	日本大学文理学部教授	中国哲学
秋山 徹	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究助手	中央アジア、クルグス史
阿久津正幸	東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター・イスラーム地域研究部門特任研究員、東洋大学国際地域学部非常勤講師 (東京大学拠点研究協力者)	イスラームの歴史における教育と社会
伊藤 隆朗	神戸大学文学研究科准教授	マムルーク朝史
大足 恭平	イスラーム地域研究所招聘研究員 青山学院大学情報科学研究センター助手 (東京大学拠点研究協力者)	イラン近現代史

岡井 宏文	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究助手	日本のイスラーム
岡本 恵	神戸大学大学院文学研究科博士後期課程	シリア史
五十嵐大介	イスラーム地域研究東京大学拠点特任研究員	中世アラブ史
石川 基樹	早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程	高齢社会論・社会調査論
上山 一	筑波大学北アフリカ研究センター・研究員	イスラーム金融・経済
北爪 秀紀	早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程修了	日本のモスク研究
木村 伸子	早稲田大学大学院文学研究科博士課程	マムルーク朝研究
日下部達哉	イスラーム地域研究所招聘研究員、広島大学教育開発国際協力研究センター准教授	比較教育学
栗田 禎子	千葉大学文学部教授	アラブ近現代史
黒岩 高	武蔵大学人文学部教授	中国ムスリム社会史
高野 太輔	大東文化大学国際関係学部准教授	初期イスラーム史
小島 宏	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学社会科学総合学術院教授	人口政策論
後藤 絵美	日本学術振興会特別研究員 PD（東京大学東洋文化研究所）	地域研究、イスラーム文化研究
小林 春夫	東京学芸大学人文社会系教授	イスラーム思想史
小松 香織	イスラーム地域研究所研究員、教育・総合科学学術院教授	オスマン朝史
近藤 真美	龍谷大学文学部准教授	中世シリア史
砂井 紫里	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学イスラーム地域研究機構助手	文化人類学、食文化研究
佐藤 尚平	イスラーム地域研究機構招聘研究員、金沢大学人間社会研究域法学系准教授	国際関係、湾岸近現代政治

佐藤 実	大妻女子大学比較文化学部准教授	中国イスラーム思想
清水 和裕	九州大学大学院イスラーム文明史学科教授	初期イスラーム史
新保 敦子	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授	中国教育史、中国ムスリム研究
杉山 隆一	早稲田大学イスラーム地域研究機構招聘研究員、慶應義塾大学言語文化研究所特殊講座講師	サファヴィー朝史
鈴木 恵美	イスラーム地域研究所研究員、早稲田大学イスラーム地域研究機構研究院准教授 (東京大学拠点研究協力者)	現代エジプト政治
田島 大輔	立命館大学文学研究科人文学専攻博士後期課程	中国ムスリム近代史
谷口 淳一	京都女子大学文学部教授	中世シリア史
千代崎未央	千葉大学大学院文学研究科博士課程	中東近現代史
太田（塚田） 絵里奈	慶應義塾大学大学院文学研究科後期博士課程	中世アラブ社会史
中西 竜也	京都大学白眉センター・特定助教 (上智大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	中国のイスラーム
中町 信孝	イスラーム地域研究所招聘研究員、甲南大学文学部准教授	マムルーク朝史
中村 妙子	早稲田大学イスラーム地域研究機構招聘研究員	中世シリア史
貫井 万里	イスラーム地域研究機構招聘研究員、(公財) 日本国際問題研究所研究員 (上智大学拠点研究協力者)	近代イラン経済
子島 進	東洋大学国際地域学部准教授	文化人類学、南アジア地域研究
野田 仁	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域研究機構研究院准教授 (東京大学拠点研究協力者)	中央アジア、カザフスタン史
橋爪 烈	千葉科学大学薬学部専任講師	アッバース朝研究

平野 淳一	日本学術振興会特別研究員 PD（千葉大学大学院 社会文化研究科） （京都大学拠点研究協力者）	近代イスラーム政治思想、中東地 域研究
深見奈緒子	イスラーム地域研究所研究員、イスラーム地域 研究機構研究院教授	イスラーム建築
福島 康博	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 所特任研究員	イスラーム金融論、マレーシアの 社会経済
細田 和江	中央大学政策文化総合研究所準研究員	中東地域研究、イスラエル文学
堀井 聡江	桜美林大学リベラルアーツ学群専任講師 （東洋文庫拠点研究協力者）	イスラーム法、エジプト民法
森田 豊子	鹿児島大学非常勤講師	現代イラン
森山 央朗	同志社大学神学部准教授 （上智大学拠点、京都大学拠点研究協力者）	初期イスラーム史、10～12 世紀マ シュリク地域におけるハディース 学者の社会的・文化的活動
矢島 洋一	京都外国語大学非常勤講師 （上智大学拠点、京都大学拠点研究協力者）	スーフィズム史
湯川 武	早稲田大学イスラーム地域研究機構招聘研究員	ムスリム知識人問題
横内 吾郎	京都大学文学部非常勤講師	ウマイヤ朝史

【2013 年度事業の活動内容】

1. 拠点整備

昨年度に引き続き、2013 年度も NIHU 研究派遣員や早稲田大学の経費による雇用を含むイスラーム地域研究機構専任の研究員を中心に、拠点として充実したメンバーで活動を行った。早稲田大学内に個人研究室、共同研究室、資料室、機構長室、事務室の計 11 部屋を早稲田大学からの研究および事務スペースとして供与された（早稲田大学早稲田キャンパス 120 号館、9 号館）。また、大学経費により雇用された 3 名の事務専従の職員も早稲田大学拠点および 5 拠点全体の研究活動とネットワークを大きく支えている。

中心拠点としてイスラーム地域の 5 拠点全体の情報集約・連絡調整をはかるため、継続してメーリングリスト（ias@islam.waseda.ac.jp）を運営し、イスラーム地域研究全体の周知、広報活動につとめた。本年は研究者以外に学部学生、一般からのメーリングリストへの加入依頼の問い合わせが増加し、メーリングリスト自体の認知度が上がってきていることがうかがえた。また、2013 年度には 5 拠点全体の活動内容の周知を強化するため「NIHU プログラム・イスラーム地域研究」のポータルサイトを刷新した（<http://www.ias-network.jp/>）。新ポータルサイトではアラビア語ほかイスラーム地域の主要のほか中文、韓国語等の東アジア言語を含む 8 言語（アラビア語、ペルシア語、トルコ語、インドネシア語、マレー語、ウルドゥー語、中文、韓国語）での研究プログラムの発信を目指し、ポータル上で公開した。

（吉村武典）

2. 研究・教育活動

(1) 拠点全体としての活動（総括事業）

① 「働く日本人のイスラーム」シリーズ

主催：早稲田大学イスラーム地域研究機構

概要：本シリーズでは、イスラーム地域で実際に働いた経験のある日本人に毎回登壇いただき、学生に向けて講演していただいた。彼らは、研究者とは異なった目線から、イスラーム教徒の価値体系や行動様式の特性、とりわけビジネスにおける文化や習慣の相違や意外な類似性をはじめとして、ユニークな知見を有している。本シリーズを通して、従来正面から光が当てられることがなかった、そうした「現場の知」を学生に還元・提供することができた。学生にとって、普段の講義とは趣を異にする本シリーズは、従来の講義で得た知識を別の角度から確認する機会になったばかりでなく、イスラーム地域の普遍性と多様性について認識を新たにできる機会にもなった。イスラーム地域が日本企業の新たな有望市場として注目が集まりつつある現在、本シリーズは、イスラーム地域と日本との相互交流ならびに相互理解の促進に寄与するであろう。

（秋山徹）

シリーズ第1回

日時：5月10日(金) 16:30～18:00

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 1号館 401 教室

講師：崎山望氏（三井物産株式会社 検査役）

シリーズ第2回

日時：5月24日(金) 18:30～20:00

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 11号館 702 教室

講師：江藤美奈氏（元・在タジキスタン日本大使館外部嘱託員）

シリーズ第3回

日時 6月7日(金) 16:30～18:00

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 11号館 702 教室

講師：松本洋氏（石油資源開発株式会社 国内事業本部 操業部生産管理グループ長）

勤務地：オマーンおよびインドネシアにおいて油田開発事業に携わる。

シリーズ第4回

日時：6月14日(金) 18:30～20:00

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 11号館 702 教室

講師：宮崎拓氏（日本貿易振興機構 海外投資課 課長代理）

勤務地：ドバイほか

シリーズ第5回

日時：7月10日(金) 18:30～20:00

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 11号館 702 教室

講師：大倉忠人氏（某国内映像機器メーカー）

勤務地：マレーシア、キルギス共和国

シリーズ第6回

日時：7月19日(金) 16:30～18:00

場所：早稲田大学西早稲田キャンパス 54号館 102 教室

講師：福島晴夫氏（福島技術士事務所）

勤務地：トルコ、カタール

シリーズ第7回

日時：10月21日(月) 16:30～18:00

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 22号館 502教室

講師：高橋弘司氏（元毎日新聞カイロ支局長／現在横浜国立大学教育人間科学部准教授）

勤務地：エジプト

シリーズ第8回

日時：11月18日(月) 16:30～18:00

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 11号館 902教室

講師：浜地道雄氏（一般財団法人グローバル人材開発顧問）

勤務地：サウディアラビアほか

シリーズ第9回

日時：12月9日(月) 16:30～18:00

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 22号館 502教室

講師：安藤公秀氏（三菱商事パキスタン総代表）

勤務地：パキスタン、エジプト、イラク、サウディアラビア、マレーシア、インドネシア

②公開講演会「エジプト・モルシ大統領就任から1年～ムスリム同胞団政権の活動と成果～」

日時：2013年7月11日(木) 16:30～18:00

場所：早稲田大学 11号館 603教室

講演者：アブドゥッラフマーン・鈴木登氏

概要：エジプト在住43年のアブドゥッラフマーン・鈴木登氏を講師として、モルシ政権の1年間の政策内容について、経済政策を中心に講演を行った。モルシ政権下で行われた農業の作付け自由化による小麦生産量の増加、スエズ運河地帯の経済特区構想を取り上げ、ムバーラク政権下の社会矛盾や経済格差の是正策を新聞各紙の論調の違いを踏まえながらその背景を分析した。会場からも同胞団政権に対する肯定的、批判的質問が多く寄せられた。

（吉村武典）

③A. F. マシュー氏講演会（早稲田大学）

日時：2014年2月4日(火) 16:30～18:30

場所：早稲田大学 120-4号館 405会議室

演題：Hindu Nation and the Outsider

概要：A. F. マシュー Mathew（インド経営研究所（Indian Institute of Management (IIM), India）准教授）

氏は、現代インドにおける人権やマイノリティの問題について幅広い見地から研究を行っているインド人研究者である。本講演では、ヒンドゥー・ナショナリズムの核とも言うべきヒンドゥトヴァ Hindutva 概念について、19 世紀以降のその形成の歴史的過程と現代インド政治への影響、また同思想においてインドのムスリムがよそ者／他者として位置付けられていることを解説した。

(西村淳一)

④A. F. マシュー氏講演会（京都大学）

日時：2 月 6 日（木） 15:00～17:00

場所：京都大学総合研究 2 号館 4 階第 1 講義室（AA401）

概要：マシュー氏は、インドのナショナリズムの問題性について、現在のインドとパキスタンにまたがるカシュミール地方の人びとの人権擁護という立場から批判的に考察した。同地方は、例えばカシュミール・ナショナリストのシェイフ・アブドゥッラーが望んでいたように、独立すべきだ、とマシュー氏は主張した。討論では、同地方の人びとが現在本当に独立を望んでいるかどうかや、インドにおけるヒンドゥー・ナショナリスト政党の台頭をいかにみるかなどについて議論がなされた。

(石坂晋哉)

⑤E. アッティラ・アイテキン氏講演会（早稲田大学）

日時：2014 年 3 月 3 日（月） 16:30～18:30

場所：早稲田大学 26 号館 701 教室

講演者：E.アッティラ・アイテキン氏（中東工科大学、トルコ）

演題：“Ottoman Belgrade, 1817-1867: Autonomy, Dual Administration and Production of Space

概要：19 世紀バルカン史を専門とするアッティラ・アイテキン（Dr. E. Attila Aytakin）氏による講演会が開催された。この講演では、オスマン朝宗主権下にあったセルビアが一定の自治権を享受しつつ国民国家へと変貌を遂げていく過程について、ベオグラードという特殊な空間を取り上げた。

アイテキン氏はこの時期のベオグラードの特徴として、オスマン朝とセルビア、それぞれの行政組織や司法組織がひとところに同時に存在するという「二重性」を挙げ、その中でムスリム、キリスト教徒、ユダヤ教徒たちが、互いに混交しつつ暮らしていたことを指摘した。

(澤井一彰)

⑥E. アッティラ・アイテキン氏講演会（京都大学）

日時：2014 年 3 月 5 日（水） 16:00～18:00

場所：京都大学本部構内総合 2 号館 4 階第 1 講義室（AA401）

講演者：E.アッティラ・アイテキン氏（中東工科大学、トルコ）

演題：“Agrarian Relations, Reform, and Peasant Protest in the 19th-century Ottoman Empire”

概要：3月3日の講演に引き続いて、アッティラ・アイテキン氏による講演が行われた。この講演では、タンズィマート期に起こった変化に対し、農民たちがいかなる反応を示したのかについて、1849-50年にブルガリアの Vidin で起こった反乱、1840年代－60年代に黒海沿岸の Canik で起こった反乱、1858-61年のレバノンの Kisrawan で起こった反乱を事例に説明がなされた。

従来の研究ではこの時期、政府当局が農民の土地を保護することに力を注いでいたとされてきたが、実際は政府に対して融資を行う徴税請負人との関係性を保つため、政府は農民の救済にあまり積極的ではなかったとするアイテキン氏の考えが提示された。

(澤井一彰)

⑦アウラングゼーブ・ハニーフ氏講演会（早稲田大学）

日時：2014年3月15日(土) 16:00～18:00

場所：早稲田大学 26号館 502教室

演題：Manqūlāt over Ma`qūlāt: The curricula of contemporary Madrasas in Pakistan in comparison with the Muslim past

概要：アウラングゼーブ・ハニーフ Aurangzeb Haneef（ラホール経営大学）氏は、国際的な平和構築や紛争調停を専門とするパキスタン人若手研究者である。本講演会では、現代パキスタンのマドラサにおける教育カリキュラムが過去のものと比較してマーカーラート（理性の学問）よりもマンクーラート（伝承の学問）を重視する傾向にあることを指摘し、今後ムスリムが国際社会により貢献していくためには、この点の見直しを含む教育制度の改革が必要であると論じた。

(西村淳一)

⑧アウラングゼーブ・ハニーフ氏講演会（京都大学）

日時：3月11日(火) 16:00～18:00

場所：京都大学総合研究2号館4階大会議室（AA447）

概要：本講演会は、南アジアのマドラサ（イスラームの高等教育機関）で教授される学問分野とテキストを通して、南アジアにおけるイスラームの問題を考察するものであった。ムガル朝時代のマドラサ、19世紀に創設されたマドラサ、および20世紀に創設されたパキスタンの2つのマドラサのカリキュラム比較を通じて、教授される学問分野の変化が示された。さらに各学問分野についての詳細に加え、どうした学問がイスラーム文明を成り立たせたのかということや、社会的・政治的環境と知的活動の関係への言及もなされ、また今日の状況についての考察も行われた。質疑応答でも非常に活発な議論が交わされた本講演会は、歴史および現代までも視野に入れた大きなスパンをもつものであり、さまざまな示唆を含むものであった。

(今松泰)

⑨アルジェリアの貧困問題に関する講演会

日時：2014年3月25日(火) 17:30～19:00

場所：上智大学四谷キャンパス 10号館 10-B-105a 教室

講師：ラウーフ・カーシミー氏（アルジェ大学・CREAD 研究員、社会学部教授）

演題：“Poverty and Employment Policy: The Algerian Case”

概要：カーシミー氏は、アルジェリアにおける貧困問題を、とくに青年層に焦点を絞って論じた。報告の中心は、国による富の分配問題や雇用創出プランの失敗や青年たちの政府への信頼の欠落といった本質的な社会問題におかれた。またこのような研究は、信頼できる経済統計の不足やそもそも調査に対する許可問題（アンケートを含めて）などのため、きわめて困難であること、が主張された。さらに高い失業率や安定した職に就くことの難しさが結婚年齢の遅れという社会問題をも生じさせている、と指摘した。これらをめぐって討論が活発に行われた。

なお、カーシミー氏は3月27日（木）、名古屋の南山大学を訪れ、坂井信三教授と面会し、アルジェリアとマリの間でのイスラーム文化の差異について意見交換を行った。

（私市正年）

⑩イスラーム地域研究若手研究者の会

概要：2013年度は計7回の研究会を行った。本年度は昨年度まで近現代を対象にした発表が多かったことに比べ、前近代の歴史研究、思想史研究を含む多様な発表が行われ、若手研究者の研究対処の広がりや深化が垣間見られた。例年以上に参加者も増え、若手研究者の意見交換の場としての機能も向上した。各回ともコメンテーターによる的確な批判と質問により参加者と報告者との間に活発な議論、意見交換が行われた。

（吉村武典）

4月例会

日時：4月21日(日) 14:00～17:30

会場：東京大学（本郷キャンパス）法文1号館317教室

報告者：水上 遼氏（東京大学大学院人文社会系研究科博士課程）

発表題目：『イルハン朝下の一学者をとりまく知的世界：

イブン・アル＝フワティールとその著作『アダブ集成』の分析』

コメンテーター：西村淳一氏（早稲田大学イスラーム地域研究機構 主任研究員）

5月例会

日時：5月25日(土) 14:00～17:30

会場：東京大学（本郷キャンパス）法文1号館317教室

報告者：遠藤春香氏（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士後期課程）

発表題目：『シャラーニーによる神学的見解の統合の試み—『諸信条に対する巧緻な天秤』の分析から』

コメンテーター：竹下政孝氏（東京大学元教授）

7月例会

日時：7月7日（日） 14:00～18:00

会場：東京大学（本郷キャンパス）法文1号館317教室

報告者：若桑遼氏（上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻博士後期課程）

発表題目：「20世紀初頭チュニジアにおける女性解放思想：

ターヒル・ハッダード著『シャリーアと社会における我々の女性』（1930年）の分析から」

コメンテーター：鳥山純子氏（お茶の水女子大学大学院人間文化研究科ジェンダー学際研究専攻博士後期課程）

10月例会

日時：10月19日（土） 15:00～18:00

会場：早稲田大学120-4号館4階405・406会議室

報告者：田中悠子氏（京都大学大学院博士課程）

発表題目：「アッバース朝初期社会における『異端』：ザンダカ／ズインディーク迫害をめぐって」

コメンテーター：亀谷学氏（日本学術振興会特別研究員PD）

11月例会

日時：11月30日（土） 14:30～18:30

場所：早稲田大学120-4号館4階405・406会議室

報告者：赤川尚平氏（慶應義塾大学大学院法学研究科）

発表題目：「セーブル条約以後のイギリスにおけるクルド政策：対トルコ講和と委任統治の間で」

コメンテーター：佐藤尚平氏（金沢大学人間社会研究域法学系准教授）

2月例会

日時：2月22日（土） 14:30～18:00

場所：早稲田大学120-4号館4階405・406会議室

報告者：山崎典子氏（東京大学大学院総合文化研究科博士課程／日本学術振興会特別研究員（DC1））

発表題目：「アブデュルレシト・イブラヒムの中国旅行：ロシアのタタール人ウラマーが見た清末ムスリム社会」

コメンテーター：小松久男氏（東京外国語大学大学院総合国際学研究院特任教授）

3月例会

日時：3月15日(土) 14:30～18:30

場所：早稲田大学120-4号館4階405・406会議室

報告者：法貴遊氏（京都大学大学院文学研究科西南アジア史学専修・博士後期課程）

発表題目：「カイロ・ゲニザの医学関連史料について」

コメンテーター：矢口直英氏（国士舘大学非常勤講師）

⑩歴史学研究会ヨーロッパ中近世合同部会、早稲田大学イスラーム地域研究機構第1回合同シンポジウム「歴史叙述とアイデンティティーヨーロッパ史研究とイスラーム史の対話—」

日時：2014年2月1日(土) 13:30～18:00

場所：早稲田大学早稲田キャンパス8号館411教室

共催：歴史学研究会

報告者1：青谷秀行（明治大学）

発表題目：「中世後期ネーデルラントの出自神話とアイデンティティー君主・領邦・都市—」

報告者2：大塚修（日本学術振興会特別研究員（PD））

発表題目：「ペルシアの歴史からイランの歴史へ

—9～14世紀の歴史叙述における古代ペルシアの記憶—」

コメンテーター：森本一夫（東京大学東洋文化研究所）

司会：澤井一彰（早稲田大学イスラーム地域研究機構）

概要：本シンポジウムはイスラーム地域研究の枠組みを超え、ヨーロッパ史研究者との間に新たな研究交流の場を設けるとともに、地域を越えた新たな学知を見いだすために若手研究者の最新の研究を検討し合う試みの場として企画、開催された。今回のシンポジウムではアイデンティティが形成される過程を史資料から読み解くとともに、その史資料自体の成立過程にも着目し地域における歴史の形成と共有の問題を検討した。文書史料と叙述史料とのミクロとマクロの性質の差は認められるが、地域ごとに内的に要請、受容される共有の歴史像の成立過程には共通した性質がうかがえた。コメンテーターや参加者からは今回の地域を越えた歴史研究の対話の試みを高く評価され、特に若手研究者が中心として牽引し継続した議論を行うよう要請された。また参加者からは発表に対して多くの質問が寄せられ、活発な議論が行われた。今後の発展的な継続が望まれる。

（吉村武典）

(2)研究グループの活動

①ムスリム同胞団政権のエジプト経済復興政策に関する研究会

日時：2013年7月13日(土) 14:00～17:00

場所：早稲田大学早稲田キャンパス9号館316教室

報告者：アブドゥッラフマーン・鈴木登

発表題目：「ムスリム同胞団政権のエジプト経済復興政策：スエズ運河地帯の再開発計画とスクーク債発行に対するアズハルの見解を通して」

概要：2011年1月25日のエジプト民主革命後、経済の復興が立ち遅れるエジプトにおいて、この経済問題を解決するためムルシ政権はスエズ運河地帯再開発計画を打ち出した。同計画は政府によるスクーク債の発行で費用をまかなうことが発表されたが、これに対しアズハル機構のトップ、アフマド・タイイブ氏が新聞紙上において、この債券の発行をエジプトの国土の切り売りとして、イスラーム法上の違法（ハラーム）行為であるという見解を示し反対した。モルシ大統領と同胞団による新政権の外貨獲得をめざした同経済復興政策の功罪と評価をエジプトの一般市民の声を交えた考察を行い、参加者との間で今後のエジプト政治・経済の動向について意見交換を行った。

（吉村武典）

②2013年度第1回「イスラームとジェンダー」研究会

日時：2013年11月29日（金） 18:30～20:30

場所：早稲田大学 11号館 5階 504教室

概要：本報告は、2011年に『別離』でアカデミー賞外国語賞を受賞したアスガー・ファルハディー監督作品『チャハールシャンベ・スーリー』（2006年）をとりあげ、映画に登場する3人の女性を通して、イランにおける「名誉」と「結婚制度」にについて議論した。参加者から、登場人物の背景やチャハールシャンベ・スーリーやノウルーズのお祭り、イランの一般的な夫婦像など、多岐にわたる質問が出た。議論の結果、「名誉」と「性」は、現在でもイラン社会において、人間関係を規定する重要な概念であるが、それが、イスラームの信仰に由来するか、あるいは、社会的な伝統によるものなのか、さらに深く探求する必要性があるとの見解で一致した。

（貫井万里）

③2013年度第2回「イスラームとジェンダー」研究会

日時：2014年2月7日（金） 18:00～19:30

場所：早稲田大学 120-4号館 4階 4-405・406会議室

概要：本発表では、在日パキスタン人ムスリム男性と結婚した日本人女性を事例として、超国境的に展開する家族形成の軌跡の複雑性を明らかにしたうえで、日本人女性ムスリムの宗教意識や実践がいかに変容しているかについて考察を行った。調査対象とした1980年代後期以降に来日したパキスタン人男性と結婚した女性たちが、自らがおかれた特定の社会経済的文脈や関係性のなかで、ムスリムとしてのあり方を交渉し、アイデンティティを形成していることについて報告がなされた。質疑応答の中で、他国との事例の比較しながら、トランスナショナルなアイデンティティ形成について議論がなされた。

（貫井万里）

④国際セミナー Islam and Multiculturalism: Coexistence and Symbiosis

日時：2013 年 12 月 20 日(金) 12:15～18:45、21 日(土) 9:00～17:30

場所：早稲田大学早稲田キャンパス総合学術情報センター3 階 第2 会議室

共催：マラヤ大学アジア・ヨーロッパ研究院、早稲田大学イスラーム地域研究機構、日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業「イスラームと多元文化主義—イスラームとの共生に向けた基礎的研究」、文部科学大臣認定 共同利用・共同研究拠点 早稲田大学イスラーム地域研究機構（イスラーム地域研究拠点）、早稲田大学重点領域研究機構アジア・ムスリム研究所、科学研究費補助金 基盤研究(B)「東アジア諸国におけるムスリムと非ムスリムの共生」（研究代表者：小島宏）、科学研究費補助金 基盤研究(C)「滞日ムスリムに関する住民意識の三地域比較調査研究と多文化政策再考」（研究代表者：店田廣文）

概要：2 つの基調講演と 7 つの個別セッションからなる本セミナーでは、グローバル化が進む現代において、宗教や出自の異なる人々が、お互いのアイデンティティを認めながらどのように共存・共生していくのかを問うた。日本・マレーシア・台湾・韓国・タイ・インドネシアの研究者が、宗教的食規範と現代社会・歴史的居住環境・移民・教育・ジャウィ・環境保護等をテーマに、異なるディシプリンから、共生の歴史・実態と課題について報告し、多数の一般参加者とともに活発な議論を行った。

(砂井紫里)

プログラム

第1 日 12:15～18:45 MC: NODA Jin (Waseda University, Japan)

12:15-12:25 Opening Remark by SAKURAI Keiko (Director of Organization for Islamic Area Studies, Waseda University)

12:25-13:00 Keynote Address 1 by KOJIMA Hiroshi (Director of Institute for Asian Muslim Studies, Waseda University)

13:45-15:15 Session 1 : The Symbiosis of Muslims and Non-Muslims in East and Southeast Asian Societies

Convener and Chair: KIMURA Mizuka (Osaka University, Japan)

Speakers:

- KUO Wen-Ban (National Taipei University, Taiwan)
- Aree Jampaklay (Mahidol University, Thai)
- MURATA Hisashi (International Pacific University, Japan)

Commentator: JOH Young Joo (Hanyang University, Korea)

15:30-17:00 Session 2 : Islam, Education and Multiculturalism

Convener and Chair: Omar Farouk (Albukhary International University, Malaysia/Waseda University, Japan)

Speakers:

- Mohd Aderi Che Noh (Universiti Kebangsaan Malaysia, Malaysia)

- KUDO Masako (Kyoto Women's University, Japan)
- SHIMBO Atsuko (Waseda University, Japan)
- Shaikh Mohd Saifuddeen Bin Shaikh Mohd Salleh (University of Malaya, Malaysia)

17:15-18:45 Session3 : Wisdom for Coexistence and Symbiosis through Historical Urban Residence

Convener: Yahaya Ahmad (University of Malaya, Malaysia)

Chair: FUKAMI Naoko (Waseda University, Japan)

Speakers:

- Yahaya Ahmad (University of Malaya, Malaysia)
- Norhaslina binti Hassan (University of Malaya, Malaysia)
- UTAKA Yushi (University of Hyogo, Japan)
- YAMADA Kyota (KYOTO University, Japan)

第 2 日 9:00~17:30 MC: SATO Shohei (Kanazawa University/ Waseda University, Japan)

9:00-9:30 Keynote Address 2 by Mohamad Abu Bakar (University of Malaya)

9:30-11:00 Session 4 : Perceptions and Attitudes toward Other Ethnic Groups in Multi-cultural Societies

Conveners: TANADA Hirofumi (Waseda University, Japan) and OKAI Hirofumi (Waseda University, Japan)

Chair: TANADA Hirofumi

Speakers:

- OKAI Hirofumi (Waseda University, Japan)
- ISHIKAWA Kiju (Waseda University, Japan)
- NG Sor Tho and TEY Nai Peng (University of Malaya, Malaysia)
- SIA Bik Kai (Universiti Tunku Abdul Rahman, Malaysia)

11:15-12:45 Session 5: Sharing Halal Values: Lifestyles and Interactions between Muslims and Non-Muslims

Conveners: Md Nasrudin Bin Md Akhir (University of Malaya, Malaysia), Siti Rohaini Kassim (University of Malaya, Malaysia) and SAI Yukari (Waseda University, Japan)

Chair: SATO Shohei (Waseda University/Kanazawa University)

Speakers:

- Nurulhuda Noordin (Universiti Teknologi MARA, Malaysia)
- HOSODA Kazue (Chuo University, Japan)
- SAI Yukari (Waseda University, Japan)
- Md Nasrudin Md Akhir, Siti Rohaini Kasim and Azmi Mat Akhir (AEI, University of Malaya, Malaysia)

Commentator: Winai Dahlan (The Halal Science Center, Chulalongkorn University, Thai)

13:45-15:15 Session 6: From Tradition to Vision: Construction of Digital Archives of Jawi Periodicals for Contemporary Usage

Convener and Chair: YAMAMOTO Hiroyuki (CIAS, Kyoto University, Japan)

Speakers:

- Muhammad Syukri Rosli (Klasika Media-Akademi Jawi Malaysia, Malaysia)
- Julien Bourdon-Miyamoto (CIAS, Kyoto University, Japan)
- TSUBOI Yuji (Oriental Library, Japan)
- MITSUNARI Ayumi (The University of Tokyo, Japan)

Commentator: Aizan Binti Ali @ Mat Zin (University of Malaya, Malaysia)

15:30-17:00 Session 7: Can Environmental Protection Be the Universal Values? : A Lesson toward Cooperation for Environmental Protection with/between Muslims from Case Studies on Indonesia

Convener and Chair: AOKI Takenobu (Chiba University, Japan)

Speakers:

- Mulyadi (Gadjah Mada University, Indonesia)
- Rachmad K Dwi Susilo (University of Muhammadiyah Malang, Indonesia)
- AKUTSU Masayuki (Toyo University, Japan)
- AOKI Takenobu (Chiba University, Japan)

17:00-17:30 Closing Remark by Md Nasrudin Bin Md Akhir (Executive-Director, Asia-Europe Institute, University of Malaya)

⑤第6回全国マスジド（モスク）代表者会議

日時：2014年2月9日（日） 13:30～17:10

場所：早稲田大学国際会議場第3会議室

概要：今回の会議では、マスジドの持続可能性をテーマとして、主催者側から問題提起を積極的に行い、パネルディスカッションでは、地域社会との関係構築、宗教法人格の取得、次世代教育、日本企業のハラール対応サポート等、最前線の活動が整理され将来を見据えた議論が展開された。現在の課題についても今まで以上に切り込んだ形でリプライがなされ、これまで十分に明らかになっていなかった領域にも光を当てながら議論することができるという得がたい機会となった。後継者問題を受けて第2世代にあたる青年からの発言は「日本のイスラーム」の将来像を窺わせるものであった。

（店田廣文、岡井宏文）

⑥黒田賢治氏講演（第2回イスラーム地域研究セミナー）

日時：2014年3月13日（木） 16:00～18:00

場所：早稲田大学26号館502教室

演題：「法学者の統治」体制下における国家と宗教界——ハウゼの展開を中心に

概要：科学研究費補助金 基盤研究(B)「中東・アジアのイスラーム系宗教大学の留学生獲得戦略—知

のグローバル化とローカル化」(研究代表者：桜井啓子)との共催で研究セミナーを実施した。現代イスランのシーア派法学者育成機関である「ハウゼ」については不明な点が多い。本セミナーでは、日本学術振興会特別研究員の黒田賢治氏が、フィールドワークで得られた知見や画像資料をもとに、特にゴムとマシュハドの事例を中心に、その理念と実態、また国家との関係性などについて論じた。

(西村淳一)

⑦国際ワークショップ“‘Ālimahs, Muhaddithahs, and Mujtahidahs’: The Past and Present of Female Religious Authority in Shi‘i Islam”

日時：2014年3月6日(木)～3月8日(土)

場所：プリンストン大学

共催：プリンストン大学宗教学研究、科学研究費補助金 基盤研究(B)「中東・アジアのイスラーム系宗教大学の留学生獲得戦略—知のグローバル化とローカル化」(研究代表者：桜井啓子)

概要：プリンストン大学の Dr. Mirjam Künkler と国際ワークショップ“‘Ālimahs, Muhaddithahs, and Mujtahidahs’: The Past and Present of Female Religious Authority in Shi‘i Islam” を共催した。女性学者という視点から、イスラーム初期から現代までのイスラームにおける知の継承において、女性がどの程度、またどのように関わってきたのかについて多様な事例を提示しながら、討議した。ハディースの伝承における女性学者の貢献については史料による裏付けが可能だが、法学の分野については、事例が少なく、さらなる研究が必要であることが明らかとなった。

(桜井啓子)

⑧シンポジウム「中東・北アフリカにおける水資源管理の歴史・文化・社会」

日時：2014年3月7日(金) 9:30～17:30

場所：秋田大学図書館2F研修室

共催：日本沙漠学会沙漠誌分科会、科学研究費補助金 基盤研究(B)「モノの世界から見た中世イスラームの女性—ガラス器と陶器を中心に」(研究代表者：真道洋子)、総合地球環境学研究所プロジェクト「アラブ社会におけるないわい生態系の研究—ポスト石油時代に向けて」、鹿島学術振興財団研究助成「乾燥地域における水資源管理をめぐるイスラーム的合意形成—ナイル川流域とアラビア半島の比較」(研究代表者：桜井啓子)

概要：2013年度中に行ってきた2回のシンポジウムを踏まえ、中東・北アフリカ地域における乾燥地域の水資源の管理、利用について、人類学、歴史学、国際関係論の立場から、各報告者のフィールド調査に基づく研究報告を行った。報告に対して牛木久雄氏、真道洋子氏より水資源の実務的な観点と考古学の観点から講評を行い、統合的な議論への足がかりとした。また、研究成果の刊行についても話し合いを行った。

(吉村 武典)

プログラム

総合司会：深見奈緒子（早稲田大学イスラーム地域研究機構）

9:30～10:20 佐藤尚平（金沢大学）「乾燥地域における水資源管理についての試論：アブダビの調査報告から」

10:20～11:10 吉村武典（早稲田大学イスラーム地域研究機構）「前近代エジプトにおけるナイル治水と環境」

11:10～12:00 石本雄大（総合地球環境学研究所）「西アフリカ乾燥地域における食料確保のための水管理」

13:40～14:30 石山俊（総合地球環境学研究所）「サハラ・オアシスにおける水供給の変化とナツメヤシ農業」

14:30～15:20 スコット・モリソン（秋田大学国際資源学部）「イスラーム銀行のコーポレート・ガバナンス」

15:40～16:30 縄田浩志（秋田大学国際資源学部）「アラブ社会のなりわい生態系と水資源管理」

コメント

16:30～16:45 牛木久雄（日本沙漠学会沙漠誌分科会）

16:45～17:00 真道洋子（早稲田大学イスラーム地域研究機構）

17:00～17:30 議論

⑨イブン・ファドル・アッラー・ウマリー原典講読会（全10回）

日時：2013年4月27日（土）、5月18日（金）、6月15日（土）、7月20日（土）、9月21日（金）、

11月9日（土）、12月21日（土）、2014年1月11日（土）、2月15日（土）、3月8日（土）

13:00～18:00

場所：京都女子大学 J校舎3階 J303-1（谷口研究室）、J303 教室、龍谷大学大宮学舎南翼101 教室

概要：本年度のイブン・ファドル・アッラー・ウマリー原典講読会は、昨年度に引き続き『高貴なる用語の解説』第2章の訳注作成を進めた。今年度読解した範囲には、各法学派裁判官、軍団の裁判官、市場監督官の「指示部分」が収録されている。その読解によって、これらの職について具体的な知見を得ることができた。また、2010年後半から2011年末にかけて読解した範囲の訳注を『史窓』第71号において公刊し、中世イスラーム制度史研究の進展に寄与した。

（谷口淳一）

⑩『アラブ・イスラーム哲学における唯物論的諸傾向』読書会（全5回）

日時：2013年6月1日（土）14:00～17:00、8月3日（土）14:00～18:00、11月30日（土）14:00～18:00、

12月15日（日）14:00～18:00、2014年2月22日（土）14:00～17:30

場所：早稲田大学120-4号館3階 4-309-2 会議室

概要：昨年度に引き続き、第一部「哲学的見方の発生以前」の中の第一章「ジャーヒリーヤについて」の部分の読解・討論を行ない、「ジャーヒリーヤ」（イスラーム出現以前）のアラビア半島における「d. アラブ文化の諸特徴」「e. 理性主義的見方の輪郭」「f. 宗教的諸現象」に関する諸節を読了した。20 世紀のアラブのマルクス主義者である著者フサイン・ムルーワが①ジャーヒリーヤ期の言語・文化状況をどのように捉え、その背景にどのような社会的・経済的要因を見てとっているのか、②宗教面では（イスラーム出現を準備したとも考えられる）「ハニーフの宗教」という概念・段階をどう評価するのか、さらに③アラブ「民族感情」の形成、「アラブ社会」の形成という問題をどのように捉えているのか、等をめぐり、活発な議論が行なわれた。これを踏まえて次年度は第二章「イスラーム出現期」の読解に進む予定である。なお、本年度の参加者は以下の通り：栗田禎子、長沢栄治、湯川武（6 月 1 日）、阿久津正幸、小林春夫、清水学、水島多喜男、鈴木則夫、勝沼聡（12 月 15 日）、平野淳一。

（栗田禎子）

⑪イブン・ハルドゥーン自伝読書会（研究会 11 回、合宿 2 回）

日時（研究会）：2013 年 4 月 6 日（土）、4 月 27 日（土）、6 月 1 日（土）、7 月 6 日（土）、9 月 7 日（土）、10 月 12 日（土）、11 月 9 日（土）、12 月 7 日（土）、2014 年 1 月 12 日（日）、2 月 1 日（土）、3 月 1 日（土）
13:00～19:00

場所：早稲田大学 120-4 号館 4-309-2 会議室

日時（合宿）：7 月 27 日（土）～29 日（月）、12 月 26 日（木）～28 日（土）

場所：早稲田大学伊豆川奈セミナーハウス

担当者：中村妙子、柳谷あゆみ、中町信孝、吉村武典、高野太輔、佐藤健太郎、橋爪烈

概要：昨年度に引き続き、毎月 1 回の定例読書会および年 2 回の合宿読書会を実施し、担当者が作成した訳稿の検討を進めた。今年度の検討箇所は、1372 年から 1382 年までのほぼ 10 年間に相当し、ビスクラでの生活を終えたイブン・ハルドゥーンが、再びフェス、グラナダ、チュニスなどの宮廷に出仕した時期、およびマグリブを離れてエジプトへと移住した時期の記述である。その間に、『歴史序説』を書き上げたイブン・サラマ城での隠遁期間も含まれている。

一方、夏季及び冬期の合宿を中心に、既に大意を確認した訳稿の再検討もおこなった。ここには、イブン・ハルドゥーンとイブン・アル＝ハティーブとの間で交わされた往復書簡や、書簡文学の傑作として知られるイブン・アル＝ハティーブの起草によるナスル朝君主からハフス朝君主宛ての書簡が含まれている。書簡文の翻訳は難航したが、当時の独特の修辞法についての理解は相当程度深まったと言える。その成果は、年度末に発行された『イスラーム地域研究ジャーナル』7 号に掲載された。

（佐藤健太郎）

⑫イブン・スィーナー『治癒の書』研究会（全 2 回：第 63、64 回研究会）

日時：2013 年 7 月 6 日（土）、12 月 7 日（土） 10:00～18:00

場所：早稲田大学 120-4 号館 3 階 4-309-2 会議室

概要：『治癒の書』「形而上学」第 7 章（カイロ版 pp. 43-44、マルムラ版 p. 35 第 2 段落～第 4 段落）の内容の検討と翻訳作業を行なった。参加者は研究者、学生、一般からなり、今回から新たに加わったメンバーもいた。検討した分量はけっして多くはないが、幅広い視点から活発な意見交換がなされ、内容的にはきわめて充実した研究会となったと自負している。今後とも、積み残した問題を再確認しながら着実に進めていきたいと考えている。

（加藤瑞絵・矢口直英）

⑬回儒研第 1 回研究会

日時：2014 年 1 月 26 日（日）、27 日（月）

場所：日本大学分理学部青木研究室

概要：17 世紀から 18 世紀にかけて活躍した中国ムスリム学者・劉智の代表的著作『天方性理』の読解・翻訳・注釈・解説の検討を行った。今回の研究会では、巻 3 の前半、とくに概言の文章の構造を分析することによって、巻 3 の特異性を議論した。

概言の意味内容を、巻 3 全体における位置づけという観点から検討し、理解を深めた。また佐藤が王岱輿『希真正答』の書誌学的情報を提供した。

（佐藤実）

⑭回儒研第 1 回合宿

日時：2014 年 3 月 21 日（金）～23 日（日）

場所：桜美林学園 伊豆高原クラブ

概要：17 世紀から 18 世紀にかけて活躍した中国ムスリム学者・劉智の代表的著作『天方性理』の読解・翻訳・注釈・解説の検討を行った。今回の合宿では、巻 3 の前半、概言の意味内容を、巻 3 全体における位置づけという観点から検討し、理解を深めた。また佐藤が王岱輿『希真正答』の書誌学的情報を提供した。

（佐藤実）

⑮回儒研第 2 回合宿

日時：2014 年 3 月 13 日（金）～15 日（日）

場所：桜美林学園 伊豆高原クラブ

概要：17 世紀から 18 世紀にかけて活躍した中国ムスリム学者・劉智の代表的著作『天方性理』の読解・翻訳・注釈・解説の検討を行った。今回の合宿では、巻 3 の前半、とくに人生元始図説、胚胎初化図説の注釈を補充し、さらに解説を訂正・加筆した。また所謂ミクロコスモス、マクロコスモスと、劉智の「大世界」「小世界」との相違について議論した。

（佐藤実）

3. 海外派遣・調査

(1)拠点全体としての活動（総括事業）

該当なし。

(2)研究グループ

①モロッコ調査

出張期間：2014年2月14日(金)～2014年2月23日(日)

出張先：モロッコ、モロッコ国立図書館、カラウィーイーン図書館

出張者：佐藤健太郎（北海道大学大学院文学研究科准教授）

概要：イブン・ハルドゥーン研究に必要な史料収集を目的として、モロッコ調査をおこなった。ラバトでは、モロッコ国立図書館において文献調査をおこない、主としてイブン・ハルドゥーン研究に必要な史料を収集した。またフェスでは、多くの手写本を所蔵するカラウィーイーン図書館を訪問した。この図書館はモロッコで最も古いモスクの一つであるカラウィーイーン・モスクに付属するもので、多くの手写本を所蔵している。その中には、カイロ移住後のイブン・ハルドゥーンがカラウィーイーン・モスクに寄進した自著の手写本が含まれている。残念ながら、『自伝』の手写本は所蔵不明となっていたが、彼の史書『イバルの書』の手写本を閲覧し、そのデジタル画像データを入手することができた。イブン・ハルドゥーン自身と同時代の手写本であるのみならず、代表的な『自伝』写本であるイスタンブールのアヤソフィヤ図書館所蔵手写本と同じ写字生が書いているなど、今後のイブン・ハルドゥーン研究に資するところがきわめて大きい手写本である。

(佐藤健太郎)

②イラン調査

出張期間：2014年2月18日(火)～2月27日(木)

出張先：イランテヘラン市内（ゲラーミーザデガーン氏自宅、文部省など）

出張者：森田豊子（鹿児島大学非常勤講師）

概要：早稲田拠点の研究課題「イスラームの社会的実践とその理念」のサブテーマのひとつである「イスラームとジェンダー」の研究にあたって必要な現地研究者と協力関係を築くことおよび資料の収集を行った。元国会議員で女性雑誌の編集者ゲラーミーザデガーン氏へのインタビューと家族保護法の成立についての意見交換、シャヒードベヘシュティー大学のシャハシャーニー氏と意見交換、文部省国際局の担当者との意見交換に加えて、書籍や資料の収集、裁判所の訪問などを行った。

(森田豊子)

4. 外国人研究者の招聘

(1) 拠点全体としての活動（総括事業）

海外研究者招聘

① 招聘者氏名：A. F. マシュー氏

所属（国籍）：インド経営研究所（インド）

日時：2014 年 1 月 31 日（金）～2 月 10 日（月）

活動概要：2 月 3 日に東京大学拠点のパレスチナ班第 7 回研究会「分割統治の政治学 - 中東、東アジア、南アジア比較の視点から」にて報告を行い、参加者と意見交換を行った。また 2 月 4 日に早稲田大学、6 日に京都大学において、ヒンドゥー・ナショナリズムとムスリムとの関係について、カシミール問題とも絡めつつ講演を行った。講演および質疑応答は英語で行われ、学生、一般を含めた聴衆と活発な議論を行った。講演の詳細については研究会活動報告を参照。

（西村淳一）

② 招聘者氏名：E. アッティラ・アイテキン氏

所属（国籍）：中東工科大学（トルコ）

日時：2014 年 3 月 1 日（土）～7 日（金）

活動概要：近代オスマン帝国経済史を専門とするトルコ、アンカラ中東工科大学（Middle East Technical University）を招聘し、3 月 3 日に早稲田大学、および 3 月 5 日に京都大学において講演を行った。講演は英語にて行われ、オスマン帝国末期のバルカン支配に関する講演とオスマン帝国末期の農地改革と抵抗運動について講演を行った。講演の詳細については各拠点の研究活動報告を参照。

（澤井一彰）

③ 招聘者氏名：アウラングゼーブ・ハニーフ氏

所属（国籍）：ラホール経営大学（LUMS）（パキスタン）

期間：2014 年 3 月 7 日（金）～16 日（日）

活動概要：3 月 11 日に京都大学、および 15 日に早稲田大学にてパキスタンにおけるイスラームと教育、知的活動に関する講演会を行った。講演および質疑応答は英語で行われ、学生、一般を含めた聴衆と活発な議論を行った。11 月に行われたイスラーム地域研究第 4 回国際会議の成果のとりまとめと論文集の出版や今後の研究協力について意見交換を行った。講演の詳細については研究会活動報告を参照。

（吉村武典）

④ 招聘者氏名：ラウーフ・カーシミー氏

所属（国籍）：アルジェ大学・CREAD 研究員、社会学部教授（アルジェリア）

機関：2014 年 3 月 23 日（日）～30 日（日）

活動概要：3月25日に上智大学にてアルジェリアの貧困問題に関する講演を行った。講演は英語、質疑は英語、フランス語、アラビア語で行われ、多言語により問題の詳細な議論を行った。講演以外の日は上智大学図書館にて資料収集、講演準備を行ったほか、南山大学の坂井信三教授と意見交換等を行った（3月27日）。講演の詳細については研究会活動報告を参照。

（吉村武典）

(2)研究グループ

該当なし。

5. 資料収集

該当なし。

6. 研究成果・発表（論文・図書等）

■拠点発行物

〔論文〕計（11）件

著者名	論文標題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
阿久津 正幸 （研究協力者）	「イスラーム世界のヒズメット ートルコ、エジプト、インドネシ アの事例報告」	『イスラーム地域 研究ジャーナル』	6	2014	23-30
『アラブ・イスラ ーム哲学におけ る唯物論的諸傾 向』読書会	「フサイン・ムルーワ著『アラ ブ・イスラーム哲学における唯物 論的諸傾向』2」	『イスラーム地域 研究ジャーナル』	6	2014	50-54
OKAI Hirofumi （研究協力者）	“Non-Muslim Japanese Residents' Attitudes toward Islam and Muslims - A Case Study of Fukuoka City”	<i>Islam and Multiculturalism: Coexistence and Symbiosis</i>		2014	139-150
SAI Yukari （研究協力者）	“Halal Policy, Practice, and Perceptions in China”	<i>Islam and Multiculturalism: Coexistence and Symbiosis</i>		2014	187-193
中町 信孝 （研究協力者）・ 橋爪 烈 （研究協力者）・ 原山隆広・ 吉村 武典 （研究分担者） （訳・注）、 佐藤 健太郎 （研究分担者） （注）	「イブン・ハルドゥーン自伝 6」	『イスラーム地域 研究ジャーナル』	6	2014	31-49
野田 仁 （研究協力者）	「日本から中央アジアへのまな ざしー近代新疆と日露関係ー」	『イスラーム地域 研究ジャーナル』	6	2014	11-22

深見 奈緒子 (研究協力者)	「南アジアの中世イスラーム建築史 — 東京大学インド史蹟調査団のデータベース」	『イスラームとインドの多様性 — NIHU「地域間連携研究の推進事業」(IAS-INDAS連携事業)』		2014	27-54
	「アジア・アフリカ学術基盤形成事業 イスラームと多元文化主義 — 共存と共生」	『イスラーム地域研究ジャーナル』	6	2014	65-70
	“Historic Mosques in Southeast Asia: A Comparative Architectural Study along Indian Ocean”	<i>Islam and Multiculturalism: Coexistence and Symbiosis</i>		2014	91-102
福島 康博 (研究協力者)	「三菱商事主催特別セッション New Developments and Prospects for Islamic Finance」	『イスラーム地域研究ジャーナル』	6	2014	12-14
森田 豊子 (研究協力者) (訳・註)、 佐藤 秀信・ 貫井 万里 (研究協力者)・ 細谷 幸子・ 山崎 和美 (註)	「「家族保護法」(1967年6月15日成立)」	『イスラーム地域研究ジャーナル』	6	2014	58-64

〔図書〕計(1)件

著者名	書名	出版社	巻	発行年	ページ
早稲田大学イスラーム地域研究機構	『イスラーム地域研究ジャーナル』	早稲田大学イスラーム地域研究機構	6	2014	120

〔学会発表〕計(17)件

発表者名	発表標題	学会等名	発表年月日	発表場所
秋山 徹 (研究協力者)	「近代中央アジア遊牧社会史の描きかた：クルグズを素材として」	第1回イスラーム地域研究セミナー	2013.5.29	東京・早稲田大学
Masayuki AKUTSU (研究協力者)	“Islamic View of Nature and the Evolution of Indonesian Muslim Society: Tawhīdic Pluralism through Spiritual Attitude toward Social Reality”	Islam and Multiculturalism	2013.12.21	東京・早稲田大学
OKAI Hirofumi (研究協力者)	“Perceptions of Islam and Muslims in a Local Community in Japan” (ポスター発表)	NIHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference	2013.11.2-4	Lahore, Lahore University of Management Sciences
	“Analysis of Perceptions toward Islam and Muslims in a Non-Muslim Japanese Community”	International Conference on Islam and Multiculturalism: Coexistence and Symbiosis	2013.12.21	東京・早稲田大学

Omar Farouk (研究分担者)	“Islam as Humanities in the Contemporary World”	NIHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference	2013.11.4	Lahore, Lahore University of Management Sciences
GOTO Emi (研究協力者)	“Reading Discourses on “the Role of Women”: The Case of Twentieth Century Egypt”	NIHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference	2013.11.3	Lahore, Lahore University of Management Sciences
SAI Yukari (研究協力者)	“The systematization of “Halal” Expansion and Convergence: A Case study in China” (ポスター発表)	NIHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference	2013.11.2-4	Lahore, Lahore University of Management Sciences
	“Halal mark, Culinary Image and Sharing Halal Values in China”	International Conference on Islam and Multiculturalism: Coexistence and Symbiosis	2013.12.21	東京・早稲田大学
砂井 紫里 (研究協力者)	「中華文化におけるハラール食品とその消費」	国際シンポジウム「西欧と東アジアにおけるハラール食品消費」	2014.3.4	東京・早稲田大学
SATO Kentaro (研究分担者)	“Ibn Khaldun studies in Japan”	NIHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference	2013.11.4	Lahore, Lahore University of Management Sciences
澤井 一彰 (研究分担者)	「オスマン帝国史研究における環境歴史学と自然災害史研究－1563 年のイスタンブール大洪水を事例として－」	第3回地域研究推進センター研究員研究発表会	2014.2.8	早稲田大学早稲田キャンパス 26 号館
店田 廣文 (研究分担者)	「滞日ムスリムによるモスク建設と情報発信」	国際シンポジウム「科学と技術で紐解くイスラーム世界－知の源と社会の変貌」	2014.1.24	東京・早稲田大学
深見 奈緒子 (研究協力者)	「住まい、庭そして水」	水を巡るイスラームの生活と美	2013.10.5	東京・早稲田大学
	「イスラーム建築の美と生活空間の創出」	国際シンポジウム「科学と技術で紐解くイスラーム世界－知の源と社会の変貌－」	2014.1.24	東京・早稲田大学
	「カイロの都市史とイスラーム建築史」	NIHU のカイロ写真のデータベース化事業に関する研究会	2014.1.25	東京・早稲田大学
FUKUSHIMA Yasuhiro (研究協力者)	“Roles and Qualifications of Shari’ah Board Members in Islamic Banks: A Case Study on Malaysia” (ポスター発表)	NIHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference	2013.11.2-4	Lahore University of Management Sciences, Pakistan
吉村 武典 (研究分担者)	「イスラーム地域研究」早稲田大学拠点「マムルーク朝時代のエジプト統治システム：ナイル治水、農業、地方」	第3回地域研究推進センター研究員研究発表会	2014.2.8	早稲田大学早稲田キャンパス 26 号館

■拠点発行物以外の研究成果物

〔論文〕計（21）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
阿久津 正幸 (研究協力者)	「ファーラービー『諸学通覧』: 知識のネットワーク化とムスリム社会」	柳橋博之編『イスラーム: 知の遺産』(東京大学出版会)		2014	33-59
五十嵐 大介 (研究協力者)	「後期マムルーク朝の官僚と慈善事業: ザイン・アッディーン・アブドゥルバーシトの事例を中心に」	中央大学人文科学研究所編『アフロ・ユーラシア大陸の都市と国家』中央大学出版部		2014	489-537
栗田 禎子 (研究協力者)	「エジプト革命第二ステージをめぐる心理戦——中東の革命状況は今どのような段階にあるか」	『唯物論研究年誌』	18	2013	156-172
	「エジプト「6月30日革命」とオリエンタリズムの罫」	『歴史評論』	763	2013	53-62
	「現代史とは何か」	歴史学研究会編『歴史学のアクチュアリティ』東京大学出版会		2013	87-104
Keiko Sakurai (研究拠点代表)	“Iran: Three Dimensional Conflicts”	Mah-E-Rukh Ahmed (ed.) <i>Education in West Central Asia</i> , London: Bloomsbury Academic,		2013	58-78.
砂井 紫里 (研究協力者)	「食のハラールをめぐる多様な声と実践」	『ワセダアジアレビュー』	14	2013	82-85
	「中国における清真とハラール」	『食のハラール』(早稲田大学アジア・ムスリム研究所リサーチペーパー・シリーズ)	3	2014	57-69
佐藤 実 (研究協力者)	「中国イスラーム哲学史研究の幕あけ」	『東方』	387	2013	27-32
	「袁汝琦」「王静斎」「王岱輿」「金天柱」「黒鳴鳳」「伍遵契」「賽典赤・瞻思丁」「陳克礼」「馬堅」「馬注」「馬徳新」「馬聯元」「龐士謙」「游芸」「熊明遇」「劉智」項担	『岩波世界人名大辞典』岩波書店		2013	
澤井 一彰 (研究協力者)	「「ハラール」と「ハラーム」のはざまで—オスマン帝国における発酵食品とアルコール飲料—」	『食のハラール』(早稲田大学アジア・ムスリム研究所リサーチペーパー・シリーズ)	3	2014	1-20
	「オスマン帝国とその「ヨーロッパ」的特性 — 君主一族・支配者層・臣民の多様性—」	『ヨーロッパ文化史研究』	15	2014	111-134
鈴木 恵美 (研究協力者)	「エジプト再民主化プロセスにみる軍事共和制の強化」	『国際問題』	629	2013	5-16

店田 廣文 (研究分担者)	「日本に増え続けるモスク 高まるイスラム教の存在感」	『エコノミスト』	91/42	2013	42-44
谷口 淳一 (研究協力者)	「アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著『高貴なる用語の解説』訳注 (5)」	『史窓』	71	2014	1-24
野田 仁 (研究協力者)	「教育・言語政策の中のムスリム・マイノリティ — 新疆のカザフの場合 —」	『中国新疆のムスリム史 — 教育、民族、言語 —』野田仁編(早稲田大学アジア・ムスリム研究所 リサーチペーパー・シリーズ)	2	2014	23-50
深見 奈緒子 (研究協力者)	「転用材と新材 — カティアワールの中世イスラーム建築から」	『ヘレニズム～イスラーム研究 2013』		2013	147-64
	「アレppoのスーク」	『シリア復興と文化遺産』東京文化財研究所		2014	31-40
深見 奈緒子 (研究協力者) 山根周	「サンゴ礁港市 — アラビア海・インド洋西海域世界」『サンゴ礁』	臨川書店		2013	
福島 康博 (研究協力者)	「マレーシアのハラール認証にみるノン・ハラール要因の混入・接触と排除」	『食のハラール』(早稲田大学アジア・ムスリム研究所 リサーチペーパー・シリーズ)	3	2014	23-38
細田 和江 (研究協力者)	「コシエル or ノン・コシエル? — イスラエル社会と食文化 —」	『食のハラール』(早稲田大学アジア・ムスリム研究所 リサーチペーパー・シリーズ)	3	2014	21-22

〔図書〕計 (7) 件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
小島 宏 (研究協力者) 店田 廣文 (研究分担者)	『第 5 回マスジド (モスク) 代表者会議「日本のムスリム、食を語る」』	早稲田大学アジア・ムスリム研究所		2014	58
砂井 紫里編 (研究協力者)	『食のハラール』(早稲田大学アジア・ムスリム研究所リサーチペーパー・シリーズ Vol.3)	早稲田大学アジア・ムスリム研究所		2014	72+ii
鈴木 恵美 (研究協力者)	『エジプト革命 — 軍とムスリム同胞団、そして青年たち』	中央公論新社		2013	270
Hirofumi TANADA, (研究分担者) Kiju ISHIKAWA, Hirofumi OKAI (研究協力者) (eds.)	<i>Attitude Survey on Foreign Nationals - Imizu City Report</i>	Institute for Multi-ethnic and Multi-generational Societies, Waseda University	1	2014	114

野田 仁編 (研究協力者)	『中国新疆のムスリム史—教育、民族、言語—』野田仁編（早稲田大学アジア・ムスリム研究所 リサーチペーパー・シリーズ vol. 2）	早稲田大学アジア・ムスリム研究所		2014	50+ii
深見 奈緒子 (研究協力者)	『イスラーム建築の世界史』	岩波書店		2013	276
早稲田大学 アジア・ムスリム 研究所編	『イスラームと日本—史資料の分析—』（早稲田大学アジア・ムスリム研究所リサーチペーパー・シリーズ Vol.1）	早稲田大学アジア・ムスリム研究所		2013	117+ii

〔学会発表〕計（29）件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
岡井 宏文 (研究協力者)	「自由記述データを用いた地域住民におけるイスラーム・ムスリム意識の分析—福岡県福岡市調査の事例より—」	日本中東学会第 29 回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャンパス
上山 一 ・臼杵悠 (研究協力者)	「ヨルダンのイスラーム金融利用事情—2010 年の顧客調査から—」	日本中東学会第 29 回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャンパス
上山 一 (研究協力者)	「GCC 諸国に展開するイスラーム銀行の 規模の経済性と 範囲の経済性」	日本金融学会 2013 年度春季全国大会	2013.5.25	一橋大学
栗田 禎子 (研究協力者)	「中東と東アジアの交流・協力の展望——政治・外交面」	韓国中東学会国際大会	2013.10.12	ソウル・東国大学
	「宗派主義を超えて」	パグウォッシュ会議大会	2013.11.4	イスタンブール・Mövenpick Hotel
砂井 紫里 (研究協力者)	“Halal in Chinese Food Culture”	The 1st International Symposium on Food Halalness: Food Halalness in and around South-East Asia	2013.5.8	東京工業大学
	「中国における清真とハラール: その現代的意味付けと活用」	国際シンポジウム「アジアの国家とシャリーア」ワークショップ「中国、東南アジアのハラール産業」アジア法学会	2013.6.22	早稲田大学
	“Commensality for another Local Community: From the tables at a mosque in South Fujian, China”	East Asian Anthropological Association Conference 2013	2013.11.15	厦門大学
	「ハラールの制度化を考える: 中国の場合」	食文化共同研究会 第五回公開講義「文化としての食と宗教、制度としての宗教的な食の認証」	2013.2.27	東京工業大学

澤井 一彰 (研究協力者)	「16-18 世紀のイスタンブルにおける歴史地震」	地中海学会定例研究会	2013.7.20	國學院大學
	「イスタンブル大震災とその後の復興－1509 年と 1766 年の大地震を事例として－」	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所「近世イスラームと多元的社会」研究会	2013.10.12	東京外国語大学本郷サテライト
店田 廣文 (研究分担者)	「日本のムスリム・コミュニティと地域社会 ― 福岡市東区における「外国人に関する意識調査」より ―」	日本中東学会第 29 回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャンパス
橋爪 烈 (研究協力者)	“Textual criticism on the manuscripts of Ibn Ḥaldūn’s autobiography”	Autograph/Holograph and Authorial Manuscripts in Arabic Script	2013.10.11	Liège, Université de Liège
深見 奈緒子 (研究協力者)	「転用材と新材 ― カティアワールの中世イスラーム建築から」	ヘレニズム～イスラーム研究会	2013.7.7	橿原考古学研究所
	「「イスラーム建築」の創出 ― 『イスラーム建築の世界史』から」	東京外国語大学 2013 年中東イスラーム教育セミナー	2013.9.23	東京学国語大学アジア・アフリカ言語研究所
	“Historical Mosques in Kathiawar, Gujarat: A Comparative Architectural Study along the Indian Ocean”	Preservation and Utilization of Historical Buildings-Accumulating Cultural Heritage in Eurasia, Islam and Multiculturalism, JSPS Asia and Africa Science Platform Program	2013.10.24	京都大学
	“Medieval Port-Cities in Gujarat, India through Muslim Monuments”	International conference: Patterns of Early Asian Urbanism	2013.11.12	ライデン・国立古文化財博物館
	「建築からみたイスラームの歴史」	金沢大学公開講座「イスラーム世界の歴史と文化」	2013.10.12	金沢大学
	“Urban History of Cairo : Between Formal and Informal Habitat”	Human Activities and Environments in Islamic Megacities: Contemporary Dynamisms of Jakarta and Cairo	2014.2.18	早稲田大学

深見 奈緒子 (研究協力者) 岡村知明	「シーア派の建築 ― インド 洋海域をめぐる調査から」	シーア派ネットワ ークの展開と近世 アジア世界の再検 討」(基盤 B: 代表 守川知子)	2013.5.25	東京大学
福島 康博 (研究協力者)	「イスラームに基づく食の安 全・安心: マレーシアのハラ ール認証制度の事例」	アジア法学会春季 研究大会	2013.6.23	早稲田大学
	「東南アジアにおけるハラール 食品ビジネスとイスラーム 法」	イスラームビジネス 法研究会	2013.6.24	西村あさひ法律事 務所
	「マレーシアのイスラーム金 融におけるシャリーアの適用 とその範囲」	アジア法学会秋季 研究大会	2013.11.16	立命館大学
	「中東からみたマレーシア: イスラーム金融の事例から」	日本マレーシア学 会第 22 回研究大会	2013.12.15	同志社大学
	「イスラーム金融関連諸法の 再編・改正に対する考察: イ スラームの視点から」	日本マレーシア学 会 2013 年度第 10 回 関東地区研究会	2014.2.1	立教大学
	「企業の寄付をめぐるふたつ の語り: イスラーム銀行の社 会貢献活動の事例から」	国立民族学博物館 共同研究課題「宗教 の開発実践と公共 性に関する人類学 的研究」研究会	2014.2.22	国立民族学博物館
福島 康博 (研究協力者)	「マレーシアのイスラーム金 融前史の範囲と視点」	東京外国語大学ア ジア・アフリカ言語 文化研究所基幹研 究「中東・イスラ ーム圏における人間 移動と多元的社会 編成」研究機関研 究員発表会	2014.3.28	東京外国語大学ア ジア・アフリカ言 語文化研究所
貫井 万里 (研究協力者)	“Comparative Studies on Iranian Cinema and Its Social Contexts”	日本中東学会第 29 回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャン パス
吉村 武典 (研究分担者)	「前近代エジプトにおけるナ イル治水と環境」	シンポジウム「中東 における水資源管 理の課題」	2014.3.7	秋田大学図書館

〔社会活動〕計 (8) 件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
岡井 宏文 (研究協力者)	「中国・四国地方のモスクと地域社会」	平成 25 年度都道府 県宗教法人事務担当 者研修会	2013.6.20	鳥取・対翠閣

砂井 紫里 (研究協力者)	「中国の清真/ハラールについて: 料理と食事を中心に」	第8回ハラールビジネス交流会 (ハラール・ジャパン協会)	2013.7.25	東京・アットビジネスセンター池袋駅前本館
	“Round Table Meeting on "Halal Standard Varieties Significance"	Halal Science, Industry & Buisness International Conference (HASIB) 2013	2013.8.13-15	タイ・スコソホテル
	“Supporting Muslim Friendly Service at Waseda University”	Japan Foundation Program for Young Muslim Intellectuals in Southeast Asia	2013.11.23	東京・早稲田大学
	「ハラールの制度化を考える: 中国の場合」	食文化共同研究会 第五回公開講義「文化としての食と宗教、制度としての宗教的な食の認証」	2013.2.27	東京・東京工業大学
店田 廣文 (研究分担者) 岡井宏文 (研究協力者)	福岡市東区における「外国人住民との共生に関する意識調査」	「外国人住民との共生に関する意識調査」調査報告会	2013.8.22	福岡・福岡マスコ
福島 康博 (研究協力者)	『『農場から金融まで』イスラーム・ビジネスの最前線: マレーシアの事例から』	府中市市民企画講座「東南アジアの今」	2013.10.22	府中市生涯学習センター
吉村 武典 (研究分担者)	世界の文化を学ぶ PartII 「イスラームの歴史と文化—中東の人々の暮らし」	埼玉県所沢市吾妻まちづくりセンター・公民館公開講座	2013.7.3	吾妻まちづくりセンター・公民館

〔メディアへのインタビュー、コメント掲載〕計（４）件

発表者名	発表 標 題	掲載誌・書名	発表年月日	ページ
砂井 紫里 (研究協力者)	「キャンパル: ムスリム学生向けに新メニュー」	『毎日新聞』夕刊	2013.6.7	4
	「生協散歩: ハラールメニュー」	れいんぼう (早稲田大学生活協同組合ニュース教職員版) 第107号	2014.1.22	2
福島 康博 (研究協力者)	「特別企画 2 基礎から始めるムスリム対策 専門家に聞くハラール認証の基礎知識: マレーシアが進める認証の国際化」	『月刊ホテル旅館』(柴田書店) 10月号	2013.10.1	125-127
	「こちら特報部: イスラムの方ようこそ」	『東京新聞』	2014.1.6	20

東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター・イスラーム地域研究部門

代表：大稔哲也（東京大学大学院人文社会系研究科・准教授）

中心テーマ 『イスラームの思想と政治：比較と連関』

【研究組織】

（研究拠点構成員）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
大稔 哲也	次世代人文学開発センター流動教員、 東京大学大学院人文社会系研究科准教授	研究拠点代表 (研究の総括、近現代における政治・社会思想の形成と動態)
小松 久男	次世代人文学開発センター客員教員、 東京外国語大学大学院総合国際学研究院特任教授	研究分担者 (カザフスタンにおけるソ連時代の記憶)
長沢 栄治	次世代人文学開発センター流動教員、 東京大学東洋文化研究所教授	研究分担者 (パレスチナ問題)
臼杵 陽	次世代人文学開発センター客員教員、 日本女子大学文学部教授	研究分担者 (パレスチナ問題)
飯塚 正人	次世代人文学開発センター客員教員、東京外国語 大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授	研究分担者 (近現代における政治・社会思想の形成と動態)
新免 康	次世代人文学開発センター客員教員、 中央大学文学部教授	研究分担者 (近現代におけるウイグル人知識人の思想と政治的活動に関する研究)
ティムール・ ダダバエフ	次世代人文学開発センター客員教員、 筑波大学大学院人文社会科学研究科准教授	研究分担者 (カザフスタンにおけるソ連時代の記憶)
河原 弥生	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、 次世代人文学開発センター研究員	研究分担者 (近現代における政治・社会思想の形成と動態)

研究グループ：「近現代中東・中央ユーラシアの思想と政治」

（研究グループメンバー）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
大稔 哲也	次世代人文学開発センター流動教員、 東京大学大学院人文社会系研究科准教授	研究拠点代表 (研究の総括、近現代における政治・社会思想の形成と動態)
小松 久男	次世代人文学開発センター客員教員、 東京外国語大学大学院総合国際学研究院特任教授	研究分担者 (カザフスタンにおけるソ連時代の記憶)

長沢 栄治	次世代人文学開発センター流動教員、 東京大学東洋文化研究所教授	研究分担者 (パレスチナ問題)
飯塚 正人	次世代人文学開発センター客員教員、東京外国語 大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授	研究分担者 (近現代における政治・社会思想の 形成と動態)
新免 康	次世代人文学開発センター客員教員、 中央大学文学部教授	研究分担者 (近現代におけるウイグル人知識人 の思想と政治的活動に関する研究)
ステファン・ A・ドウドワ ニヨン	フランス国立科学研究センター	研究分担者 (近現代における政治・社会思想の 形成と動態)
ティムール・ ダダバエフ	次世代人文学開発センター客員教員、 筑波大学大学院人文社会科学部准教授	研究分担者 (カザフスタンにおけるソ連時代の 記憶)
臼杵 陽	次世代人文学開発センター客員教員、 日本女子大学文学部教授	研究分担者 (パレスチナ問題)
河原 弥生	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、 次世代人文学開発センター研究員	研究分担者 (近現代における政治・社会思想の 形成と動態)
松本 弘	大東文化大学国際関係学部教授	研究分担者 (中東・イスラーム諸国の民主化)
池田美佐子	名古屋商科大学コミュニケーション学部教授	研究分担者 (近現代における政治・社会思想の 形成と動態)
間 寧	アジア経済研究所地域研究センター 中東研究グループ長	研究分担者 (中東・イスラーム諸国の民主化)
青山 弘之	東京外国語大学外国語学部准教授	研究分担者 (中東・イスラーム諸国の民主化)
菅瀬 晶子	国立民族学博物館助教	研究分担者 (パレスチナ問題)
森 まり子	跡見学園女子大学文学部准教授	研究分担者 (パレスチナ問題)
錦田 愛子	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 助教	研究分担者 (パレスチナ問題)
濱本 真実	センター・イスラーム地域研究部門研究員	研究分担者 (近現代における政治・社会思想の 形成と動態)
サリー・ ハナフィー	バイルート・アメリカン大学准教授	研究分担者 (パレスチナ問題)

(研究グループ海外共同研究者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
バフティヤル・ババジャノフ	ウズベキスタン東洋学研究所主任研究員	近現代における政治・社会思想の形成と動態
アフタンディル・エルキノフ	ウズベキスタン東洋学研究所研究員	近現代における政治・社会思想の形成と動態
イルハン・シャーヒン	キルギス・トルコ・マナス大学教授	カザフスタンにおけるソ連時代の記憶
グルジャナト・クルマンガリエフ	トルコ・マルテペ大学准教授	カザフスタンにおけるソ連時代の記憶

(研究グループ研究協力者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
今堀 恵美	聖心女子大学非常勤講師	カザフスタンにおけるソ連時代の記憶
宇山 智彦	北海道大学スラブ研究センター教授	カザフスタンにおけるソ連時代の記憶
岡 奈津子	アジア経済研究所研究員	カザフスタンにおけるソ連時代の記憶
小沼 孝博	東北学院大学文学部准教授	近現代における政治・社会思想の形成と動態
木村 暁	筑波大学人文社会科学研究科特任研究員	近現代における政治・社会思想の形成と動態
坂井 弘紀	和光大学表現学部教授	近現代における政治・社会思想の形成と動態
澤田 稔	富山大学人文学部教授	近現代における政治・社会思想の形成と動態
清水由里子	次世代人文学開発センター客員研究員	近現代におけるウイグル人知識人の思想と政治的活動に関する研究
長縄 宣博	北海道大学スラブ研究センター准教授	近現代における政治・社会思想の形成と動態
野田 仁	早稲田大学イスラーム地域研究所研究員／早稲田大学イスラーム地域研究機構研究院講師 (早稲田大学拠点研究協力者)	近現代における政治・社会思想の形成と動態

吉田世津子	四国学院大学社会学部教授	カザフスタンにおけるソ連時代の記憶
吉村 貴之	東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所 ジュニアフェロー	近現代における政治・社会思想の 形成と動態
今野 泰三	大阪市立大学院文学研究科都市文化研究センター・ドクター研究員	パレスチナ問題
高岩 伸任	一橋大学非常勤講師	パレスチナ問題
鶴見 太郎	日本学術振興会海外特別研究員	パレスチナ問題
濱中 新吾	山形大学地域教育文化学部准教授 (上智大学拠点研究協力者)	パレスチナ問題
勝沼 聡	東京大学大学院人文社会系研究科附属死生学・ 応用倫理センター特任研究員	近現代における政治・社会思想の 形成と動態
斉藤 剛	神戸大学大学院国際文化学研究科准教授 (上智大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	近現代における政治・社会思想の 形成と動態
佐々木 紳	東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学 開発センター研究員	近現代における政治・社会思想の 形成と動態
福田 義昭	大阪大学非常勤講師	近現代における政治・社会思想の 形成と動態
阿久津正幸	東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学 開発センター研究員 (早稲田大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
伊賀 司	京都大学東南アジア研究所機関研究員	中東・イスラーム諸国の民主化
石黒 大岳	日本貿易振興機構アジア経済研究所研究員 (上智大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
井上あえか	就実大学人文科学部教授	中東・イスラーム諸国の民主化
大足 恭平	青山学院大学情報科学研究センター助手 (早稲田大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
大川真由子	早稲田大学人間関係学術院助教	中東・イスラーム諸国の民主化
北澤 義之	京都産業大学外国語学部教授 (上智大学拠点構成員)	中東・イスラーム諸国の民主化

吉川 卓郎	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部准教授 (上智大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
坂梨 祥	財団法人日本エネルギー経済研究所中近東研究 センター主任研究員	中東・イスラーム諸国の民主化
澤江 史子	東北大学大学院国際文化研究科准教授 (京都大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
鈴木 恵美	早稲田大学イスラーム地域研究所研究員／早稲 田大学イスラーム地域研究機構研究院准教授 (早稲田大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
須田 将	外務省専門分析員	中東・イスラーム諸国の民主化
立花 優	北海学園大学法学部非常勤講師	中東・イスラーム諸国の民主化
地田 徹朗	北海道大学スラブ研究センター・GCOE プログ ラム学術研究員	中東・イスラーム諸国の民主化
辻上奈美江	東京大学大学院総合文化研究科特任准教授	中東・イスラーム諸国の民主化
中川 恵	羽衣国際大学現代社会学部教授	中東・イスラーム諸国の民主化
福富 満久	一橋大学大学院社会学研究科准教授	中東・イスラーム諸国の民主化
堀抜 功二	財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究セ ンター研究員 (京都大学拠点研究協力者)	中東・イスラーム諸国の民主化
前田 弘毅	首都大学東京都市教養学部准教授	中東・イスラーム諸国の民主化
見市 建	岩手県立大学総合政策学部准教授 (上智大学拠点構成員)	中東・イスラーム諸国の民主化
湯浅 剛	防衛省防衛研究所地域研究部主任研究官	中東・イスラーム諸国の民主化
吉岡 明子	財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究セ ンター主任研究員	中東・イスラーム諸国の民主化
渡邊さやか	元在エチオピア日本国大使館専門調査員、ス ーダン在住	中東・イスラーム諸国の民主化

【2013 年度事業の活動内容】

1. 拠点整備

研究事業の拠点は、事業の始動以来、東京大学文学部アネックス内において 3 室のスペースを確保し、多様な研究資料をそこに集積しつつ、内外の研究者に利用の便を図っている。研究の進捗状況や研究集会などに関する情報は、専用のウェブ上 (<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tokyo-ias/>) で常に提供されている。

2. 研究・教育活動

(1) 拠点全体としての活動

① 内陸アジア史学会 2013 年度大会

日時：2013 年 11 月 2 日(土) 13:00～15:10

場所：龍谷大学大宮学舎・清和館三階大ホール

主催：内陸アジア史学会

共催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点

概要：大澤は、モンゴル科学アカデミー考古学研究所との共同調査において、モンゴル東部ドンゴイン・シレー遺跡で発見された突厥碑文に関して考察した。承志は、台北国立故宮博物院所蔵のマンジュ語「吉林九河図」の制作年代・制作背景・境域・国境碑に関して考察した。山本は、14 世紀に編纂された『ラン・ポティセル (*Rlangs kyi po ti bse ru*)』を中心とするチベット語典籍史料を用いて、特に中央チベットの在地氏族集団について考察を行った。塩谷は、1913 年 6 月からヒヴァ・ハン国領内のラウザーン運河周辺で計画された農園設立に焦点をあて、当事者たちの活動とその背景にある政策や経営戦略を明らかにした。

(田中周)

プログラム

公開講演

大澤孝（大阪大学・教授）「モンゴル高原における新たな突厥碑文の発見とその意義について

ー近年におけるモンゴル・日本共同調査プロジェクトの最新成果を中心にー」

承志（Kicengge）（追手門学院大学・准教授）「マンジュ語「吉林九河図」と国境碑」

研究発表

山本明志（大阪国際大学・講師）「モンゴル時代の中央チベットにおける軍隊と俗官」

塩谷哲史（筑波大学・助教）「ハン、企業家、帝国ーラウザーン運河をめぐるロシア＝ヒヴァ・ハン国関係の変遷 一八七三 - 一九一七年ー」

②日本中央アジア学会年次大会公開パネル・セッション「資源管理から見る帝国統治と中央アジア——土地・家畜・水・人——」

日時：2014年3月29日(土) 9:00～12:30

場所：KKR 江ノ島ニュー向洋1階サロン

主催：日本中央アジア学会

共催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点

概要：野田は、露清帝国双方からの支配を受けたカザフ遊牧民のケースを元にして、中央アジア遊牧民社会の根幹となる家畜について考察した。塩谷は、20世紀初頭のアムダリヤ流域における統一的な水管理の試みをめぐる議論から、帝国権力による中央アジア南部定住地域の統治の限界について論じた。小沼は、政治権力と在地商人の関心に注目して東トルキスタンにおける通商活動のあり方が清朝治下に置かれたことでどのような変容を被ったのかを検討した。秋山は、ロシア帝国が中央アジア現地の人材登用策の特徴と限界を、「ジギト」と呼ばれた、護衛、伝令および斥候兵としてロシア軍に付き添った遊牧民に焦点を当てながら考察した。

(秋山徹)

プログラム

趣旨説明：秋山徹（早稲田大学）

野田仁（早稲田大学）「帝国が見るカザフ遊牧民の土地と家畜：19世紀の紛争解決の事例から」

塩谷哲史（筑波大学）「水資源と開発をめぐるロシア帝国権力と中央アジア南部定住地域」

小沼孝博（東北学院大学）「清朝治下の東トルキスタンにおける政治権力と在地商人」

秋山徹（早稲田大学）「人的資源から見るロシア帝国の中央アジア統治：ジギトを中心に」

司会：小松久男（東京外国語大学大学院総合国際学研究院特任教授）

コメンテータ：宇山智彦（北海道大学スラブ研究センター教授）

(2)研究グループの活動

①パレスチナ班第1回研究会

日時：2013年4月20日(土) 13:00～18:00

場所：東京大学東洋文化研究所 3階大会議室

概要：清水報告は現在のパレスチナ自治区における国家建設の問題に対して政治理論的アプローチを行ない、近藤報告は第二次世界大戦直後のサウディアラビアのパレスチナ問題への対応を石油問題との関係で論じたものであった。二つの報告はその研究対象の性格を反映して実に対照的な論じ方であった。前者は政治理論に傾き、後者は実証的研究への志向性が顕著であった。

(臼杵陽)

プログラム

清水雅子（上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科博士課程）

「紛争後の制度構築における国際社会と国内政治の力学：パレスチナ自治政府の制度改革と分裂をめぐる政治過程」

近藤重人（慶應義塾大学法学研究科政治学専攻博士課程）

「サウディアラビアの石油政策とパレスチナ問題、1945 年—1949 年」

②パレスチナ班第 2 回研究会

日時：2013 年 5 月 19 日（土） 13:00～18:00

場所：東京大学東洋文化研究所 3 階大会議室

概要：オスロ・プロセスの政治過程をスポイラーの要因から分析した江崎智絵報告と二つのインティファダを暴力と非暴力の観点から比較した南部真喜子報告は広い意味での政治学的な研究の新たな世代の登場を予感させる報告だった。江崎報告はスポイラーという分析概念を使ってモデル化にそれなりに成功しており、さまざまな事例への適用の可能性を示唆するものであった。また、南部報告は抵抗運動というコンテキストにおける武装闘争を含む暴力の政治的な意味を再考させてくれる絶好の機会を提供してくれた。

（臼杵陽）

プログラム

南部真喜子（東京外国語大学大学院総合国際学研究科 博士後期課程）

「パレスチナの抵抗運動における暴力と非暴力—第一次インティファダとアル＝アクサー・インティファダの比較から—」

江崎智絵（防衛大学校人文社会科学群国際関係学科准教授）

「オスロ・プロセスの政治過程分析—和平交渉の挫折とそのインパクト」

③民主化班第 1 回研究会

日時：2013 年 7 月 6 日（土） 14:00～18:00

場所：東京大学東洋文化研究所 3 階大会議室

概要：吉岡報告は、イラク・クルディスタンの自治の深化と経済発展の実態を明らかにするものであった。自治地区（KRG）の政治はライバル関係にある KDP と PUK が、イラク戦争以降、各代表が KRG 大統領、イラク大統領を務め、うまく棲み分けながら自治を強化し、他方で KRG やイラクからの投資を呼び込み経済発展につなげていった事情が明らかにされた。中川報告は、民主化を巡る動きが比較的穏健に推移した背景として、王制下の民主化の特殊性を明らかにした。すなわち国王の政治権限縮小を含む国王自らが中心となる憲法改正の動きが、大規模な体制変動を抑えただけでなく、現国王即位以来の 10 年来の民主化の動きへの評価が変化への要求の規模を抑えたという認識を与野党の指導者の証言をもとに明らかにした。

（北澤義之）

プログラム

吉岡明子（（財）日本エネルギー経済研究所中東研究センター研究員）

「イラク・クルディスタン地域出張報告：イラク戦争から 10 年、自治開始から 20 年の今」

中川恵（羽衣国際大学現代社会学部教授）

「モロッコ出張報告：『アラブの春』の影響と民主化の行方」

④パレスチナ班第 3 回研究会

日時：2013 年 7 月 20 日（土） 13:00～18:00

場所：東京大学東洋文化研究所 3 階大会議室

概要：濱中報告は、パレスチナを取り巻く政治情勢を、占領地在住のパレスチナ人はどのように認識しているのか、国際秩序認識という観点から分析した研究であった。分析の結果、2011 年以降のアラブ革命はパレスチナの安定や中東和平にマイナスの影響をもたらすと捉えられていることや、ファタハ系とハマス系の間に国際秩序認識の明確な差が認められることなどが明らかにされた。武田報告は、歴史学の手法で、第一次世界大戦期のイギリスにおける 1916 年兵役法案をめぐる議論を扱う内容であった。移民ユダヤ教徒を兵役に組み込もうとする法案に対して、当時の英国ユダヤ人社会を代表する存在であったロシアン・ウルフとハーバート・サミュエルという二人が果たした役割を、議会での論争とそれへの民衆の反応を通して明らかにした。

（錦田愛子）

プログラム

濱中新吾（山形大学地域教育文化学部准教授）

「アラブ革命の陰で：パレスチナ人の国際秩序認識に反映された政治的課題」

武田祥英（千葉大学大学院人文社会科学部研究科博士後期課程）

「第一次大戦期英国における「ユダヤ教徒」像と自由党の変容のパラレルな関係について」

⑤民主化班第 2 回研究会

日時：2013 年 8 月 5 日（月） 14:00～16:00

場所：東京大学東洋文化研究所 3 階第一会議室

主催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点、科学研究費補助金 基盤研究(A)「アラブ革命と中東政治の構造変容に関する基礎研究」（研究代表者：長澤榮治）

講演者：マスウード・ダーヘル教授（レバノン大学、ベイルート）

演題：「新アラブ革命の時代におけるレバノン・シリア国家の将来」

概要：2011 年 1 月に始まるアラブ革命が、シリア・レバノンに与えた影響と今後の国家と社会の姿について講演をいただいた。まずシリアとレバノンの特徴と相違点が概説された後、シリアの内戦による難民問題の深刻さを訴えた。しかし、「歴史の終わり」あるいは「文明の衝突」論に示されるような誤っ

た歴史観にもとづく欧米の中東認識に見られるように、シリアの内戦が宗派ごとに分断されたミニ国家の乱立を導くようなことは考えられないとする。重要なのは、国民統合における軍の役割であるとして、レバノンにおけるヒズボラーに対する欧米の偏見的な見方を批判し、また最近のエジプトの政変における軍の積極的な役割を評価する見方を示した。

(長沢栄治)

⑥民主化班第3回研究会

日時：2013年9月22日(日) 15:00～18:00

場所：東京大学東洋文化研究所大会議室

主催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点

共催：科学研究費補助金 基盤研究(A)「アラブ革命と中東政治の構造変容に関する基礎的研究」(研究代表者：長澤栄治)

講演者：イサム・ハムザ(カイロ大学文学部教授)

演題：「エジプトの行く末－イスラミスト、軍そして民主化」

概要：2011年1月25日革命の展開、モルシー同胞団政権の一年、そして反政権運動と7月3日政変、その後の状況について、画像や映像も用いながら説明された。主な質問としては、欧米の対応、「警察国家」の民主化、トルコの AKP との比較、トルコの対中東政策、シナイ半島・国内のテロの可能性、旧体制との線引き、旧 NDP 勢力の復権などがあり、活発な議論が行われた。

(長沢栄治)

⑦第33回中央ユーラシア研究会

日時：2013年10月11日(金) 17:00～19:30

場所：(財) 東洋文庫2階講演室

講演者：Ilya Zaytsev(北海道大学スラブ研究センター特任外国人教員／ロシア科学アカデミー東洋学研究所)

演題：“Russian” Islam in the Eighteenth Century: Historical Review on the Adoption of Islam by “Ethnic” Russians [英語・通訳なし]

司会：小松久男(東京外国語大学特任教授)

概要：民族的なロシア人のイスラームへの改宗に関する報告であった。歴史的にロシア人の改宗者は、イスタンブールやバフチサライに勤務したロシアの外交官、捕虜、脱走兵の三つに分類できるという。こうしたロシア人ムスリムは、20世紀初頭に至るまで別個の集団を成していたことが説明された。質疑応答では、ロシア正教会の関与の程度や捕虜交換における国籍と信仰との重なりの意味などが、今後深められるべき課題として確認された。

(長縄宣博)

⑧パレスチナ班第4回研究会／国際ワークショップ「オスロ合意再考－パレスチナとイスラエルに与えた影響と代理案－」

日時：2013年10月12(土) 13:00～18:00、13日(日) 13:00～17:30

場所：東京大学東洋文化研究所大会議室

主催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点

共催：科学研究費補助金 基盤研究(A)「アラブ革命と中東政治の構造変動に関する基礎研究」(研究代表者：長澤栄治)、科学研究費補助金 基盤研究(B)「戦前・戦時期日本における中東研究の現代的展開－「回教・猶太問題」からの視座」(研究代表者：臼杵陽)、科学研究費補助金 若手研究(A)「パレスチナ人の越境移動をめぐる意識と動態の総合的アプローチによる研究」(研究代表者：錦田愛子)

概要：オスロ合意においてイスラエル側の交渉担当者であったブンダク氏による講演全体を貫く根本的な主張は、オスロ合意の原則はパレスチナ・イスラエルの和平にとって、今日でも重要な役割を果たしたということであった。ファルサハ氏は、オスロ合意について、特にヨルダン川西岸地区の情勢やパレスチナの祖国解放運動の文脈から分析を行った。立山氏は、オスロ和平プロセスにおける問題から学ぶ点として、強固な保障を伴う和平プロセスの明確な目標の設定、頑健な国際社会のプレゼンス、包摂的な和平プロセスの重要性を指摘した。アブー＝シッタ氏は、現在のイスラエルの土地利用状況にもとづき、難民の帰還が物理的に実現可能であることを説明した。藤田氏は、パレスチナ難民の記憶の中に生きる「共存の歴史」に焦点を当て、共生の可能性がオスロ合意以降、ますます難しくなっていることを示唆しつつも、新しい世代による「ポスト・オスロ」の可能性にも触れた。総論では、オスロ合意が和平交渉としては失敗であったことはあきらかであるものの、対話のきっかけを作ったという点で評価できることが議論された。

(山本健介・清水雅子・役重善洋・菅瀬晶子)

プログラム

10月12日(土)

司会：長澤栄治(東京大学東洋文化研究所教授)

13:00 趣旨説明・講演者紹介 錦田愛子(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教)

13:10 講演「オスロ合意から20年－成功か失敗か？当事者からの視点」ロン・ブンダク(元ペレス平和センター事務局長)

14:05 講演「オスロ和平プロセスとパレスチナ民族闘争の再定義」ライラ・ファルサハ(マサチューセッツ大学准教授)

15:15 講演「オスロ和平プロセスと非対称紛争における暴力の問題」立山良司(日本エネルギー経済研究所客員研究員、元防衛大学校教授)

16:10 総合討論

10月13日(日)

司会：長沢栄治（東京大学東洋文化研究所教授）

13:00 趣旨説明・講演者紹介 錦田愛子（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教）

13:10 講演「オスロの失敗後―帰還への闘いは続く」サルマーン・アブー＝シッタ（パレスチナ土地協会代表）

14:05 講演「パレスチナ難民キャンプの現実を通して見るオスロ合意」藤田進（元東京外国語大学教授）

15:15 総合コメント 臼杵陽（日本女子大学教授）

15:45 総合討論

17:25 終了挨拶 長沢栄治（東京大学東洋文化研究所教授）

⑨パレスチナ班第5回研究会／オスロ合意20周年国際ワークショップⅡ「オスロ合意の代案とは何かーパレスチナ・イスラエルをめぐる一国家・二国家論争ー」

日時：2013年10月14日（月） 13:00～17:00

場所：早稲田大学大隅記念タワー26号館多目的講義室（B104）

主催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点

共催：早稲田大学イスラーム地域研究機構、科学研究費補助金 基盤研究(B)「戦前・戦時期日本における中東研究の現代的展開―「回教・猶太問題」からの視座」(研究代表者：臼杵陽)

概要：ファルサハ氏は、一国家案を理想主義ではなく、現実的に導入可能な解決策として論じた。一国家案は、イスラエル建国以前からある発想であり、歴史的に、誰からの支持があり、どのように提案されてきたのか述べた。氏の提案する一国家案では、イスラエル・パレスチナ双方をまとめ、1つの民主国家として、全ての市民の平等な権利を保障する国家となる。一方、プンダク氏は、二国家案が唯一の解決策であると論じた。氏の提案する二国家案は、国連決議242号を原則としている。国境は1967年ラインに設定、イスラエルによる占領を終結させ、西岸にある入植地は全て撤退する。氏は、ガザと同様、入植地の撤退は可能であるとする。総合討論では、経済と占領政策や和平を巡る世論の関係、マジョリティの政治によらない民主主義、教育問題と社会意識など幅広いテーマの質疑応答がなされた。

（小井塚千寿・吉年誠）

プログラム

司会・講演者紹介：鈴木啓之（東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程）

13:00 趣旨説明 錦田愛子（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 助教）

13:10 講演 ライラ・ファルサハ（マサチューセッツ大学准教授）

「一国家解決案を考える～無駄な追求か今の現実か？」

14:35 講演 ロン・プンダク（元ペレス平和センター事務局長）

「一国家か二国家か～幻想とリアル・ポリティーク」

15:45 総合コメント 錦田愛子（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 助教）

16:00 総合討論

⑩民主化班第4回研究会

日時：2013年10月20日（日） 14:00～18:00

場所：東京大学東洋文化研究所第一会議室

主催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点、科学研究費補助金 基盤研究(A)「現代中東・アジア諸国の体制維持における軍の役割」（研究代表者：酒井啓子）

概要：井上報告は、2013年5月に行われたパキスタン下院総選挙について、選挙前の政治動向などが選挙結果にいかなる影響を与えたのかを検討した。また、将来的な民主化への展望としては、国内外の政治課題を抱える中で、政党間の交渉が始まったことや軍の政治への関与が減っている点については、政治的安定にとって注目すべき点であると指摘した。坂梨報告は、2013年6月に実施された第11期イラン大統領選挙について分析した。国民がロウハーニーを選択したのは、同氏が候補者の中で最も強い現状批判を展開したからであり、国民が変化を希求したことの証左であろうと指摘した。

（堀抜功二）

プログラム

井上あえか（就実大学）「パキスタン総選挙2013—民主化前進への期待と課題」

坂梨祥（日本エネルギー経済研究所中東研究センター）「イランの第11期大統領選挙—「選挙の意義」の再検討—」

⑪第34回中央ユーラシア研究会／張承志氏講演会

日時：2013年10月26日（土） 9:30～12:00

場所：中央大学駿河台記念館510号室

主催：中央大学政策文化総合研究所プロジェクト「中央ユーラシアと日本」

共催：中央大学人文科学研究所研究会チーム「イスラーム地域における聖地巡礼・参詣」

後援：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点、NIHU プログラム現代中国地域研究早稲田大学拠点、中国ムスリム研究会、日本中央アジア学会

講演者：張承志（作家）

演題：「紅衛兵からパレスチナまで」（日本語）

概要：清華大学附属中学紅衛兵の最初のメンバーの一人であり、「紅衛兵」という語の作者でもある氏は、一人のムスリムとして、また一人の作家として、自己の歴史を完成し、自己の生命の尊厳を守るため、10万ドルをヨルダン領内のパレスチナ難民キャンプに届けたという。この決行は、中国文学と中国ムスリムに向けて、進歩と昇華のアピールであるという。

（新免康）

⑫民主化班第 5 回研究会

日時：2014 年 1 月 25 日（土）14:00～18:00

場所：東京大学東洋文化研究所第一会議室

主催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点、科学研究費補助金 基盤研究(A)「現代中東・アジア諸国の体制維持における軍の役割」（研究代表者：酒井啓子）

概要：2013 年 5 月 5 日に実施されたマレーシア下院選挙では、与党国民戦線（BN）が独立以来 40 年に及ぶ政権を守った。しかし得票率で見ると BN と野党（PR）は拮抗し、一党優位体制は明らかに動揺しているという。こうした選挙結果について、鈴木報告は、マレーシア政治を長期的な動態の中でとらえ、長期的政治経済システムの制度疲労に BN が対応できなかった結果、一党優位体制は動揺し、今回の選挙では政権を守ったものの、今後、野党による連邦政権奪取もあり得るとする。一方、伊賀報告は、今回の選挙の背景には、ポスト・マハティール期の民主化がソーシャル・アカウンタビリティの回復を求められていることがあったとした。

（井上あえか）

プログラム

鈴木絢女（福岡女子大学）

「2013 年マレーシア下院選挙からみる 20 世紀政治経済システムの疲労」

伊賀司（京都大学東南アジア研究所）

「政治体制、メディア、社会運動—社会的アカウンタビリティから見るポスト・マハティール期マレーシアの民主化の行方」

⑬パレスチナ班第 6 回研究会

日時：2014 年 2 月 2 日（日） 15:00～19:00

場所：東京大学東洋文化研究所第一会議室

概要：今井報告は、ヨルダンにおけるシリア難民受入のプロセスを追いながら、それが中東地域システムおよび国際システムの動態とどのように関わっているのかをコンストラクティヴィズムの国際関係論における規範の概念を用いて検討するものであった。鈴木報告は、第二次世界大戦後のイスラエル政治経済と南アフリカ政治経済の発展、政策、制度の歴史を、世界経済のメルクマールを参照しつつ振り返り、もって両国の差異の比較のための分析視角を検討するものであった。

（今井静・鈴木隆洋）

プログラム

鈴木隆洋（同志社大学グローバルスタディーズ研究科博士後期課程）

「重複する政治経済の転換点と転向方向：イスラエルと南アフリカ 2 つの新自由主義経済改革とその政治」

今井静（日本学術振興会特別研究員・立命館大学）

「ヨルダンのシリア難民受入とその背景—社会経済的インパクトと国際規範をめぐって—」

⑭パレスチナ班第7回研究会／国際ワークショップ「分割統治の政治学—中東、東アジア、南アジア比較の視点から」

日時：2014年2月3日(月) 15:00～18:15

場所：東京大学東洋文化研究所大会議室

概要：マシュー氏は、1947年のインド・パキスタン分離独立以降のカシミールの歴史を概説し、「インド対パキスタン」という文脈で語られることが支配的言説となっているカシミール問題について、カシミールの人々を主体とする視点から見直す必要を提起した。鈴木氏は、20世紀末、日清戦争に至る時期におけるイギリスの東アジア政策を外交文書や最新の研究動向から得られた知見をもとに分析した。武田氏は、第一次大戦後のオスマン帝国分割案を議論したド＝ブンセン委員会の議事録を分析し、イギリスの「勢力圏」に含むべき地域としてハイファが重要視されるようになった過程を明らかにした。

(役重善洋)

プログラム

15:00-Session (1)

Prof. A. F. Mathew (Associate Professor, Indian Institute of Management(IIM), India)

“Partitioned Boundaries: A Case of Subsumed history”

16:00-Session (2)

Yu SUZUKI (Ph. D. Candidate, Department of International Relations, London School of Economics, UK)

“The Process of British East Asian policy making, 1880-1894”

17:15-Session (3)

Yoshihide TAKEDA (Ph.D. Candidate, Graduate School of Humanities and Social Sciences, Chiba University, Japan)

“Significance of the city of Haifa-Rethinking British policy making on Palestine at the First World War –”

⑮ハーレド・ファフミー氏講演会

日時：2014年2月6日(木) 17:00～19:00

場所：東京大学東洋文化研究所第一会議室

主催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点、科学研究費補助金 基盤研究(B)「『アラブの春』の社会史的研究—エジプト「1月25日革命」を中心に—」(研究代表者：大稔哲也)

報告者：ハーレド・ファフミー (カイロ・アメリカン大学教授・歴史学科長)

題目：「近代エジプトにおけるシャリーアの歴史：ヒスバ(市場監督)を例に」(英語)

司会：大稔哲也 (東京大学大学院人文社会系研究科)

概要：全ムスリムにとり宗教的義務であるヒスバの前近代における実態や近代における衰退の経緯が

再検討された。19 世紀以降、エジプトでは医学を初めとする西洋諸科学の導入が進められたが、その一部として導入された化学的分析による流通食品の検査が行なわれるようになった。本来ムフタスィブに期待されたこのような役割を化学的分析手法が担うようになったことが、名実共に「ヒスバ」が衰退する契機となったと指摘した。

(勝沼聡)

⑩第 35 回中央ユーラシア研究会／特別セミナー「イスラーム地域における聖廟参詣の諸相」

日時：2014 年 2 月 15 日（土）13:00～17:30

場所：東京大学東洋文化研究所第一会議室

主催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点

共催：中央大学人文科学研究所研究チーム「イスラーム地域における聖地巡礼・参詣」

概要：KHOSRONEJAD 氏の講演は、イランの各地域のイスラーム聖廟における美術作品が、歴史的に変化してきた地域社会における必要性を反映しつつ特有な役割を担ってきたこと、またそれらは政治-宗教的システム、社会変動、他の聖地との競争関係、美術様式の流行といった様々な刺激に応じて変容してきたことを明らかにした。菅原純の報告は、中国・新疆ウイグル自治区、とくにカシュガル地域のイスラーム聖域に関するデータの集成を目指す自らの科研費プロジェクトの概要について紹介した上で、その成果の一端を披露した。安田晋の報告は、シリアのダマスクス近郊に位置する「シーア派聖地」、サイイダ・ザイナブ廟をとりあげ、20 世紀初頭から参詣地として大きく発展してきた歴史的プロセスについて系統的な検討を加えた。

(新免康)

プログラム

【講演】

Pedram KHOSRONEJAD (University of St. Andrews)

“Persian Shiite Pilgrimage Art: The Case Study of 18th-21th Century Religious Architectural Mural Paintings”

【報告】

SUGAWARA Jun (Tokyo University of Foreign Studies)

“Constructing Data Resource of Islamic Sacred Stes in Xinjiang”

YASUDA Shin (Teikyo University)

“Formalizing “Shi’ite” Sacred Sites: The Renovation Movement of the Sayyida Zaynab Shrine and the Sih’ite Communities in Syria”

⑩民主化班第6回研究会

日時：2014年3月6日（木）15:00～17:00

場所：東京大学東洋文化研究所大会議室

主催：東文研・班研究「中東の社会変容と思想運動」

共催：NIHU プログラム・イスラーム地域研究東京大学拠点、科学研究費補助金 基盤研究(A)「アラブ革命と中東政治の構造変容に関する基礎的研究」

講演者：ジハーン・セリーム（英国クィーンズ大学ベルファスト、建築学講師）

演題：“Spatial Practices of Revolt: Square-state relations during the Arab Spring protests”

概要：「アラブの春」での大衆の抗議行動を事例に、都市部の大規模な蜂起にみられる「公／私」をめぐる複雑な過程や諸相について報告を行った。伝統的な国家主導型の権力・支配システムからの抵抗や蜂起のための空間として、「公」空間がいかに素早く再形成・再生産されてきたのかを、エジプトの「2011年革命」の際のタハリール広場での人々のやり取りや、社会的振舞い、空間利用のパターンを通して描き出した。結論として、革命の際に見られた社会的・空間的实践が、「2011年革命」の以前から、個々人の記憶や認識の中に埋め込まれていたものであったこと、また、その他の場所や状況においても、行動の基点となっていたことが論じられた。

（長沢栄治）

3. 海外派遣・調査

(1)研究グループの活動

①イランにおける出版準備および聖者廟調査

出張期間：2013年4月5日（金）～4月18日（木）

出張先：テヘラン、シーラーズ、イスファハン（イラン）

出張者：河原弥生

概要：テヘランのペルシア言語語文学研究所において、中央アジア史に関するペルシア語史料、ムハンマド・ハキーム・ハーン著『選史』および Documents from Private Archives in Right-Bank Badakhshan 1849-1944 (Introduction)の出版のための準備作業を行った。シーラーズとイスファハンでは、中央アジアとの比較という観点から聖者廟の予備的調査をおこなった。

（河原弥生）

②クルグズスタンにおける学会参加

出張期間：2013年5月29日（水）～6月2日（日）

出張先：ビシュケク（クルグズスタン）

出張者：Daniyar Kosnazarov

概要：5月30日から6月1日にかけて開催された国際会議“The History of Perestroika in Central Asia”に参加した。会議のテーマは、中央アジアにおけるペレストロイカの意義を再検討するものであり、欧米

諸国、ロシア、中央アジア、日本の40名程の研究者たちが報告をおこなった。いずれも、現地調査による経験的実証を再検討するものであり、ソ連理解を深めるものであった。

(ダニヤル・コスナザロフ)

③ウズベキスタンにおけるハラール食品調査

出張期間：2014年2月7日(金)～2月15日(土)

出張先：タシュケント、ブハラ（ウズベキスタン）

出張者：今堀恵美

概要：首都タシュケントではハラール関連の情報をウズベク語で提供するインターネット・サイトの管理者へのインタビューを実施した。管理者はソ連時代の中央アジア宗務局の大ムフティ職を務めていたムハンマド・ユースフに師事する人物であった。管理者を含むユースフを囲むサークルが、2003年以降イスラーム関連の情報を提供するウズベク語サイトを立ち上げ、ウズベク語ユーザーのイスラーム理解を促進させている活動の実態について調査した。また、ブハラ村落部ではロシアへの出稼ぎ労働による社会変化について子の養育の観点から聞き取りを実施した。

(今堀恵美)

④エジプト調査

出張期間：2014年3月2日(日)～3月11日(火)

出張先：カイロ（エジプト）

出張者：松本弘

概要：カイロにおいて、2011年1月25日革命以降のエジプト情勢、特に昨年7月3日のムルシィー大統領解任および暫定政権成立以降の現状について、カイロ大学やアハラーム戦略研究センターの識者などにインタビュー調査するとともに、同所や市内書店などで資料収集を行なった。

(松本弘)

⑤バングラデシュ調査

出張期間：2014年3月6日(木)～3月14日(金)

出張先：ダッカ、ノアカリ（バングラデシュ）

出張者：日下部尚徳

概要：首都ダッカおよびノアカリ県において、国会総選挙後に実施された地方選挙をめぐる与野党の動向と、今後の国会総選挙の再選挙に関する見通しについて、現地国会議員、官僚、NGO、国際援助機関関係者などへの聞き取り調査をおこなった。また、現地国会図書館やダッカ大学で得られた文献資料の一部は、同意のもとスキャンをし、電子資料として保存した。

(日下部尚徳)

4. 外国人研究者の招聘

(1) 研究グループの活動

① ロン・ブンダク

所属（国籍）：元ペレス平和センター事務局長（イスラエル）

期間：2013年10月10日（木）～2013年10月17日（木）

活動概要：パレスチナ班第4回研究会／国際ワークショップ「オスロ合意再考－パレスチナとイスラエルに与えた影響と代理案－」においては、「オスロ合意から20年－成功か失敗か？当事者からの視点」の題目で講演を行い、パレスチナ班第5回研究会／オスロ合意20周年国際ワークショップⅡ「オスロ合意の代案とは何か－パレスチナ・イスラエルをめぐる一国家・二国家論争－」においては、「一国家か二国家か～幻想とリアル・ポリティーク」の題目で講演を行った。

（河原弥生）

5. 研究成果・発表（論文・図書等）

■ 拠点発行物

〔論文〕計（2）件

著者名	論文標題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
今堀 恵美 （研究協力者）	「中央アジア・ウズベキスタンのハラール食品生産——ハラール表示自粛以前のウズベク企業の対応」	砂井紫里（編）『食のハラール』早稲田大学アジア・ムスリム研究所リサーチペーパー・シリーズ Vol. 3、早稲田大学重点領域研究機構プロジェクト研究所、早稲田大学アジア・ムスリム研究所		2014	38-54
清水 由里子 （研究協力者）	「近代中国におけるムスリム・マイノリティの教育——新疆のウイグル人の学校教育を事例として——」	野田仁編『中国新疆のムスリム史—教育、民族、言語—』（早稲田大学アジア・ムスリム研究所リサーチペーパー・シリーズ）	2	2014	1-22

〔図書〕計（4）件

著者名	書名	出版社	巻	発行年	ページ
SHIMIZU Yuriko （研究協力者）	<i>The Autograph Manuscript of Muḥammad Amīn Bughra's Sharqī Turkistān Tārīkhi</i>	TIAS: Department of Islamic Area Studies Center for Evolving Humanities, Graduate School of Humanities and Sociology, the University of Tokyo		2014	800

Eric T. Schuluessel	<i>The World as Seen from Yarkand: Ghulām Muḥammad Khān's 1920s Chronicle 'Mā Tīṭayniñ wāqi 'asi</i>	TIAS: Department of Islamic Area Studies Center for Evolving Humanities, Graduate School of Humanities and Sociology, the University of Tokyo (Central Eurasian Research Series No.9)		2014	iv+80
Ilhan Sahin (海外共同研究員)	<i>Nomads and Nomadism: New Approaches in Kyrgyz and Ottoman Nomadic Studies</i>	TIAS: Department of Islamic Area Studies, Center for Evolving Humanities, Graduate School of Humanities and Sociology		2014	286
阿久津 正幸 (研究協力者) (編)	『板垣雄三先生インタビュー Vol.2』	人間文化研究機構地域研究推進事業「イスラーム地域研究」東京大学拠点 (Middle East Research Series No.8)	2	2014	xi+93

〔学会発表〕計（ 6 ）件

発表者名	発表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
中川 恵 (研究協力者)	「モロッコ出張報告:『アラブの春』の影響と民主化の行方」	イスラーム地域研究東大拠点「中東・イスラーム諸国の民主化」研究班第1回研究会	2013.7.6	東京大学東洋文化研究所
吉岡 明子 (研究協力者)	「イラク・クルディスタン地域出張報告:イラク戦争から10年、自治開始から20年の今」	イスラーム地域研究東大拠点「中東・イスラーム諸国の民主化」研究班第1回研究会	2013.7.6	東京大学東洋文化研究所
坂梨 祥 (研究協力者)	「イランの第11期大統領選挙—『選挙の意義』の再検討—」	イスラーム地域研究東大拠点「中東・イスラーム諸国の民主化」研究班第4回研究会	2013.10.20	東京大学東洋文化研究所
井上 あえか (研究協力者)	「パキスタン総選挙 2013 —民主化進展への期待と課題」	イスラーム地域研究東大拠点「中東・イスラーム諸国の民主化」研究班第4回研究会	2013.10.20	東京大学東洋文化研究所
伊賀 司 (研究協力者)	「政治体制、メディア、社会運動 — 社会的アカウンタビリティから見るポスト・マハティール期マレーシアの民主化の行方」	イスラーム地域研究東大拠点「中東・イスラーム諸国の民主化」研究班第5回研究会	2014.1.25	東京大学東洋文化研究所
小沼 孝博 (研究協力者)	「清朝治下の東トルキスタンにおける政治権力と在地商人」	2013 年度日本中央アジア学会年次大会	2014.3.29	神奈川県藤沢市 KKR 江ノ島ニュー向洋

■拠点発行物以外の研究成果物

〔論文〕計（78）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行 年	ページ
長沢 栄治 (研究分担者)	「エジプト革命の課題—アラブ革命の展開の中で」	『現代思想』	47-17	2013	47-17
	「エジプトに彷徨う「ナセルの亡霊」—7月3日が突きつけた課題」	『世界』	849	2013	243-247
	「アラブ革命を見る目—政変後のエジプトを考える」	『市民の意見』	140	2013	24-25
	「アラブ革命をめぐる研究文献の紹介」	『歴史と地理 世界史の研究』	666	2013	35-38
	「地域研究における私的なものと公的なもの—中東研究の場合—」	『学術の動向』	18-7	2013	67-71
臼杵 陽 (研究分担者)	「青年期・大川周明のスーパーイズム研究—論文「神秘的マホメット教」をめぐって」	『日本女子大学文学部紀要』	63	2013	85-112
	「解題—J・ハーフ著『ナチのプロパガンダとアラブ世界』を巡る論争」	J・ハーフ著『ナチのプロパガンダとアラブ世界』岩波書店		2013	351-356
	「新たな時代におけるイスラエルと日本」	岩波書店編集部編『これからどうする』岩波書店		2013	236-239
	「連載 オスロ合意 20年①～⑤」	Asahi 中東マガジン（朝日新聞 DIGITAL）		2013.5.11 ～ 9.24	Web 上で公開
	「連載 パレスチナ／イスラエル問題の周辺から①～⑥」	Asahi 中東マガジン（朝日新聞 DIGITAL）		2013.10.22 ～ 2014.3.25	Web 上で公開
Shinmen Yasushi (研究分担者) and Kawahara Yayoi (研究分担者)	“Buzurg Khan Tora and his mausoleum at the Katta Kenagas village”	Shinmen Yasushi, Sawada Minoru and Edmund Waite, ed., <i>Muslim Saints and Mausoleums in Central Asia and Xinjiang</i>		2013	107-125
新免 康 (研究分担者)	「新疆の文字」	梅村坦・江上綏編『文字から見る歴史と文化：江上波夫蒐集品を中心に』山川出版社		2013	133-135
	「20 世紀前半期の新疆におけるムスリム住民の活動とスウェーデン伝道団」	中央大学人文科学研究所編『アフロ・ユーラシア大陸の都市と宗教』中央大学出版部		2014	397-468

Timur Dadabaev (研究分担者)	“Chinese and Japanese Foreign Policies towards Central Asia from a Comparative Perspective”	<i>Pacific Review</i> (Routledge, Taylor and Francis)	27-1	2014	123-145
	“Shanghai Cooperation Organization (SCO) Regional Identity Formation From the Perspective of Central Asian States”	<i>Journal of Contemporary China</i> (Routledge, Taylor and Francis)	23-85.	2014	102-118
	“Japan's search for its Central Asian policy: Between idealism and pragmatism”	<i>Asian Survey</i> (University of California Press)	3(May/June) (53)	2013	506-532
	“Recollections of Emerging Hybrid Ethnic Identities in Soviet Central Asia: The case of Uzbekistan”	<i>Nationalities Papers: The Journal of Nationalism and Ethnicity</i> (ASN/Taylor and Francis)	41-6	2013	1026-1048
	“Community Life, Memory and a Changing Nature of Mahalla Identity in Uzbekistan”	<i>Journal of Eurasian Studies</i> , (Elsevier)	4-2	2013	181-196
Kawahara Yayoi (研究分担者)	“The Mazar of Qutayba ibn Muslim : A Study of Oral Traditions and Historical Documents”	Shinmen Yasushi, Sawada Minoru and Edmund Waite, ed., <i>Muslim Saints and Mausoleums in Central Asia and Xinjiang</i>		2013	53-69
池田 美佐子 (研究分担者)	「解説(エジプト議院内規)」、「[全訳]エジプト議会・議院内規(上院・下院)」、「議会内規用語対照表」、「議会内規原文-エジプト議会・議院内規(上院・下院)」	八尾師 誠・池田 美佐子・粕谷 元(共訳)『全訳 イラン・エジプト・トルコ議会内規』公益財団法人・東洋文庫		2014	31-44、 103-156、 218-233、 001-031
間 寧 (研究分担者)	「欧州新興民主主義国における民族的寛容」	『アジア経済』	54- 2	2013	36-55
森 まり子 (研究分担者)	「建国期のイスラエル内閣閣議事録 史料紹介と予備的考察(一)——『人民執行部議事録1948年4月18日～5月13日』に見る統治権力確立過程とアラブ問題——」	『東京大学東洋文化研究所紀要』	165	2014	123～204
Aiko Nishikida (研究分担者) and Hamanaka Shingo (研究協力者)	“Palestinian Migration under the Occupation: Influence of Israeli democracy and Stratified citizenship”	<i>Sociology Study</i>	3-4	2013	247-260
錦田 愛子 (研究分担者)	第32章「政権に翻弄されるパレスチナ人—レバノンとシリアの政情と居住環境—」、第35章「マテ茶を飲む人々—「シリアの花嫁」の舞台、ゴラン高原—」	黒木英充編『シリア・レバノンを知るための67章』明石書店		2013	206-211、 222-227
	第30章「パレスチナ問題とアラブ—「アラブの大義」と板挟みの苦しみ—」、第45章「パレスチナ人—離散が招いたアイデンティティの多様性—」	松本弘編『現代アラブを知るための56章』明石書店		2013	183-186、 257-260

Uyama Tomohiko (研究協力者)	“The Changing Religious Orientation of Qazaq Intellectuals in the Tsarist Period: <i>Sharī‘a</i> , Secularism, and Ethics”	Niccolò Pianciola and Paolo Sartori, eds., <i>Islam, Society and States across the Qazaq Steppe (18th - Early 20th Centuries)</i> (Wien: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften)		2013	95-118
岡 奈津子 (研究協力者)	「父祖の地を目指して：カザフスタンに「帰還」する在外カザフ人」	『アジア研ワールド・トレンド』	216	2013	27-33
小沼 孝博 (研究協力者)	「ヌサン使節の派遣—1757年における清とアブライの直接交渉—」	『アジア文化史研究』	13	2014	1-21
坂井 弘紀 (研究協力者)	「16 世紀のノガイ・オルダ(2) —カラサイ、カジとアディルに焦点をあてて」	『和光大学表現学部紀要』	13	2013	52-70
	「カザフスタン：教訓の言葉」	『いま、世界で読まれている 105 冊』テン・ブックス		2013	52-54
SAWADA Minoru (研究協力者)	“Towards a Classification of Mazars in Ferghana Valley”	SHINMEN Yasushi, SAWADA Minoru and Edmund WAITE (eds.), <i>Muslim Saints and Mausoleums in Central Asia and Xinjiang</i> , Paris: Librairie d’Amerique et d’Orient		2013	3-25
清水 由里子 (研究協力者)	「中華民国期におけるウイグル人の民族アイデンティティ」	松本ますみ編『中国・朝鮮族と回族の過去と現在——民族としてのアイデンティティの形成をめぐって——』(創土社)		2014	151-182
高岩 伸任 (研究協力者)	「エジプト議会・議院内規」	八尾師 誠・池田 美佐子・粕谷 元(共訳)『全訳 イラン・エジプト・トルコ議会内規』公益財団法人・東洋文庫		2014	103-156
鶴見 太郎 (研究協力者)	「ダニエル・パスマニク——白系ロシアのシオニスト、あるいは二重ナショナリスト」	思想	1074	2013	103-127
	「書評：長沢栄治『アラブ革命の遺産——エジプトのユダヤ系マルクス主義者とシオニズム』」	イスラーム世界研究	6	2013	582-587
	「書評(学界展望)：Oleg Budnitskii, <i>Russian Jews between the Reds and the Whites, 1917-1920</i> 」	国家学会雑誌	9/10	2013	126-128
	「(紀行文) 多元主義のなかのアメリカ・ユダヤ社会とユダヤ研究——1 世紀前のロシア東欧か」	ユダヤ・イスラエル研究	27	2013	37-48
Taro Tsurumi (研究協力者)	“An Imagined Context of a Nation: The Russian Zionist Version of the Austrian Theory of Nationality”	Brian Horowitz and Shai Ginsburg eds., <i>Bounded Mind and Soul: Russia and Israel, 1880-2010</i>		2013	77-96

Hamanaka, Shingo (研究協力者)	“Determinants of Attitude toward Political Parties in Palestine”	<i>Asian Journal of Public Opinion Research</i>	1(1)	2013	7-25
浜中 新吾 (研究協力者)	「変容するイスラーム政治運動の現在」	『アジア経済』	55(1)	2014	2-8
勝沼 聡 (研究協力者)	「エジプト人：近代におけるエジプト人意識の形成」	松本弘（編著）『現代アラブを知るための 56 章』、明石書店		2013	252-256
齋藤 剛 (研究協力者)	「書評 Katherine E. Hoffman & Susan Gilson Miller (eds.), <i>Berbers and Others: Beyond Tribe and Nation in the Maghrib</i> 」	『日本中東学会年報』	29-1	2013	199-202
	「ベルベル人とイスラーム—モロッコにおける「先住民」運動の展開とその宗教観」	『イスラム世界』	81	2014	88-89
佐々木 紳 (研究協力者)	「ナームク・ケマル『祖国あるいはシリストレ』：19 世紀オスマン帝国の愛国的戯曲をめぐって」	柳橋博之編『イスラーム知の遺産』東京大学出版会		2014	221-258
福田 義昭 (研究協力者)	「小説の時代？——現代アラブ世界の文学事情瞥見」	松本弘（編著）『現代アラブを知るための 56 章』、明石書店		2013	76—80
	「エジプトの合気道——ムハンマド・アル＝サイイド氏の道場（エジプト合気道センター）を訪ねて」	『アジア文化研究所研究年報』（東洋大学アジア文化研究所）	48	2014	252（155）—243（164）
伊賀 司 (研究協力者)	第 2 章マレーシア編「Lesson4. マレーシアの政治」「Lesson7. マレーシアのメディア環境」	『東南アジアがわかる教科書 Vol.3』アイ・イー・シー		2013	42-43, 48-49
	「2013 年総選挙と社会運動—ブルシはマレーシア社会の何を変えたのか」	山本博之編『二大正統性は定着するのか—2013 年マレーシア総選挙の現地報告と分析』日本マレーシア学会		2013	66-71
石黒 大岳 (研究協力者)	「湾岸およびインド洋地域の安全保障と日本」	『中東レビュー』	1	2014	76-91
大川 真由子 (研究協力者)	「ザンジバルは植民地だったのか——東アフリカ統治をめぐるオマーン人の歴史認識」	『人文学報』	419	2014	51-67
	「アラブ人とは誰か——アラブ性をめぐる複合的な用法」、「世界遺産——ピラミッドから、消えたアラビア・オリックスまで」、「オマーン人——海を渡ったアラブ人」	松本弘編『現代アラブを知るための 56 章』明石書店		2013	32-35、94-99、305-308
吉川 卓郎 (研究協力者)	「大衆運動を飼いならすー『アラブの春』とヨルダン民主化運動封じ込めの過程ー」	『アジア・アフリカ研究』	53-4	2013	21—35
坂梨 祥 (研究協力者)	「『アラブの春』への対応に見るイラン対外政策の現状」	『中東地域秩序の行方ー「アラブの春」と中東諸国の対外政策』		2013	65-82
	「イランの第 11 期大統領選挙」	『国際問題』	629	2014	17-28

地田 徹朗 (研究協力者)	「アラル海救済の現代史— 「20 世紀最大の環境破壊」の 教訓」	大塚健司編『長期化する生 態危機と環境ガバナンス (アジア経済研究所 調査 研究報告書 2012-C-36)』		2013	23-48
	「小アラル海漁業の現在：湖 水位の回復とその後」	『アジ研 ワールド・トレ ンド』	214	2013	23-27
辻上 奈美江 (研究協力者)	「湾岸諸国における雇用主の 語りから探る家事労働者のヴ ェルネラビリティ／エージェ ンシー」	『白山人類学』	16	2013	55-73
	「サウジアラビアにおける高 等教育の拡大と女性の将来」	『中東協力センターニュ ース』	2014 (Feb./ March)	2014	80-8
	「女性諮問評議会議員の誕生 — 女性の教育レベルの向上、労 働参加、そして「アラブの春」	『中東協力センターニュ ース』	2013 (June/ July)	2013	66-71
	「サウジ女性のキャリア志 向、その背景は？」	『季刊アラブ』	148	2014	24-25
	「『少女は自転車にのって』に 見るサウジ女性の苦悩とせつ なさ」	『季刊アラブ』	147	2013	35
	「失業対策と外国人労働者排 除のジレンマ」	『季刊アラブ』	145	2013	10-11
	「結婚、ミスヤール、そして シングル——サウディアラビ アにおける社会の紐帯と個の 遊離」	椎野若菜編『境界を生きる シングルたち』人文書院	1	2014	127-144
	「サウジアラビアの穏健イス ラームへの転換と地域秩序に おける役割」	土屋一樹編『中東地域秩序 の行方——「アラブの春」 と中東諸国の対外政策』ア ジア経済研究所		2013	131-142
	「アラブ世界のジェンダー」、 「アラブにおけるポストコロ ニアル思想」、「サウディアラ ビア人」	松本弘編『現代アラブを知 るための 56 章』明石書店		2013	224-227, 228-231, 283-287
中川 恵 (研究協力者)	第 15 章「マグリブの近代—植 民地支配からの解放を目指し て」、第 16 章「マグリブの現 代—独立後に歩むそれぞれの 道」、コラム 7「アブドゥルカ ーディル、アブドゥルカリ ーム—植民地支配に抵抗した英 雄たち」、第 40 章「モロッコ 人—アラブ、アマジグの融合 とイスラーム」、第 41 章「ア ルジェリア人—苛酷な植民地 支配を経て」、第 43 章「リビ ア人—重層的な歴史と豊かな 大地に育まれて」	松本弘編『現代アラブを知 る 56 章』明石書店		2013	102-105、 106-110、 111-113、 234-237、 238-241、 248-251
	「自己表現と民主化—アラブ 世界の変革とこれからの日本 人の生き方—」	片岡幸彦・安藤次男編『わ たしたちは二十二世紀を 望めるのか —明日のない その日のために—』紀 伊国屋書店		2013	電子書籍 (参考 HP: http://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-08-EK-0100773)

福富 満久 (研究協力者)	「『軍事介入の論理』M. ウォルツァーと M. イグナティエフ—シリア問題に寄せて—」	『一橋社会科学』一橋大学大学院社会学研究科	5	2013	29-46
	「植民地、資源、内戦—アルジェリア、リビア、そしてシリア」	『海外事情』拓殖大学海外事情研究所	61-7/8,	2013	77-95
堀抜 功二 (研究協力者)	「GCC 諸国における体制の脅威認識と治安同行の展開——アラブ首長国連邦とイスラーム問題を事例に——」	『JIME 中東動向分析』	12-3	2013	1-12
前田 弘毅 (研究協力者)	「グルジア：ポスト民主化革命？」	『ユーラシア研究』	48	2013	68—70
湯浅 剛 (研究協力者)	「中央アジアにおけるロシア主導の多国間協力：集団防衛と経済統合の展開」	『防衛研究所紀要』	16-2	2014	53-72
	「ロシアにとってのシリア内戦：イスラーム要因と対外政策の展開」	『中東研究』	519	2014	22-28
吉岡 明子 (研究協力者)	「マーリキ・イラク首相の強権統治とその反動」	『海外事情』	61(7・8)	2013	28-44
	「勝者なき選挙—混迷を映し出したイラクの県議会選挙結果—」	『中東協力センターニュース』	38(3)	2013	51-64
	「二元化するイラクの石油産業—クルディスタン地域の石油と国外アクターの役割—」	『国際政治』	174	2013	83-97
	「イラク・クルディスタンの変わりゆく権力構図～第4回議会選挙の結果から～」	『中東協力センターニュース』	38(5)	2013	73-81
	「広がるイラクの地域間治安格差」	『中東動向分析』	12(10)	2013	1-13

〔図書〕計（８）件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
アブデュルレシト・イブラヒム (小松香織・小松久男 (研究分担者) 訳)	『ジャポニヤ：イブラヒムの明治日本探訪記』	岩波書店		2013	540
<u>Shinmen Yasushi</u> (研究分担者), <u>Sawada Minoru</u> (研究協力者) and Edmund Waite, ed.	<i>Muslim Saints and Mausoleums in Central Asia and Xinjiang</i>	Librairie d'Amerique et d'Orient, Jean Maisonneuve Successeur		2013	16+242
ティムール・ダダバエフ (研究分担者)	『中央アジアの国際関係』	東京大学出版会		2014	273
松本 弘 (研究分担者) (編)	『現代アラブを知るための 56 章』	明石書店		2013	320

宇山 智彦 (研究協力者) 編	『比較研究の愉しみ：国立大学附置研究所・センター長会議第3部会シンポジウム報告』	北海道大学スラブ研究センター		2014	58
山根聡・長縄宣博 (研究協力者) 編	<i>Regional Routes, Regional Roots? Cross-Border Patterns of Human Mobility in Eurasia</i>	スラブ研究センター		2014	111
佐々木 紳 (研究協力者)	『オスマン憲政への道』	東京大学出版会		2014	296
伊東孝之監修、広瀬佳一・湯浅剛 (研究協力者) 編	『平和構築へのアプローチ：ユーラシア紛争研究の最前線』	吉田書店	1	2013	xiv+422

〔学会発表〕計 (50) 件

発表者名	発表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
大稔 哲也 (拠点代表)	「イスラーム芸術博物館とアラビア語写本」	関西大学国際文化財・文化研究センター主催、エジプト学・文化財研究セミナー	2014.2.24	関西大学
	「ムスリム王朝支配下のエジプトにおけるキリスト教徒の参詣・巡礼」	東京大学スルタン・カブス・グローバル中東研究寄付講座中東イスラーム世界セミナー	2014.2.1	東京大学駒場キャンパス
飯塚 正人 (研究分担者)	「中東におけるムスリム同胞意識の変容と東南アジアへのまなざし」	国立民族学博物館共同研究課題「「統制」と公共性の人類学的研究：ミャンマーにおけるモノ・情報・コミュニティ」研究会	2013.7.21.	国立民族学博物館
<u>Timur Dadabaev</u> (研究分担者) and Sabina Insebayeva	“New Names, Old Habits: Finding Difficulties in Transforming Political Culture in Central Asia”	Cambridge Central Asian Forum	2014.3.14	Cambridge, UK
池田 美佐子 (研究分担者)	“The Uneasy Road to Parliamentary Development in Egypt”	チュニジアー日本文化・科学・技術学術会議 (TJASSST 2013)	2013.11.16	チュニジア・ハマメット
Aiko Nishikida (研究分担者)	“The Politics of Partition in the British Mandate for Palestine”	NIHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference	2013.11.3	Lahore University of Management Sciences, Lahore, Pakistan
	“API and Japan’s policy toward the Middle East”	International meeting on the operationalization of the Arab Peace Initiative	2013.6.8	Days-Inn Hotel, Amman, Jordan

錦田 愛子 (研究分担者) ・溝渕 正季 ・高岡 豊 ・濱中 新吾 (研究協力者)	「レバノン在住パレスチナ人にみられる越境移動と政治意識—2012 年世論調査に基づく比較分析—」	日本中東学会第 29 回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャンパス
Mami Hamamoto (研究分担者)	“Islam in Holy Russia: Changes in Meaning of ‘Being Muslim’ in the Russian Orthodox Society in the 17th Century”	The Moscow Patriarchate (1589-1721). Power, Belief, Image and Legitimacy An International and Interdisciplinary Conference	2013.9.20	Leipzig University in Leipzig, Germany
今堀 恵美 (研究協力者)	「中央アジアのハラール産業—ウズベキスタンの消えたハラール」	東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科「ぐるなび」食の未来創成寄附講座第 5 回公開講義	2014.2.27	東京工業大学
	「ソ連崩壊後の中央アジア民族誌——冷戦の溝は埋まるのか」	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究会「地域民族誌研究会」	2013.6.16	東京外国語大学本郷サテライト
宇山 智彦 (研究分担者)	「権威主義体制論の新展開：旧ソ連地域研究からの貢献」	日本比較政治学会研究大会	2013.6.23	神戸大学
Uyama Tomohiko (研究分担者)	“Repression of Kazakh Intellectuals as a Sign of Weakness of Russian Imperial Rule: The Paradoxical Role of Governor A. N. Troinitskii in the Kazakh National Movement”	Biennial Conference of the European Society for Central Asian Studies (ESCAS)	2013.8.6	Nazarbayev University, Astana
木村 暁 (研究分担者)	「明治外交官の中央アジア探訪：西徳二郎の足跡」	東北学院大学アジア流域文化研究所公開講演会「異境・異人のアジア歴史群像」	2013.7.20	東北学院大学土樋キャンパス
坂井 弘紀 (研究分担者)	「ユーラシア英雄譚の系譜：アルタイからアナトリアまで～「アルパミシュ」を例に～（書面参加）」	比較神話学シンポジウム	2013.12.22	奈良県新公会堂
長縄 宣博 (研究分担者)	“The Red Sea Becoming Red? The Bolsheviks’ Commercial Enterprise in the Hijaz and Yemen, 1924-1938”	The 5th East Asian Conference for Slavic Eurasian Studies	2013.8.10	大阪経済法科大学
	「協力者か攪乱者か？ロシア帝国のタタール人」	史学会	2013.11.9	東京大学

吉田 世津子 (研究分担者)	「遊牧民の『村』再考 —— 旧ソ連領中央アジア・北部クルグズ人と定住化」	科学研究費補助金基盤研究S「牧畜文化の解析によるアフロ・ユーラシア内陸 乾燥地文明とその現代的動態の研究」第7回国際ワークショップ「ユーラシア乾燥地における 遊牧民の定住化と社会主義」	2013.4.13	名古屋大学
	「『ソ連時代の思い出』と体制転換再考 —— 旧ソ連領中央アジア・クルグズスタン(キルギス) 北部農村の例から」	キルギス・日本学生フォーラム 2013 基調講演	2013.10.18	筑波大学
吉村 貴之 (研究分担者)	「第二次大戦後のアルメニア「祖国帰還」運動と在外コミュニティ」	日本中東学会第 29 回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャンパス
	「第二次世界大戦後のアルメニア「祖国帰還」運動の再開と展開」	ロシア史研究会 2013 年度大会	2013.10.12	明治大学
Taro Tsurumi (研究分担者)	“The Russian Origin of American Zionism? Hayim Greenberg and Russian Zionism”	Association for Israel Studies	2013.7.24	UCLA, USA
	“Rossiiskii Zionism in Siberia: In search of a Democratic Multi-National State during the Civil War”	World Congress of Jewish Studies	2013.7.28	エルサレム・ヘブライ大学
	“White Russian Jews: Dual Nationalism in the Anti-Bolshevik Movement in Exile”	Association for Jewish Studies	2013.12.16	Sheraton Boston, USA
鶴見 太郎 (研究分担者)	「『ロシア・シオニズムの想像力』のなかの社会学」	日本社会学会大会	2013.10.12	慶應義塾大学三田キャンパス
	「帝国と二重ナショナリズム——革命に反対したロシア・ユダヤ人」	早稲田大学アジア研究機構次世代アジア特別講演会	2013.11.8	早稲田大学早稲田キャンパス
	「パレスチナ／イスラエルにおける歴史的和解とはなにか—— 二民族史でも地域史でも世界史でもなく」	早稲田大学アジア研究機構第 11 回国際シンポジウム	2013.11.10	早稲田大学国際会議場
勝沼 聡 (研究分担者)	「近代エジプトにおけるナイルの氾濫と治水対策」	日本中東学会第 29 回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャンパス
	「近代エジプトにおける稲作とその位置づけ」	三田史学会	2013.6.22	慶應義塾大学
	「立憲王制時代エジプトにおける選挙管理体制と議員資格審査争訟: 1923 年選挙法の改正とその背景」	東洋文庫現代イスラーム研究班合同研究会	2014.3.1	東洋文庫
齋藤 剛 (研究分担者)	「ベルベル人とイスラーム—モロッコにおける「先住民」運動の展開とその宗教観」	日本イスラーム協会公開講演会「マグリブ・アンダルスの歴史と文化」	2013.6.2	東京外国語大学
佐々木 紳 (研究協力者)	「近代トルコの文学と言語：多元的理解に向けて」	日本イスラーム協会公開講演会	2013.11.24	東洋大学

伊賀 司 (研究分担者)	「アジア新興国における市民社会と言論」「マレーシア・スランゴール州における情報公開法の制定——活性化する市民社会と変わるガバナンス」	アジア政経学会	2013.6.16	立教大学
	「開発途上国の社会運動と政治」「ブルシ運動にみる現代マレーシアの社会運動と政治：オンライン・メディアの主流化と市民社会の変容」	日本比較政治学会	2013.6.22	神戸大学
井上 あえか (研究協力者)	“Changing Aspect of Pakistan Politics”	Seminar ‘Pakistan Studies in Japan’	2014.2.20	Bahauddin Zakaria University, Multan, Pakistan
大川 真由子 (研究協力者)	「ハラール化粧品の現状と可能性——東南アジアから中東に伝播するイスラーム的消費活動」	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究「イスラームに基づく経済活動・行為」第3回研究会	2014.3.9	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
	「ザンジバルおよびオマーンにおけるアフリカ性——移動するオマーン人の民族的差異と共同性の編成」	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究「現代アフリカにおける〈国家的なもの〉に関する研究：ニューメディア・グローバリゼーション・民主主義」第4回研究会	2013.7.14	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所本郷サテライト
吉川 卓郎 (研究分担者)、 MAHICHI Fahzeh	“Environmental and Security Issues of the Jordan River Basin”	NTU-APU Joint Workshop “Conflicts over Fresh Water”	2014.2.26	南洋工科大学 (シンガポール)
Yu TACHIBANA (研究分担者)	“Oligopoly and Political Feudalization in Azerbaijan”	Fifth East Asian Conference on Slavic-Eurasian Studies	2013.8.9	Osaka University of Economics and Law, Osaka
CHIDA Tetsuro (研究協力者)	“‘Transformation of Nature’ Concept and Water Development in Central Asia: the Case of the Ili-Balkhash Basin”	British Association for Slavonic and East European Studies / International Council for Central and East European Studies	2013.4.6	Churchill College, Cambridge, UK
	“‘Transformation of Nature’ Concept by Geographers and Agricultural-Water Development in Soviet Central Asia”	International Geographic Union (IGU) 2013 Kyoto Regional Conference	2013.8.6	Kyoto International Conference Center, Kyoto
	“Why the Aral Sea Could Not Be Saved? Socialistic Irrationalities and General ‘Mis-fits’”	Fifth East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (ICCEES Asian Congress)	2013.8.10	Osaka University of Economics and Law, Yao Campus, Yao
地田 徹朗 (研究協力者)	アラル海救済の現代史—対策の遅れとその要因	比較経済体制学会	2013.6.2	新潟大学五十嵐キャンパス

Namie Tsujigami (研究協力者)	“Exploration of Vulnerability/ Agency of the Female Migrant Domestic Workers”	Middle East Studies Association 2013	2013.10.12	New Orleans, USA.
	“Being Single in Saudi Arabia”	17 th World Congress of the IUAES	2013.8.9	University of Manchester, UK
辻上 奈美江 (研究協力者)	「「アラブの春」はジェンダー 再編をもたらすか」	日本中東学会第 29 回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キ ャンパス
Horinuki, Koji (研究協力者)	“An Independency in a State of Dependency: Socio-Economic Challenges and Politics in the Northern Emirates of the UAE”	日本中東学会第 29 回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キ ャンパス
Hirotake Maeda (研究協力者)	“New Information on Giorgi Saakadze’s Revolt from Fazli Khuzani’s Persian Chronicle”	2nd International Symposium Georgian Manuscripts	2013.6.28	Georgian National Museum, Tbilisi
湯浅 剛 (研究協力者)	「上海協力機構：テロ対処・ 領土保全・経済協力をめぐる 論理と実践」	日本国際政治学会 2013 年度研究大会	2013.10.25	新潟コンベンシ ョンセンター (朱鷺メッセ)
	「封じ込められた紛争？：軍 事力の拡散と国際的要因に見 るタジキスタン内戦」	北海道中央ユーラ シア研究会第 111 回 例会	2013.12.14	北海道大学スラ ブ研究センター

上智大学研究機構 イスラーム研究センター

代表：私市正年（上智大学外国語学部・教授）

中心テーマ 『イスラーム近代と民衆のネットワーク』

【研究組織】

（研究拠点構成員）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
私市 正年	上智大学外国語学部・教授	研究拠点代表 (総括・イスラーム運動)
川島 緑	上智大学外国語学部・教授	研究分担者 (東南アジア・政治運動)
赤堀 雅幸	上智大学外国語学部・教授	研究分担者 (近現代聖者信仰)
岩崎えり奈	上智大学外国語学部・教授	研究分担者 (エジプト・チュニジア社会経済)
新井 和広	慶應義塾大学商学部・准教授	研究分担者 (東南アジア・中東交流史)
北澤 義之	京都産業大学外国語学部・教授	拠点構成員 (アラブ世界・近現代政治史) (東京大学拠点研究協力者)
小林 寧子	南山大学外国語学部・教授	研究分担者 (東南アジア・イスラーム法)
菅原 由美	大阪大学大学院言語文化研究科・准教授	拠点構成員 (東南アジア・宗教運動)
高岡 豊	財団法人中東調査会・研究員	拠点構成員 (アラブ世界・政治運動)
高橋 圭	上智大学アジア文化研究所・客員研究所員	研究分担者 (近現代タリーカ)
登利谷正人	上智大学イスラーム研究センター・特別研究員	研究分担者 (アフガニスタン近現代史)
服部 美奈	名古屋大学大学院教育発達科学研究科・准教授	拠点構成員 (東南アジア・教育)
見市 建	岩手県立大学総合政策学部・准教授	拠点構成員 (東南アジア・イスラーム運動)

三沢 伸生	東洋大学社会学部・教授	拠点構成員 (前近代タリーカ)
三代川寛子	人間文化研究機構地域研究推進センター・研究員、 上智大学アジア文化研究所・客員研究所員	研究分担者 (アラブ世界・近現代政治史)
茂木 明石	上智大学アジア文化研究所・客員研究所員	拠点構成員 (前近代聖者信仰)
森本 一夫	東京大学東洋文化研究所・准教授	拠点構成員 (預言者一族崇敬)
横田 貴之	日本大学国際関係学部・准教授	研究分担者 (アラブ世界・近現代政治思想)
アレクサンド ル・パパス	CNRS (国立科学研究センター)・研究員 (フランス)	研究分担者 (中央アジア・スーフィズム)
サリ・アガス ティン	上智大学神学部・准教授	研究分担者 (南アジア・エスニック紛争)
シリル・ヴェ リヤト	上智大学外国語学部・教授	研究分担者 (南アジア・宗教対立)
ズビール・ア ルース	アルジェ大学 CREAD・教授 (アルジェリア)	研究分担者 (アラブ世界・社会運動)

研究グループ：「イスラーム近代と民衆のネットワーク」

(研究グループ メンバー)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
私市 正年	上智大学外国語学部・教授	研究グループ代表 (総括・イスラーム運動)
川島 緑	上智大学外国語学部・教授	研究分担者 (東南アジア・政治運動)
赤堀 雅幸	上智大学外国語学部・教授	研究分担者 (近現代聖者信仰)
岩崎えり奈	上智大学外国語学部・教授	研究分担者 (エジプト・チュニジア社会経済)
新井 和広	慶應義塾大学商学部・准教授	研究分担者 (東南アジア・中東交流史)
北澤 義之	京都産業大学外国語学部・教授	拠点構成員 (アラブ世界・近現代政治史) (東京大学拠点研究協力者)

小林 寧子	南山大学外国語学部・教授	研究分担者 (東南アジア・イスラーム法)
菅原 由美	大阪大学大学院言語文化研究科・准教授	拠点構成員 (東南アジア・宗教運動)
高岡 豊	財団法人中東調査会・研究員	拠点構成員 (アラブ世界・政治運動)
高橋 圭	上智大学アジア文化研究所・客員研究所員	研究分担者 (近現代タリーカ)
登利谷正人	上智大学イスラーム研究センター・特別研究員	研究分担者 (アフガニスタン近現代史)
服部 美奈	名古屋大学大学院教育発達科学研究科・准教授	拠点構成員 (東南アジア・教育)
見市 建	岩手県立大学総合政策学部・准教授	拠点構成員 (東南アジア・イスラーム運動)
三沢 伸生	東洋大学社会学部・教授	拠点構成員 (前近代タリーカ)
三代川寛子	人間文化研究機構地域研究推進センター・研究員、 上智大学アジア文化研究所・客員研究所員	研究分担者 (アラブ世界・近現代政治史)
茂木 明石	上智大学アジア文化研究所・客員研究所員	拠点構成員 (前近代聖者信仰)
森本 一夫	東京大学東洋文化研究所・准教授	拠点構成員 (預言者一族崇敬)
横田 貴之	日本大学国際関係学部・准教授	研究分担者 (アラブ世界・近現代政治思想)
アレクサンドル・パパス	CNRS (国立科学研究センター)・研究員 (フランス)	研究分担者 (中央アジア・スーフィズム)
サリ・アガステイン	上智大学神学部・准教授	研究分担者 (南アジア・エスニック紛争)
シリル・ヴェリヤト	上智大学外国語学部・教授	研究分担者 (南アジア・宗教対立)
ズビール・アルース	アルジェ大学 CREAD・教授 (アルジェリア)	研究分担者 (アラブ世界・社会運動)

(研究グループ 海外共同研究者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
アレクサンドル・パパス	CNRS (国立科学研究センター)・研究員 (フランス)	研究分担者 (中央アジア・スーフィズム)
オマン・ファトゥラフマン	ジャカルタ・イスラーム大学・上級研究員 (インドネシア)	研究協力者 (東南アジア・イスラーム文献学)
エルファン・ヌルタワブ	ジュライ・シウォ国立イスラーム研究大学 ・講師 (インドネシア)	研究協力者 (東南アジア・イスラーム文献学)
アルース・ズビール	アルジェ大学 CREAD・教授 (アルジェリア)	研究分担者 (アラブ世界・社会運動)

(研究グループ 研究協力者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
荒井 康一	上智大学アジア文化研究所・客員研究所員	トルコ政治社会学
石黒 大岳	アジア経済研究所地域研究センター 中東研究グループ・研究員 (東京大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	湾岸産油国の政治改革、 イスラーム政党の活動
今井 真士	日本学術振興会・特別研究員 (PD) 上智大学	権威主義体制下の政党政治
岩坂 将充	日本学術振興会・特別研究員 (PD) 東京外国語大学	現代トルコ政治研究
小山田紀子	新潟国際情報大学情報文化学部・教授	植民地期フランス・アルジェリア 関係とイスラーム
粕谷 元	日本大学文理学部・准教授	トルコ現代史
加藤 恵実	笹川平和財団/笹川中東イスラム基金・研究員	開発学 (イエメン、サウジアラビア、 教育改革、人権)、近代アラブ文学
金谷 美紗	財団法人中東調査会・研究員	エジプト現代政治、民主化、比較 政治学
北川 あゆ	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研 究科・博士前期課程	インドネシアの民主化と国軍 (TNI)

吉川 卓郎	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部・准教授 (東京大学拠点、京都大学研究協力者)	ヨルダンの政治、カタールと GCC 諸国
幸加木 文	ファーティヒ大学 (トルコ)	トルコ地域研究・現代トルコ政治社会および政教関係、イスラーム運動
小村 明子	上智大学アジア文化研究所・客員研究所員	日本におけるイスラーム史
清水 雅子	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程	現代パレスチナの政治社会学・ハマース研究
清水 学	元・帝京大学経済学部・教授	中央アジア・経済
白谷 望	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程	モロッコにおける家族法の変遷と現代的適応
鈴木 啓之	東京大学大学院総合文化研究科・博士課程	パレスチナの民族主義運動
関 佳奈子	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程	モロッコ近現代史
鷹木 恵子	桜美林大学リベラルアーツ学群人文学系・教授	文化人類学、社会開発
高橋 雅英	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士前期課程	モロッコにおけるイスラーム運動
ダルウィッシュ・ホサム	アジア経済研究所地域研究センター 中東研究グループ・研究員	エジプトのムバーラク体制下におけるムスリム同胞団の政治活動と議会選挙
飛内 悠子	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程	人類学・スーダン国内避難民北部スーダンの教育人類学
中村 遙	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程	アルジェリア・フランス史
貫井 万里	公益財団法人日本国際問題研究所・研究員 (早稲田大学拠点研究協力者)	イラン地域研究
野中 葉	慶應義塾大学 SFC 研究所・上席所員 (訪問) (京都大学拠点研究協力者)	現代インドネシアのイスラーム運動
濱中 新吾	山形大学地域教育文化学部・准教授 (東京大学拠点研究協力者)	比較政治学・中東現代政治
福永 浩一	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程	20 世紀エジプトにおける政治運動

フランシクス・ザベリウス・プルハスタント	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程	インドネシアにおけるイスラムの組織
古谷 遊規	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士前期課程	イスラーム化から見るセネガルにおける教育問題
堀場 明子	上智大学アジア文化研究所・客員研究所員	インドネシア地域研究、紛争分析、平和構築
溝渕 正季	日本学術振興会・特別研究員（PD） 東京外国語大学	シリア・レバノン政治、国際政治
山本 沙希	お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科ジェンダー学際研究専攻・博士後期課程	アルジェリアにおける貧困層女性の内発的発展
ユウ ウェイシン	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士前期課程	エジプト現代教育事情・アズハル機構
吉田 敦	明治大学商学部・兼任講師	北アフリカ（マグリブ）地域研究、経済問題
若桑 遼	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程	チュニジア近現代史
渡邊 祥子	アジア経済研究所地域研究センター 中東研究グループ・研究員	アルジェリア近現代史、ウラマー協会とナショナリズム
青山 亨	東京外国語大学言語文化学部・教授	イスラームとジャワ土着文化のインターフェース：土着神話、聖者信仰、宮廷儀礼
アダム・タイイブ・アクマド	元・上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・博士後期課程	フィリピンにおけるムスリム・ヒストリオグラフィー
エルファン・ヌルタワブ	ジュライ・シウォ国立イスラーム研究大学・講師	東南アジア・イスラーム文献学
小河 久志	大阪大学グローバルコラボレーションセンター・特任助教	タイにおけるイスラーム復興
オマン・ファトラフマン	ジャカルタ・イスラーム大学・上級研究員	東南アジア・イスラーム文献学
木下 博子	九州大学学術推進支援機構研究戦略企画室・学術研究員 （京都大学拠点研究協力者）	東南アジアと中東のネットワーク
塩崎（久志本）裕子	日本学術振興会・特別研究員(RPD) 上智大学	文化人類学・マレー世界におけるイスラーム的知の伝達
塩崎 悠輝	同志社大学神学部・助教	東南アジアのイスラーム法
塩谷 もも	島根県立大学短期大学部・准教授	文化人類学、インドネシア研究

山口 元樹	慶應義塾大学大学院文学研究科・博士課程	近代インドネシア・イスラーム史
石田 友梨	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫制博士課程 (京都大学拠点研究協力者)	イスラーム思想史
内山 明子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫制博士課程 (京都大学拠点研究協力者)	現代イラン女性の社会参加
遠藤 春香	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫制博士課程 (京都大学拠点研究協力者)	シャアラーニーの聖者論
岡戸 真幸	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・特別研究員 (PD) (京都大学拠点研究協力者)	地域研究、文化人類学、 社会的ネットワーク論、移動
加藤 瑞絵	国士舘大学・非常勤講師 (京都大学拠点研究協力者)	イスラーム思想史
鎌田 繁	東京大学東洋文化研究所・教授 (京都大学拠点研究協力者)	シーア派イスラーム思想
荻谷 康太	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・助教 (京都大学拠点研究協力者)	西アフリカのイスラーム
川本 正知	奈良産業大学経済学部・教授 (京都大学拠点研究協力者)	中央アジア史
後藤 明	東京大学・名誉教授 (京都大学拠点研究協力者)	前近代聖者信仰
小牧 幸代	高崎経済大学地域政策学部・教授 (京都大学拠点研究協力者)	社会人類学 (南アジア・ムスリム社会)
斎藤 剛	神戸大学大学院国際文化学研究科・准教授 (東京大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	社会人類学、モロッコ研究、ムスリム聖者信仰、タリーカなど
坂井 信三	南山大学人文学部・教授 (京都大学拠点研究協力者)	西アフリカのイスラーム
澤井 真	東北大学大学院文学研究科・博士後期課程 (京都大学拠点研究協力者)	宗教学・初期スーフィズム、神秘主義方法論
篠田 知暁	京都大学大学院文学研究科・博士後期課程 (京都大学拠点研究協力者)	シャリーフ王朝期モロッコにおける諸社会集団の形成と変容
高尾賢一郎	同志社大学大学院神学研究科・博士課程 (京都大学拠点研究協力者)	現代シリアにおけるシャイフ・アフマド・クフターローのイスラーム理解、スーフィズム思想

ダニシマズ・イディリス	同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科・助教 (京都大学拠点研究協力者)	トルコにおけるスーフィズム、スーフィーによるクルアーン解釈
外川 昌彦	広島大学大学院国際協力研究科・准教授 (京都大学拠点研究協力者)	文化人類学(南アジアのイスラーム研究)
栃堀(所) 木綿子	日本学術振興会・特別研究員(PD) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (京都大学拠点研究協力者)	アミール・アブドゥルカーディル・ジャザーイリーの思想
中西 竜也	京都大学白眉センター・特定助教 (早稲田大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	中国イスラーム史
西山 愛美	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫制博士課程 (京都大学拠点研究協力者)	現代トルコにおけるタリーカ
二宮 文子	青山学院大学文学部史学科・准教授 (京都大学拠点研究協力者)	中世インド文化史
二ツ山達郎	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫制博士課程	人類学、チュニジア、バラカ、樹木 (京都大学拠点研究協力者)
丸山 大介	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫制博士課程 (京都大学拠点研究協力者)	イスラームの聖者論と聖者信仰
守川 知子	北海道大学大学院文学研究科・准教授 (京都大学拠点研究協力者)	イラン・イスラーム史
森山 央朗	同志社大学神学部神学科・准教授 (京都大学拠点研究協力者)	歴史(10～12世紀マシュリク地域におけるハディース学者の社会的・文化的活動)
矢島 洋一	奈良女子大学文学部人文社会学科・准教授 (早稲田大学拠点、京都大学拠点研究協力者)	スーフィズム史
安田 慎	帝京大学経済学部観光経営学科・講師 (京都大学拠点研究協力者)	現代シーア派と聖者廟参詣
吉田 京子	東京大学大学院人文社会系研究科 アジア文化研究専攻イスラム学講座・助教 (京都大学拠点研究協力者)	初期シーア派思想
若松 大樹	日本学術振興会・特別研究員(PD) 日本大学文学部 (京都大学拠点研究協力者)	現代トルコにおけるアレヴィー集団のオジャク(タリーカ)・聖者
和崎 聖日	京都大学地域研究統合情報センター・研究員	中央アジア地域研究、人類学

【2013 年度事業の活動内容】

1. 拠点整備

2013 年度は以下のような整備を行った。

- ・ 本研究プロジェクトの推進するために設立された上智大学「イスラーム研究センター」を恒常的な研究拠点として整備していくため、2013 年 4 月より、本学予算でイスラーム研究センター付きの特別研究員 1 名（登利谷正人、研究分担者）を配置した。
- ・ 本研究プロジェクトと「上智大学カイロ研究センター」との連携強化のため、研究員（福永浩一、研究協力者）を 1 名、2013 年 7 月まで常駐させた。8 月以降はエジプトの政治情勢悪化のため非常駐としたが、2 月に同センター責任者（赤堀雅幸、研究分担者）が情勢を確認の上、2014 年度以降も同センターへの研究員派遣を継続することとし、機能の整備改善をはかった。
- ・ これまでの研究成果を土台に、更なる発展を目指して、早稲田大学と上智大学との間で「イスラーム地域研究に関する学術協定」（大学間連携による共同研究）を締結した。その協定に基づき、研究会を 2 件開催し、1 冊の研究成果（SIAS Working Paper Series No. 20）を出版した。
- ・ 学部・学科・研究所レベルで「イスラーム地域研究」プログラムの研究会案内や出版物案内を積極的に行うなど、活動内容の広報活動を行った。
- ・ 研究活動・事務局運営は、市谷キャンパスの本プロジェクト専用室（2009 年 10 月に四谷キャンパス 2 号館より移転）を拠点として実施した。人間文化研究機構地域研究推進センター研究員および上智大学イスラーム研究センター特別研究員はこの事務局において勤務するほか、個人の研究用のスペースとして、中央図書館内に研究室（共用）の貸与が行われた。
- ・ 人材養成については、PD、RA などの増員、PD 研究員の受け入れ、大学院生のプロジェクトへの参加要請など積極的に行い、また若手研究者自身による研究会の運営を支援した。
- ・ 成果報告については、SIAS Working Paper Series のほか、上智大学アジア文化研究所の刊行物を通して発表した。さらに、大学院グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻における大学院教育との連携を前進させることができた。
- ・ イスラーム原典叢書シリーズ（岩波書店）の一冊として刊行すべく、北澤・横田・高岡の三氏が中心となり『ハサン・バンナー論考集』の翻訳作業を進めた（2014 年刊行予定）。
- ・ 海外の研究機関および研究者との交流については、上智大学が進めている、日本学術振興会・国際化拠点整備事業（通称「グローバル 30」）と協力しつつ、イエズス会研究機関のネットワークにも接続させながら、研究活動の国際化を促進した。
- ・ 一次資料の公開体制の整備に関しては、第 1 期に収集した東南アジア・キターブ・コレクション（約 2600 冊）および 2011 年度以降継続して収集しているコレクションを上智大学アジア文化研究所図書室に移管し、同研究所と連携し、内外の研究者による同コレクションの積極的利用を推進した。

2. 研究・教育活動

(1) 拠点全体としての活動

① 講演会「イスラーム地域の暮らしと文化：中東と東南アジアから」

日時：2013 年 6 月 29 日(土) 15:00～17:00

場所：島根県立短期大学部（松江キャンパス）3 号館・視聴覚室

共催：島根県立大学短期大学部 アジア文化研究室

概要：島根県立大学短期大学部の学生を主な対象として、イスラーム地域における食事の礼儀作法、伝統歌謡、大衆芸能などの身近なテーマを取り上げて講演会を行った。学生たちからは、ベドウィンの女性職業歌手の有無などについての質問がなされた。あまり馴染みのない地域の事柄でありつつも、興味深く、イスラーム地域に住む人々に対する関心が深まったとの感想が述べられた。

(三代川寛子)

プログラム：

15:00-15:30 私市正年（上智大学）「14 世紀アラブの『食事の礼儀作法の書』にみえる食文化の伝統と革新」

15:30-16:00 赤堀雅幸（上智大学）「ベドウィン伝統歌謡の今日」

16:00-16:30 川島 緑（上智大学）「南部フィリピン・イスラーム地域の大衆芸能：マラナオ民謡とその変容」

16:30-17:00 質疑応答

司会：青山亨（東京外国語大学）

② 2013 年度合同集会の研究打ち合わせ

日時：2013 年 6 月 30 日(日) 8:40～12:00

場所：島根県立短期大学部（松江キャンパス）3 号館 2 階文化資源学資料室

概要：10 月に開催予定の合同集会について、ミーティングを行った。発表担当者およびコメンテーター、上智大学拠点関係者が菅原・塩谷両氏の発表の概要を聞き、それぞれの発表の方向性の提案を行いつつ、合同集会のタイトルを決定した。また、広報活動の時期・内容について、当日のプログラムや時間配分、当日使用予定の会場などについて打ち合わせを行った。

(三代川寛子)

③ イスラーム地域研究 2013 年度合同集会（於上智大学拠点）

国際シンポジウム：多文化交流のなかのイスラーム：東南アジアの写本美術、物語、装いから

Symposium : Islam in Cultural Interactions: Manuscript Art, Stories, and Dress in Southeast Asia

日時：2013 年 10 月 19 日(土) 13:00～17:30

場所：上智大学四谷キャンパス 2 号館 17 階 1702 会議室

共催：早稲田大学イスラーム地域研究機構、上智大学アジア文化研究所

使用言語：日本語・英語（同時通訳付き）

プログラムと概要：詳細は事業全体の活動報告を参照。

(2)研究グループの活動

①「東南アジアのイスラームと近代」国際ワークショップ

“Workshop on Comparative Study of *Isrāʾ Miʿrāj* in Southeast Asia”

日時：2013 年 5 月 18 日（土） 13:00～17:00

場所：上智大学四谷キャンパス 2 号館 2-630A 会議室

共催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

概要：本研究会では、東南アジア、特にジャワとミンダナオにおけるイスラーム・ミアラージュを題材としたテキストが検討された。その結果、アラビア語、ジャワ語、マレー語、マラナオ語によるイスラーム・ミアラージュに関するテキストの存在が確認されるとともに、アラビア語やペルシア語のテキストを通して中東から直接影響を受けた可能性や、東南アジア現地での独自の解釈や創意工夫の形跡、スーフィズム思想との関連がうかがわれ、今後の研究の発展につながりうる成果があった。

（塩崎悠輝）

プログラム：

13:00 Opening

13:10-14:10 Dr. Dick van der Meij (Consultant, Center for the Study of Religion and Culture (CSRC),
Syarif Hidayatullah State Islamic University (UIN) Jakarta)

“The *Isrāʾ Miʿrāj* in Indonesia: An overview”

14:10-14:45 Dr. SUGAHARA Yumi (Osaka University)

“The Night Journey Translated by Ahmad Rifaʿi Kalisalak”

14:45-15:30 Prof. KAWASHIMA Midori (Sophia University)

“The Maranao Tale of the Journey of Prophet Muhammad to the Seven Layers of Paradise and Hell: Interim Findings”

Break

15:45-16:00 Comments

16:00-17:00 Open discussion

②第 1 回 KIAS/SIAS 共催国際ワークショップ

日時：2013 年 6 月 2 日（土）

場所：京都大学吉田キャンパス本部構内総合研究 2 号館 4 階第 1 講義室（AA401）

共催：科学研究費補助金 基盤研究(B)「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」（研究代表

者：赤堀雅幸)、科学研究費補助金 基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」(研究代表者：東長靖)

プログラムと概要：詳細は京都大学拠点の報告を参照。

③「イスラーム運動と社会運動・民衆運動」第1回研究会

日時：2013年6月8日(土) 13:10~17:00

場所：上智大学四谷キャンパス2号館 2-630A 会議室

共催：科学研究費補助金 基盤研究(B)「現代中東におけるムスリム同胞団の総合的研究：各国での政治活動と国際ネットワーク」(研究代表者：横田貴之)

概要：報告(1)では、2010年12月以降のチュニジアでサラフィー主義が勢力を伸ばした政治状況の概説がなされた。若桑氏によると、サラフィー主義には政党として活動するものと、武装闘争に向かうものがあり、いずれも政治的影響力は限定的ではあるが、今後の勢力伸長の可能性は未知数とのことである。報告(2)では、ジャカルタ州知事選の選挙についての分析がなされた。選挙戦ではイスラームを用いた宗教的キャンペーンが行われるが、これにはエスニシティによる社会的亀裂を克服する目的があるとの指摘がなされた。

(三代川寛子)

プログラム：

13:10-15:00 報告(1) 若桑遼(上智大学)

「政変後のチュニジアにおける「サラフィー主義」の伸長と 民主主義体制移行への課題」

コメンテーター：岩崎えり奈(上智大学)

15:10-17:00 報告(2) 見市建(岩手県立大学)

「民主化以降のインドネシアにおける政治とイスラーム：ジャカルタ州知事選を手がかりに」

コメンテーター：浜中新吾(山形大学)

④「イスラーム運動と社会運動・民衆運動」第2回研究会

日時：2013年7月21日(日) 13:20~17:00

場所：上智大学四谷キャンパス2号館 2-630A 会議室

共催：科学研究費補助金 基盤研究(B)「現代中東におけるムスリム同胞団の総合的研究：各国での政治活動と国際ネットワーク」(研究代表者：横田貴之)

概要：最初の報告では、エジプトのコプト・キリスト教徒知識人らが、20世紀初頭にナイルルズ祭復興運動を通して自らの古代エジプトに連なる出自を主張し、それを基にムスリムとの連帯を唱えた事例についての報告が行われた。次の発表では、国家権力によるウラマーの支配が確立した後、ウラマー不在の空間を埋める存在として「俗人」説教師が現れたことが指摘された。これらの説教師らは、ウラマ

ーとは異なる役割を担っており、ウラマーがイスラームの連続性を体現する一方で、説教師がイスラームのムスリム社会の活力を体現しているという議論がなされた。

(三代川寛子)

プログラム：

13:20～15:05 報告(1) 三代川寛子(人間文化研究機構)

「20世紀初頭におけるコプトとファラオ主義：ナイルズ祭復興運動を事例に」

コメンテーター：金谷美紗(中東調査会)

15:15～17:00 報告(2) 八木久美子(東京外国語大学)

「エジプトの宗教領域におけるせめぎ合い―「俗人説教師」と「聖職者」―」

⑤合宿研究会「スーフィズム・聖者信仰」

日時：2013年7月23日(火)～7月24日(水)

場所：山喜旅館(伊東)

共催：科学研究費補助金 基盤研究(B)「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」(研究代表者：赤堀雅幸)、科学研究費補助金 基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」(研究代表者：東長靖)

概要：研究発表では、所(栃堀)木綿子氏がアブドゥルカーディル・ジャザーイリーとフランスとの相互認識・評価とその変遷、久志本裕子氏が現代マレーシア・インドネシアの「新しいマウリド」ブーム、澤井真氏がクシャイリーの生と死をめぐる議論をそれぞれテーマに報告を行った。文献発表では、2012年に刊行された Nile Green のスーフィズム概説から、山本直輝氏が序章、高尾賢一郎氏が第1章のまとめを行った。いずれの報告も充実した内容であり、参加者の間の議論も活発になされ、その中で様々な有益な知見が示された。

(高橋圭)

プログラム：

2013年7月23日(火)

13:00-13:15 開会の挨拶・趣旨説明・自己紹介等

13:15-15:15 研究発表(1) 所(栃堀)木綿子(東京外国語大学)

「アブドゥルカーディル・ジャザーイリーによるキリスト教・西欧理解」

15:15-15:30 入室(各自)

15:30-16:20 文献発表(1) 山本直輝(京都大学)

“Introduction,” Nile Green, *Sufism: A Global History*, Chichester: Wiley-Blackwell, 2012, 1-14.

16:30-18:30 研究発表(2) 久志本裕子(上智大学)

「マレーシア・インドネシアにおける「新しいマウリド」の展開とスーフィズム」

18:30-19:30 夕食

19:30-22:00 懇親会

2013 年 7 月 24 日 (水)

7:30-8:30 朝食、チェックアウト

8:40-9:30 文献発表 (2) 高尾賢一郎 (同志社大学)

“Chapter 1: Origins, Foundations and Rivalries (850-1100),” Nile Green, *Sufism: A Global History*,
Chichester: Wiley-Blackwell, 2012, 15-70.

9:40-11:40 研究発表 (3) 澤井真 (東北大学)

「クシャイリーの神秘論における生と死」

11:40-12:00 閉会の挨拶、解散

⑥合宿研究会「現代イスラーム諸国家／アラブ政変と政教関係の再考」

日時：2013 年 9 月 28 日 (土)～9 月 29 日 (日)

場所：東山ハイマートホテル (会津若松市)

共催：科学研究費補助金 基盤研究(B)「現代中東におけるムスリム同胞団の総合的研究：各国での政治活動と国際ネットワーク」(研究代表者：横田貴之)

概要：本研究合宿の総合討論では、総合コメンテーターの見市建氏 (岩手県立大学) が、本合宿全体を通じて現状報告が多かったと指摘した。その上で見市氏は、注意して議論すべき点として「どの段階の議論なのか」、「何が政治を動かすか」、「何に着目するのか」の 3 点を提示した。特に、本合宿であまり論じられなかった論点として、司法や議会などの公式制度や規範といった広義の制度に言及し、最後に実証研究の重要性を強調した。また、総合討論司会の粕谷元氏 (日本大学) から、政教関係の共同研究における困難についてのコメントや、本合宿のテーマ設定についての提案がなされた。

(清水雅子)

プログラム：

2013 年 9 月 28 日 (土)

13:30-15:00 金谷美紗 (中東調査会)

「エジプトの不安定な民主化移行：軍、イスラーム主義、リベラル派」

コメンテーター：清水学 (元・帝京大学)

15:05-16:35 錦田愛子 (東京外国語大学 AA 研)「アラブ政変とヨルダンのムスリム同胞団」

コメンテーター：北澤義之 (京都産業大学)

16:40-18:10 松本弘 (大東文化大学)「イスラーム主義の相対化—『アラブの春』とイエメン—」

コメンテーター：石黒大岳 (アジア経済研究所)

18:15 -19:15 夕食

19:20-20:50 幸加本文（東京外国語大学）

「トルコの政教関係における新展開－民主化・イスラーム・世俗主義」

コメンテーター：岩坂将充（学振 PD 研究員・東京外国語大学）

2013 年 9 月 29 日（日）

8:20-09:50 白谷望（上智大学）

「モロッコ王制とイスラーム主義政権－政治運営における政教関係の持続と変化」

コメンテーター：若桑遼（上智大学）

9:55-11:25 浜中新吾（山形大学）

「アラブ政変後のイスラーム主義と民主制の政治文化」

コメンテーター：私市正年（上智大学）

11:30-12:15 総合討論 司会：清水雅子（上智大学）

総合コメント：見市建（岩手県立大学）

⑦「スーフィズム・聖者信仰研究会（SIAS-KIAS 連携研究会）」第 1 回研究会

日時：2013 年 9 月 29 日（日） 13:00～17:00

場所：京都大学吉田キャンパス本部構内総合研究 2 号館 4 階第 1 講義室（AA401）

共催：科学研究費補助金 基盤研究(B)「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」（研究代表者：赤堀雅幸）、科学研究費補助金 基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」（研究代表者：東長靖）

プログラムと概要：詳細は京都大学拠点の報告を参照。

⑧「東南アジアのイスラームと近代」第 1 回講演会「東南アジアのクルアーン写本美術」

日時：2013 年 10 月 18 日（金） 17:30～19:00

場所：上智大学四谷キャンパス中央図書館 9 階 L-921 会議室

共催：早稲田大学イスラーム地域研究機構、上智大学アジア文化研究所

使用言語：英語（通訳なし）

概要：本講演では、東南アジアのクルアーン写本に施された装飾について解説がなされた。クルアーンの装飾枠のみならず、それ以外の多数の細かな装飾的要素について比較検討がなされ、アチェ、マレーシアのトレングヌ・クランタン両州、タイのパッターニ県、およびスラウェシ島出身者の間には、それぞれの地域に特有の写本装飾様式がみられることが指摘された。

（三代川寛子）

プログラム：

17:30-18:30 アナベル・T・ギャロップ氏（大英図書館東南アジア部門長）

「東南アジアのクルアーン写本美術」

18:30-19:00 質疑応答

⑨「東南アジアのイスラームと近代」第2回講演会「インドネシアのイスラーム法」

日時：2013年11月9日(土) 16:00～18:00

場所：上智大学四谷キャンパス2号館6階 2-630A 会議室

共催：南山大学アジア・太平洋研究センター

概要：インドネシアでは婚姻法は1974年に成立したが、ムスリムの家族法に関わる問題を審理する宗教裁判所判事には、手引書として「イスラーム法集成(KHI)」がやっと1991年に示された。ウイス氏はこのKHIが現場でどのように運用されているかを調査したが、多くの判事はいまだにイスラーム法学古典文献を独自に解釈して判断を下す傾向があることを明らかにした。KHIはあまり参照されないだけでなく、制定法(婚姻法およびその施行細則)にもそぐわない判断がなされており、法の統一性はいまだに実現されていない。

(小林寧子)

プログラム：

16:00-18:00 Dr. Euis Nuralelawati (Senior lecturer in the Islamic law at Syarif Hidayatullah State Islamic University (UIN), Jakarta

“Islamic Justice in Indonesia: Family Law Reforms and Legal Practices in the Religious Courts”

Discussant: Dr. Ono Hitomi (Lecturer, Gakushuin Women's College)

⑩「東南アジアのイスラームと近代」ワークショップ「東南アジアのムスリムと近代：1930年代を中心に」

日時：2013年11月10日(日) 10:30～17:20

場所：上智大学四谷キャンパス2号館6階 2-630A 会議室

概要：1920～30年代の東南アジアにおける定期刊行物、歴史教科書などの事例を通して、当時同地域が経験していた世界認識・歴史認識の変化あるいは再構築について議論がなされた。また、東インド・イスラーム会議の事例を通して、インドネシアにおけるイスラーム運動の中のアラブ人の役割が考察され、インドネシアのムスリム社会が構築されていった過程をとらえ直す可能性が示された。

(塩崎悠輝、三代川寛子)

プログラム：

10:30-10:40 小林寧子(南山大学) 趣旨説明

10:40-11:20 発表1：小林寧子

「植民地期インドネシアの定期刊行物：1930年代イスラーム系雑誌の隆盛」

11:20-11:30 コメント：鈴木恒之(東京女子大学)

11:30-12:00 討論

<昼食休憩>

13:00-13:40 発表 2 : 山口元樹 (慶應大学大学院)

「東インド・イスラーム会議におけるプリブミとアラブ人 : 1920 年代末から 1930 年代初めにかけてのインドネシアのイスラーム勢力の変容」

13:40-13:50 コメント : 塩崎悠輝 (同志社大学)

13:50-14:20 討論

14:30-15:10 発表 3 : 左右田直規 (東京外国語大学)

「戦前期英領マラヤのマレー語歴史教科書に見るムスリムと近代」

15:10-15:20 コメント : 久志本裕子 (日本学術振興会特別研究員)

15:20-15:50 討論

16:00-16:40 発表 4 : 川島 緑 (上智大学)

「1930 年代フィリピンにおけるアメリカ人宣教師の出版活動とイスラーム : 『ラナオ・プロGRESS』をめぐって」

16:40-16:50 コメント : 松本ますみ (敬和学園大学)

16:50-17:20 討論

⑪ THE FIRST JRSSV (“The Joint Research on Sufism and Saint Veneration”) - CNRS JOINT SEMINAR

“Saint Cults, Mausoleums, and Sufi Linages”

日時 : 2013 年 11 月 22 日 (金) 10:00~18:30

場所 : Conference Hall, CNRS, 59-61 Rue Pouchet, 75849 Paris cedex 17

共催 : CNRS 国立社会調査研究センター (パリ)、科学研究費補助金 基盤研究 (B)「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」(研究代表者 : 赤堀雅幸)、科学研究費補助金 基盤研究 (B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」(研究代表者 : 東長靖)

プログラムと概要 : 詳細は京都大学拠点の報告を参照。

⑫ 「イスラーム運動と社会運動・民衆運動」シンポジウム「アラブ政変の現状と課題—「アラブの春」はいまどこに?—」

日時 : 2014 年 1 月 26 日 (日) 13:00~17:00

場所 : 上智大学四谷キャンパス 2 号館 5 階 2-508 号室

共催 : 科学研究費補助金 基盤研究 (B)「現代中東におけるムスリム同胞団の総合的研究 : 各国での政治活動と国際ネットワーク」(研究代表者 : 横田貴之)、上智大学アジア文化研究所

概要 : アラブの春から 3 年が経過した今、影響が大きかった 5 か国について、各国の専門家から現状が報告され、その後に全体討論がなされた。各国間の比較という意味では、新憲法問題の行方、治安の

安定化、社会亀裂、国民対話といった問題が重要だとされた。その上で、アラブの春という大きな流れは、15～20 年を経て政治意識の変化が進むまでは安定しないだろうと結論付けられた。

(荒井康一)

プログラム：

- 13:00－13:05 司会挨拶 岩崎えり奈（上智大学）
- 13:05－13:30 報告 1 若桑遼（上智大学）「チュニジアの現状と課題」
- 13:30－13:55 報告 2 横田貴之（日本大学）「エジプトの現状と課題」
- 14:55－14:20 報告 3 小林周（慶応大学）「リビアの現状と課題」
- 14:20－14:45 報告 4 加藤恵実（笹川平和財団）「イエメンの現状と課題」
- 14:45－15:10 報告 5 高岡豊（中東調査会）「シリアの現状と課題」
- 15:10－15:20 休憩
- 15:20－15:35 総合コメント 私市正年（上智大学）
- 15:35－16:00 コメントへの回答
- 16:00－16:55 全体討論、質疑応答
- 16:55－17:00 司会挨拶 岩崎えり奈（上智大学）

⑬アルジェリアの貧困問題に関する講演会

（総括事業）

日時：2014 年 3 月 25 日（火） 17:30～19:00

場所：上智大学四谷キャンパス 10 号館 10-B-105a 教室

講師：ラウーフ・カーシミー氏（アルジェ大学・CREAD 研究員、社会学部教授）

演題：“Poverty and Employment Policy: The Algerian Case”

プログラムと概要：詳細は早稲田大学拠点の総括事業報告を参照。

⑭第 2 回 KIAS/SIAS 共催国際ワークショップ

日時：2014 年 3 月 29 日（土） 13:00～17:45

場所：上智大学四谷キャンパス 2 号館 5 階 2-510 会議室

共催：科学研究費補助金 基盤研究(B)「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」（研究代表者：赤堀雅幸）、科学研究費補助金 基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」（研究代表者：東長靖）

概要：ナールスフィーのスーフィズム理解とナクシュバンディー教団の宗教実践、トルコのクルド系アレヴィーの人々の間にみられる Khidr 崇拝、イランのエマームザーデ参詣など、スーフィズム、聖者信仰、神秘思想に関する個別の発表が行われ、活発な質疑応答が行われた。また、今回は若手研究者が自

らの研究を国際的に発信するための訓練の場でもあったため、クウェイトのエジプト人労働者やアルジェリアの石油会社の民営化など、スーフィズム関連以外の研究発表も行われ、議論がなされた。

(三代川寛子)

プログラム：

13:00-13:15 AKAHORI Masayuki (Sophia University): Opening Remarks

First Session

13:20-13:50 YAMAMOTO Naoki (Kyoto University)

“Mystical Practice of the Naqshbandi Order in the 18th Century according to ‘Abd al-Ghani al-Nabulusi”

13:50-14:20 TOKORO Yuko (JSPS)

“Jihad and Sulh: Concerning the Relationship between al-Amir ‘Abd al-Qadir and Morocco”

Second Session

14:25-14:55 WAKAMATSU Hiroki (JSPS)

“The Saint Veneration and Khidr Worship in Dersim: A Case of Kurdish Alevi Tradition”

14:55-15:25 UCHIYAMA Akiko (Kyoto University)

“Visit to Holy Shrines as a Religious Duty, and as a Superstition: A Case Study on Their Visit to Emamzade Saleh”

15:25-15:45 Coffee Break

Third Session

15:45-16:15 TAKAO Kenichiro (Sophia University)

“Khalidi Naqshbandi Tradition in 20th Century Damascus through the Ulema Prosopography”

16:15-16:45 OKADO Masaki (Sophia University)

“A Study of Egyptian Migrant Workers in Kuwait”

16:45-17:15 TAKAHASHI Masahide (Sophia University)

“Obstructive Factors for the Privatization of the National Oil Company in Algeria: The Political Role of the Algerian Labor Union”

Concluding Session

17:20-17:35 Marc TOUTANT (CETOBAC): General Comments

17:35-17:45 TONAGA Yasushi (Kyoto University): Closing Remarks

3. 海外派遣・調査

(1)拠点全体としての活動

該当なし

(2)研究グループの活動

①オランダでの資料収集

日程：2013年7月21日(日)～8月22日(木)

出張先：オランダ・ライデン（ライデン大学、王立地理言語民族学研究所、国立文書館）

ドイツ・ベルリン（近代東洋研究所）

出張者：小林 寧子（南山大学外国語学部・教授）

概要：オランダの王立地理言語民族学研究所では、植民地文献を閲覧し、国立文書館では植民地文書を収集した。また、オランダやインドネシアの研究者と現代インドネシア・イスラームの動向に関する意見交換を行ったが、インドネシアでは若いイスラーム研究者の台頭が目覚ましく、国立イスラーム大学出身者の活躍が注目されていた。ベルリンの近代東洋研究所では、Wai Weng Hew 博士から同研究所の活動やドイツのイスラーム研究について説明を受けた。

（小林寧子）

②ウズベキスタン聖者廟調査

出張期間：2013年9月4日(水)～9月13日(金)

出張先：ウズベキスタン（タシュケント、ブハラ、サマルカンド、フェルガナ）の聖者廟

出張者：東長靖（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授）

和崎聖日（京都大学地域研究統合情報センター・研究員）

二ツ山達朗（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫制博士課程）

概要：上記の各場所（都市・村落）における聖者廟（特にスーフィー関連）の(1)歴史的起源と(2)地域住民による受け入れ状況の解明を行った。その際の主要な調査方法は、語りの収集と写真・映像としての記録であった。本調査により、中東と中央アジア地域における聖者崇拝の状況を相対化して考察することが可能となった。

（東長靖・和崎聖日・二ツ山達朗）

③ヨルダンでの資料収集、聞き取り調査

出張期間：2013年9月5日(木)～9月13日(金)

出張先：ヨルダン（ヨルダン大学、ヨルダン統計局）

出張者：北澤義之（京都産業大学外国語学部・教授）

概要：アンマン市内のヨルダン大学やヨルダン統計局において資料収集と意見交換を行うことにより、総選挙・地方選挙の社会的背景シリア情勢の影響を受けているヨルダン社会の現状を調査した。また、北部の地方都市イルビド近郊の Kufur Ma'a 村に滞在し調査を行った。この現地調査を通じて、シリア国境に近い北部における、社会状況の実態の把握とそれが政治的にもつ含意を考察する材料を得ることができた。

（北澤義之）

④パリでの国際会議開催、資料収集

出張期間：2013 年 11 月 20 日(水)～2013 年 11 月 26 日(火)

出張先：フランス（CNRS 国立社会調査研究センター）

出張者：赤堀雅幸（上智大学外国語学部・教授）

中西竜也（京都大学白眉センター・特定助教）

概要：SIAS、KIAS、および CNRS/Groupe Societes Religions Laicite の共催による国際ワークショップ French Japanese Seminar “Saint Cults, Mausoleums, and Sufi Lineages” において、研究発表を行った（中西）。また、現地の研究者たちと、スーフィズム聖者信仰をめぐる今後の研究の展開や研究協力をめぐって、意見交換・打ち合わせを行った。加えて、書店などでスーフィズム・聖者信仰に関する史料の収集を行った。

（赤堀雅幸・中西竜也）

⑤チュニジア・フランスでの調査

出張期間：2013 年 12 月 22 日(日)～2013 年 12 月 30 日(月)

出張先：チュニジア（マヌーバ大学、スース大学）、フランス（CNRS 国立社会調査研究センター）

出張者：私市正年（上智大学外国語学部・教授）

概要：チュニジアでは、マヌーバ大学の Kazdaghli 教授を訪問し、アラブ政変後のイスラーム勢力の台頭と、それが引き起こす政治・社会問題について意見交換を行った。またスース大学の Abdouli 氏と、ナフダ政権が抱える諸問題について意見交換をした。フランスでは、CNRS 研究員 Muhammad Hachemaoui 氏とアルジェリアにおける政権と腐敗・汚職について意見交換を行った。

（私市正年）

⑥アメリカでの資料収集

出張期間：2014 年 1 月 19 日(日)～1 月 28 日(火)

出張先：アメリカ合衆国（ハーバード大学）

出張者：濱中新吾（山形大学地域教育文化学部・准教授）

概要：今回の出張では、ハーバード大学図書館に所蔵されている、(1)対外政策と国内世論との関連についての国際政治理論、(2)イスラエルおよびパレスチナを対象とした、和平ないし戦争に対する政策的態度の実証分析、の資料調査を行った。

（濱中新吾）

⑦タイへのキタープ調査・収集

出張期間：2014 年 2 月 6 日(木)～2 月 20 日(木)

出張先：バンコクとその周辺地域

出張者：小河久志（大阪大学グローバルコラボレーションセンター・特任助教）

概要：イスラーム地域研究推進事業に係る業務として、バンコクとその周辺域でイスラーム書籍に関する調査と収集を行った。具体的には、イスラーム書籍専門の印刷所とイスラーム書店、イスラーム学校を訪問して、ヤーウィーとアラビア語のキターブおよびタイ語のイスラーム書の流通等に関する聞き取り調査を行うとともに、それらの書籍を購入した。

（小河久志）

⑧インドネシア国際会議での研究発表

出張期間：2014年3月11日（火）～2014年3月16日（日）

出張先：インドネシア（国立イスラーム大学 Stain Jurai Siwo Metro）

出張者：赤堀雅幸（上智大学外国語学部・教授）

概要：国立イスラーム大学が開催する国際会議 International Seminar on Islamic Area Studies “Defining Muslims from Their Groups, Networks, and History”に出席し “Narrating Tales of Saints Is Making Saints: Three Hagiographic tradition of a Muslim Saint in the Egyptian Desert”と題する発表を行った。また、近郊のポンドック・プサントレン（寄宿学校）で聞き取り調査を行った。

（赤堀雅幸）

4. 外国人研究者の招聘

(1)拠点全体としての活動

該当なし

(2)研究グループの活動

①Theodorus Cornelis van der Meij 氏招聘

所属（国籍）：国立インドネシア・イスラーム大学ジャカルタ校・客員教授（オランダ）

期間：2013年5月15日（水）～2012年5月22日（水）

活動概要：5月18日に上智大学で開催された国際ワークショップ “Comparative Study of Isrā’ Mi‘āj in Southeast Asia” に参加して、“The Text of Isrā’ Mi‘āj in Indonesia: A Global Overview”と題する報告を行うとともに、討論に参加し、内外の研究者と学術交流を行った。他にも、5月20日には、上智大学および東京外国語大学の共催で開催された講演会「インドネシアにおけるイスラ・ミウラージュ物語」で講演した。さらに、5月16-17日、19日、21-22日には、上智大学において、共同研究の打ち合わせ、および、アジア文化研究所所蔵東南アジア・イスラーム関係資料を用いた調査研究を行った。

（川島緑）

②Euis Nurlaelawati 氏招聘

所属（国籍）：シャリフ・ヒダヤトゥッラー国立イスラーム大学（ジャカルタ）上級講師（インドネシア）

期間：2013 年 11 月 5 日（火）～2013 年 11 月 11 日（月）

活動概要：11 月 9 日、上智大学イスラーム研究センター主催の講演会で“Islamic Justice in Indonesia: Family Law Reforms and Legal Practices in the Religious Courts”と題する講演を行い、日本側研究者と議論を行った。11 月 10 日は NIHU イスラーム地域研究上智大学拠点「東南アジア・ムスリムと近代」研究班の研究分担者・研究協力者を中心とする、東南アジアのイスラーム研究者と懇談し、学術交流を行った。

（小林寧子）

5. 資料収集

これまでの東南アジア・キターブ研究を継続し、ジャウィ文字で書かれたイスラーム書である「キターブ」の収集を行った。東南アジア全域にわたって流通するキターブを収集し、東南アジアにおけるイスラーム・ネットワークの研究を進めるとともに、上智大学中央図書館にキターブ・コレクションを設け、蔵書をカタログ化することにより、東南アジア・キターブの研究拠点の形成を進めた。

また、2011 年以降の一連の政治変動、民主化運動の流れを追うため、リビアの政治史・政治情勢関連の書籍を収集した。さらに、今年度から開始された「イスラーム地域研究に関する学術協定」（大学間連携による共同研究）に合わせて、中東の宗教・民族マイノリティ関連の書籍を収集した。加えて、以前から継続して行っているスーフィズム関連の研究書、学術雑誌の収集も進めた。

主要な資料は次のとおり。

①資料名 東南アジア・キターブ

- ・形態：刊本
- ・冊数：111 冊
- ・資料内容：東南アジア諸語およびアラビア語で書かれたイスラーム関連書籍
- ・収集目的：東南アジアにおけるイスラーム・ネットワークの在り方を調査するため
- ・所蔵場所：上智大学アジア文化研究所図書室（中央図書館 6 階 L-612 号室）
- ・収集方法：al-Nahdi Printing Co.Ltd.ほか、バンコクとその周辺地域の書店にて直接購入
- ・収集期間：2014 年 2 月 6 日（木）～2 月 20 日（木）

②資料名 リビアの政治情勢関連資料

- ・形態：刊本
- ・冊数：8 冊
- ・資料内容：リビアの政治史、政治情勢分析
- ・収集目的：アラブ政変後のリビアに関する研究動向を調査するため

- ・所蔵場所：上智大学イスラーム研究センター（市ヶ谷キャンパス研究棟5階511号室）
- ・収集方法：日本の書店（ナガラ図書）を通じて購入
- ・収集期間：2014年3月1日（土）～2014年3月13日（木）

③資料名 中東の宗教・民族マイノリティ関連資料

- ・形態：刊本
- ・冊数：23冊
- ・資料内容：中東の宗教・民族マイノリティの歴史、思想的位置づけ
- ・収集目的：中東の宗教・民族マイノリティに関する研究動向を調査するため
- ・所蔵場所：上智大学イスラーム研究センター（市ヶ谷キャンパス研究棟5階511号室）
- ・収集方法：日本の書店（ナガラ図書）を通じて購入
- ・収集期間：2014年3月1日（土）～2014年3月13日（木）

④資料名 スーフィズム関連研究書、学術雑誌

- ・形態：刊本
- ・冊数：9冊
- ・資料内容：スーフィズム・聖者信仰・神秘主義関連
- ・収集目的：スーフィズム関連の研究の最新の動向を調査するため
- ・所蔵場所：上智大学イスラーム研究センター（市ヶ谷キャンパス研究棟5階511号室）
- ・収集方法：Amazon、Book House Network などの日本の書店を通じて購入
- ・収集期間：2013年6月10日（月）～2014年2月14日（金）

6. 研究成果・発表（論文・図書等）

■拠点発行物

〔図書〕計（３）件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
若 桑 遼 (研究協力者)	『保護領統治期チュニジアのイスラームと女性解放思想に関する基礎史料—ターヒル・ハッダード著「シャリーアと社会における我々の女性」（「立法章」を中心として）』（SIAS Working Paper Series No. 20)	上智大学イスラーム研究センター	20	2014	100
KAWASHIMA, Midori (ed.) (研究分担者) KUSHIMOTO Hiroko and SHIOZAKI Yuki (研究協力者)	<i>Comparative Study of Southeast Asian Kitabs (2): Paper on Tasawwuf and Fatwa Texts Presented at the Sophia University Workshop on May 20, 2012.</i> (SIAS Working Paper Series No. 21)	上智大学イスラーム研究センター	21	2014	40
服部美奈・編著 (拠点構成員)	『アジアのムスリムと近代（2）—1920-30年代の世界情勢とマレー世界—』（SIAS Working Paper Series No. 22)	上智大学イスラーム研究センター	22	2014	62

〔学会発表〕計（１）件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
KAWASHIMA Midori (研究分担者)	“Muslim Minorities and the Nation-State: Marginalization of Philippine Muslims and Reconstruction of Their Identity”	NIHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference	2013.11.2	Lahore, Lahore University of Management Sciences

■拠点発行物以外の研究成果物

〔論文〕計（７１）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
私市 正年 (拠点代表)	「フランスによるサハラ地域の植民地化とトゥアレグ問題」	『歴史と地理』	666	2013	1-16
	「FIS の勝利とアルジェリアの民主化挫折の再考—1988 年暴動から1992 年クーデターまで—」	『上智ヨーロッパ研究』	6	2014	95-124
	「アルジェリアにおける軍とクランと地域主義—疑似「部族集団」による政治支配の構造—」	『北アフリカ地域における主要『部族』の役割に関する調査研究報告書』（外務省報告書)		2014	101-121

川島 緑 (研究分担者)	「解説：『新しい黎明』とその著者たち」(『新しい黎明』—1960年代カイロのフィリピン・ムスリム留学生論文集邦訳・解説(8))	『上智アジア学』	31	2013	177-181
	「植民地の文明化と宗教的・民族的少数派」	『国際文化関係史研究』東京大学出版会		2013	278-299
赤堀 雅幸 (研究分担者)	「東長靖.『イスラームとスーフィズム—神秘主義・聖者信仰・道徳』名古屋大学出版会, 2013 年, 314P.」	『アジア・アフリカ地域研』	13-2	2014	300-304
	「グローバル・イスラームと地域研究」	『地域研究』	14 -1	2014	122-137
	「イスラームにおける信仰と儀礼と共同体」	宮本久雄・武田なほみ編『信とは何か—現代における〈いのち〉の泉』日本基督教団出版局		2014	163-184
	「遊牧民の末裔たち—シリア沙漠辺縁部の村の暮らし」	黒木英充編『シリア・レバノンを知るための 64 章』明石書店		2013	22-26
	「第 29 回年次大会報告 研究発表会場から 第 8 部会 第 1 発表・第 2 発表」	日本中東学会ニューズレター	132	2013	34
AKAHORI Masayuki (研究分担者)	Editor's Note	<i>The Journal of Sophia Asian Studies</i>	31	2014	iii-iv
	Introductory Remarks: New Emerging Networks of Sufis and Saint Venerators Contemporary in Islam	<i>The Journal of Sophia Asian Studies</i>	31	2014	1-2
	Islamic Saints and the Islam of Saints: A Study of Popular Religion	<i>The Journal of Sophia Asian Studies</i>	31	2014	3-16
岩崎えり奈 (研究分担者)	「エジプトの革命と貧困—モラル・エコノミーの観点から」	『神奈川大学評論』	76	2013.12	64-74
IWASAKI Erina and H. El-Laithy (研究分担者)	“Estimation of Poverty in Greater Cairo: Case Study of Three ‘Unplanned’ Areas”	<i>African Development Review</i>	25	2013.6	173-188
新井 和広 (研究分担者)	「商品化するイスラーム—雑誌『アル=キッサ』と預言者一族」	倉沢愛子編著『消費するインドネシア』		2013	241-268
	「アジア社会のイスラーム化と移民コミュニティ」	吉原和男ほか編『人の移動事典—日本からアジアへ・アジアから日本へ』東京：丸善出版		2013	368-369

北澤 義之 (拠点構成員)	「35 章」	松本弘編『現代アラブを知るための56 章』明石書店		2013	210-213
	「36 章」	同上		2013	214-218
	「46 章」	同上		2013	261-264
	「アラブ連盟(LAS)—中東・アラブ諸国の変容」	吉川元他編『グローバル・ガヴァナンス論』法律文化社		2014	82-93
小林 寧子 (研究分担者)	「ムスリムの暮らし」(第 13 章)	村井吉敬・佐伯奈津子・間瀬朋子編著『現代インドネシアを知るための60 章』明石書店		2013	86-90
	「宗教」(第 26 章)	同上		2013	157-161
	「イスラーム」(第 27 章)	同上		2013	162-167
高岡 豊 (拠点構成員)	「シリアーイスラーム過激派の伸張とその背景」	『中東研究』	519	2014	37-51
	「研究ノート イスラーム過激派とマシュリク社会ー「アラブの春」とテロリズムの将来ー」	『アジア経済』	55-1	2014	53-66
TORIYA Masato (研究分担者)	“Afghanistan as a Buffer State between Regional Powers in the Late Nineteenth Century: An Analysis of Internal Politics Focusing on the Local Actors and the British Policy”	<i>Comparative Studies on Regional Powers</i>	14	2014	49-61
三沢 伸生 (拠点構成員)	「戦間期のイスタンブールにおける日本の経済活動 (6) : コンスタンチノーブル日本商品館 (イスタンブール日本商品館) に関する研究」	『アジア文化研究所研究年報』(東洋大学)	48	2014.2	129-148
	「1950 年代における在日タタール人に関する史料: データベース化すべき私文書史料の一例」	『アジア文化研究所研究年報』(東洋大学)	48	2014.2	219-224
MORIMOTO Kazuo (拠点構成員)	“The Prophet’s Family as the Perennial Source of Saintly Scholars: Al-Samhudi on ‘Ilm and Nasab”	Catherine Mayeur-Jaouen and Alexandre Papas (eds.), <i>Family Portraits with Saints: Hagiography, Sanctity, and Family in the Muslim World</i> , Berlin: Klaus Schwarz Verlag and École des Hautes Études en Sciences Sociales		2014	106-124
‘Abd Allāh b. Muḥammad Ibn Katīla Ḥusaynī; <u>Kāzū’ū Mūrīmūtū</u> (ed.) (拠点構成員)	“Bayān al-ad‘iyā”	Rasūl Ja‘fariyān [ed.], <i>Jashn-nāmah-i Ustād Sayyid Ahmad Ishkīwarī</i> , Tehran: Nashr-i ‘Ilm, Qom: Kitābkhānah-i Takhassuṣ-i Tārīkh-i Islām wa Īrān and [Tehran:] Khānah-i Kitāb-i Tīhrān		1392 AHS (2013)	959-1004

森本 一夫 (拠点構成員)	「ナーセル・ホスロウとその『旅行記』：屋上に牛はいたのか」	長谷部史彦編『地中海世界の旅人：移動と記述の中近世史』慶應義塾大学出版会		2014	237-356
横田 貴之 (研究分担者)	「ムバーラク政権によるムスリム同胞団のコオペレーションの再考」	『アジア経済』	55/1	2014	9-27
	「エジプト・ムスリム同胞団の危機と今後の展望」	『中東研究』	519	2014	14-21
	「混迷するエジプト政治」	『インテリジェンスレポート』	62	2013	17-27
	「エジプトにおけるクーデタとムスリム同胞団」	渡邊直樹編『宗教と現代がわかる本2014』平凡社		2014	120-123
荒井 康一 (研究協力者)	「トルコにおける親イスラーム政党の成功と今後の課題：AKP 中道化の背景とゲズィ抗議運動の意味」	『中東研究』	51	2014.2	29-36
今井 真士 (研究協力者)	「憲法起草と暫定政権期の政党政治：ポスト・ムバーラク期のエジプトにおける政党間対立の分極化過程」	『日本中東学会年報』	29-1	2013	41-66
粕谷元 (研究協力者) ・宇野陽子・ 岩坂将充 (研究協力者) (共訳)	「トルコ大国民議会内規」	八尾師誠・池田美佐子・粕谷元編『全訳 イラン・エジプト・トルコ議会内規』公益財団法人東洋文庫		2014	157-216
粕谷 元 (研究協力者)	「トルコ大国民議会内規の歴史とその研究意義」	八尾師誠・池田美佐子・粕谷元(編)『全訳 イラン・エジプト・トルコ議会内規』公益財団法人東洋文庫		2014	45-60
金谷 美紗 (研究協力者)	「1.25 革命後のエジプトにおけるサラフィー主義者の行動：ムスリム同胞団との関係に注目して」	『中東研究』	517	2013	54-64
	「揺れるシナイ半島：イスラーム過激派の台頭と民主化への影響」	『中東研究』	519	2013	52-63
	「2013 年 7 月クーデタ以降のエジプト政治におけるムスリム同胞団」	(内閣調査室からの委託報告書)		2014.3	
	「エジプト憲法改正国民投票：不安要素抱え民主化へ再出発」	『国際開発ジャーナル』	688	2014.3	44-45
吉川 卓郎 (研究協力者)	「中東・マグレブ諸国における異議申し立てのネットワークーヨルダンの事例から」	松下洸・山根健至編著『共鳴するガヴァナンス空間の現実と課題ー「人間の安全保障」から考える』晃洋書房		2013	172-185
小村 明子 (研究協力者)	「『アッサラーム』誌解題ーあるイスラーム誌を通して見た戦後日本のイスラーム史ー」	早稲田大学アジア・ムスリム研究所リサーチペーパー・シリーズ	1	2013.11	17-35, 36-117
	「日本におけるイスラームの歴史」	『UAE』日本 UAE 協会	54	2013.7	16-19

白谷 望 (研究協力者)	「アラブの春」が証明したモロッコの政治体制の盤石性一名目的な政権交代と牙を抜かれたサラフィー主義	『中東研究』	517	2013	27-35
	「モロッコにおけるイスラーム主義政党政権の抱える課題」	『海外事情』	61	2013	63-76
SUZUKI Hiroyuki (研究協力者)	“Understanding the Palestinian Intifada of 1987: Historical Development of the Political Activities in the Occupied Territories”	<i>Annals of Japan Association for Middle East Studies</i>	29-2	2014	171-197
鈴木 啓之 (研究協力者)	「抵抗する市民社会——パレスチナ被占領地を事例に——」	『関連社会科学』	23	2014	35-53
飛内 悠子 (研究協力者)	「ゴシェニ教会とクク人：都市ジュバから見る南スーダンのキリスト教」	<i>Journal of Area Based Global Studies</i>	4	2013	30-60
TOBINAI Yuko (研究協力者)	“Christianity in/and Greater Sudan: The Formation of Country Image among Christians in Khartoum”	『上智アジア学』	31	2013	123-138
浜中 新吾 (研究協力者)	「首相公選制：イスラエル」	『選挙と民主主義』吉田書店		2013	257-274
福永 浩一 (研究協力者)	「エジプトにおけるムスリム同胞団の危機：ムルシー大統領の退陣と新暫定政府への抗議デモに関して」	『中東研究』	518	2013.10	75-84
溝渕 正季 (研究協力者)	「シリア危機はなぜ長期化しているのか？変容する反体制勢力と地政学的攻防」	『国際安全保障』	41/4	2014	85-101
溝渕 正季 (研究協力者)	「レバノン国民議会選挙：制度的特異性とそのダイナミズム」	『シリア・レバノンを知るための64章』		2013	
	「シリア危機と混迷のレバノン：激化する権力闘争、分裂する社会、台頭するサラフィー主義」	『中東研究』	517	2013	14-26
<u>MIZOBUCHI Masaki</u> (研究協力者) and <u>TAKAOKA Yutaka</u> (拠点構成員)	“The Myth of the ‘New Phoenicians’: Are Lebanese People Really Cosmopolitans?”	<i>Mediterranean Review</i>	6/1	2013	83-112.
吉田 敦 (研究協力者)	「脱領域化する危機の位相と「開発」」	『情況』情況出版	第4期 2-2	2013	8-21
吉田 敦 (研究協力者)	「バンジャマン・ストラ著（小山田宣子・渡辺司訳）『アルジェリアの歴史 — フランス植民地支配・独立戦争・脱植民地化』（世界歴史叢書）明石書店、2011年」	『歴史学研究』	909	2013	62
青山 亨・他 (分担執筆) (研究協力者)	(69項目)	『岩波世界人名大辞典』岩波書店	1, 2	2013	3586
市川哲・奈倉京子・小河久志 (研究協力者)	「食文化から見る中国系移民の現地化に関する民族誌的研究：『上火・下火』概念を手掛りに」	『食生活科学・文化及び環境に関する研究助成 研究紀要』	26	2013	51-57

小河久志 (研究協力者) ・市野澤潤平	「タイ南部沿岸における観光開発と漁業—プラチュワップキーリカン県バーンサパーン湾を事例として—」	『研究論文集』	116	2013	39-59
小河 久志 (研究協力者)	「タイに広がるイスラーム復興運動」	『P's Pod』(笹川平和財団 (アジア平和構築イニシアティブ、Web 版)		2014	Web 上で公開
塩崎 悠輝 (研究協力者)	「マレーシアにおけるウラマーのジレンマ—1980 年代のカーフィル (不信仰者) 宣告をめぐる与野党の論争—」	東南アジア学会『東南アジア—歴史と文化—』	42	2013	5-31
	「日本ムスリム社会の概観—過去と未来—」	『ムスリムの日本社会への定着—アキダ、フィクフ、社会関係—』International Institute of Islamic Thought		2013	54-57
	「ファトワーのカーイスラーム世界でウラマーの見解はどのような影響力を持つか」	渡邊直樹編『宗教と現代がわかる本』平凡社		2014	116-119
小牧 幸代 (研究協力者)	「インド最大のテーマパークにおけるイスラーム・イメージの消費」 http://islamandeconomy.web.fc2.com/aken/essay.html	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究「イスラームに基づく経済活動・行為」リレーエッセイ		2014.3	Web 上で公開
高尾賢一郎 (研究協力者)	「シャイフ・アフマド・クフターロー」	黒木英充編『シリア・レバノンを知るための 64 章』明石書店		2013.8	119-121
TAKAO Kenichiro (研究協力者)	“Sufi Traditions in Modern Syria: Prosopography of the Ulemas of Damascus in the Thirteenth to Fifteenth Hijri Centuries and the Naqshbandī Khālīdī Sufi Order”	『上智アジア学』	31	2013.12	17-34

〔図書〕計 (7) 件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
小杉泰・赤堀雅幸・山下王世 (研究分担者)	『広がり続けるイスラームの秘密』	宗教情報センター		2014	215
加藤博・岩崎えり奈 (研究分担者)	『現代アラブ社会—「アラブの春」とエジプト革命』	東洋経済新報社		2013.12	303
登利谷 正人 (研究分担者)	「19 世紀後半におけるアフガニスタン情勢と英領インド関係—第二次アフガン戦争期を中心に—」	上智大学アジア文化研究所	16	2014	49

MISAWA Nobuo (ed.) (拠点構成員)	<i>Album of Tatar Exiles in Interwar Japan</i>	ACRI, Toyo University		2014	ii+46
三沢伸生編 (拠点構成員)	『イスタンブール日本商品館関係資料集：戦間期のトルコにおける日本の経済活動(1)』	東洋大学		2014.2	50
八尾師誠・池田美佐子・粕谷元編 (研究協力者)	『全訳 イラン・エジプト・トルコ議会内規』	公益財団法人東洋文庫		2014	411
塩崎悠輝編著 (研究協力者)	『ムスリムの日本社会への定着—アキダ、フィクフ、社会関係—』	International Institute of Islamic Thought		2013	

〔翻訳〕計（２）件

著者名	書名	出版社	巻	発行年	ページ
T. ミッチェル著、大塚和夫・赤堀雅幸訳 (研究分担者)	『エジプトを植民地化する—博覧会世界と規律訓練的権力』	法政大学出版会		2014	328
福田邦夫・吉田敦共訳 (研究協力者)	『グローバル経済の誕生 貿易が作り変えたこの世界』	筑摩書房		2013	435

〔学会発表〕計（５０）件

発表者名	発表タイトル	学会等名	発表年月日	発表場所
私市正年 (拠点代表)	“The Youth of the Zawiya al-Hamil around the End of the 1940’s, Their Algerian Nationalist Thought and Movements- A Preliminary Analysis concerning the Newfound Documents <i>al-Ruh</i> ”	International Seminar on Islamic Area Studies	2014.3.13	State Islamic College, Lampung, Indonesia
KAWASHIMA Midori (研究分担者)	“Journey of Mindanao Ulama in the Late 18th to Early 19th Century”	Symposium “Philippine Muslim Historiography after Majul”	2013.8.6	National Historical Institute of the Philippines, Manila
	“Muslim Minorities and the Nation-State: Marginalization of Philippine Muslims and Reconstruction of Their Identity”	NIHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference	2013.11.2	Lahore, Lahore University of Management Sciences
	「南部フィリピン紛争—民族・宗教間の対立と共存」	再考・アジアの戦争—私たちは何を学ぶべきか	2013.12.14	成蹊大学アジア太平洋研究センター（東京）
	“Mindanao <i>ulama</i> in the 19th Century Malay World: The Journey and Works of Sheik Muhammad Said bin Shafatullah”	International Seminar on Islamic Area Studies: Defining Muslims from their Groups, Networks and History	2014.3.13	State Islamic College Jurai Siwo Metro, Indonesia

赤堀 雅幸 (研究分担者)	「イスラームにおける共生—思想と実践、伝統と現在」	上智大学神学部教育イノベーション・上智大学共生学研究会共催シンポジウム「宗教的共生と将来世代—たなごころからたなごころへ」	2013.7.13	上智大学
	「イスラームにおける信仰と儀礼と共同体」	第 60 回上智大学夏期神学講習会	2013.7.28	上智大学
AKAHORI Masayuki (研究分担者)	“Narrating Tales of Saints is Making Saints: Three Different Hagiographic Traditions of a Muslim Saint in the Egyptian Desert”	International seminar on Islamic Area Studies “Defining Muslims from Their Groups, Networks, and History”	2014.3.13	STAIN Jurai Siwo Metro, Lampung, Indonesia
小林 寧子 (研究分担者)	「インドネシア・イスラーム関係史料について」	「インドネシア史料解題作成のための研究会」(京都大学東南アジア研究所共同利用・共同研究拠点「東南アジア研究の国際共同研究拠点」プロジェクト研究課題「植民地後期インドネシアの社会と経済に関する歴史資料の研究」)	2014.2.2	南山大学
	「イスラーム定期刊行物から見る 1930 年代の世界：資料としての Pedoman Masyarakat と Adil」	セミナー「世界史の中のインドネシアを考える」	2014.3.28	南山大学
高岡 豊 (拠点構成員)	“Infiltration of ‘Mujahidin’ into Syria: The Essence of the Problem”	International conference “The Syrian Uprising: Drivers and Dynamics”	2013.6.18	Centre for Syrian Studies, St. Andrews University
高橋 圭 (研究分担者)	「カリフなき時代の「イスラーム的」連帯—東洋連盟の事例から」	慶應義塾大学言語文化研究所公募研究「「断絶」と「新生」—キリスト教世界とイスラーム世界におけるその多様なあらわれ」第 6 回研究会	2013.9.28	慶應義塾大学
登利谷正人 (研究分担者)	「アフガニスタン・英領インド国境部族地域をめぐる諸政策について—クッラム周辺地域の事例から—」	日本中東学会第 29 回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャンパス
	「アフガニスタンにおけるナショナリズム運動の類型と展開」	上智大学アジア文化研究所：中東周縁国家のナショナリズムの諸問題研究会	2013.11.9	上智大学四谷キャンパス

三沢 伸生 (拠点構成員)	「極東・日本のタタール人 : 20 世紀の国際情勢の中で」	シンポジウム「タタールの過去・現在、そして未来へ」	2013.5.19	トルコ大使館文化部ユヌス・エムレトルコ文化センター
三代川寛子 (研究分担者)	「20 世紀初頭におけるコプトとファラオ主義：ナイルーズ祭復興運動を事例に」	古代・東方キリスト教研究会第 13 回研究会	2013.6.8	東京大学駒場キャンパス
	「20 世紀初頭におけるコプト・キリスト教徒の民族意識形成—コプト語復興運動を事例に」	日本オリエント学会第 55 回大会	2013.10.27	京都外国語大学
MIYOKAWA Hiroko (研究分担者)	“The Struggle over Egyptianness: A Case Study of the Egyptian Nayruz Festival”	Minorities of the Modern Middle East Workshop	2013.4.27	Portland State University, Oregon, USA
	“The Revival of the Coptic Language and the Formation of Coptic Ethno-Religious Identity in Modern Egypt”	American Academy of Religion	2013.11.23	Baltimore Convention Center
MORIMOTO Kazuo (拠点構成員)	“Varying Criteria for a True Sayyid: Discrepancy between Genealogists and Jurisprudents”	The Sixth Biennial Convention of the Association for the Study of Persianate Societies (ASPS)	2013.9.2	Sarajevo, Bosnia and Herzegovina
YOKOTA Takayuki (研究分担者) SUECHIKA Kota, and KIKKAWA Takuro (研究協力者)	“Islamism in Democratizing States: Comparative Studies on the Muslim Brotherhood Movements in Egypt, Syria and Jordan after the 2011 Arab Spring”	PSS-ISA Joint Conference	2013.6.28	Budapest, Hungary
今井 真士 (研究協力者)	「エジプト第二共和政と単一政党の優位? : 自由公正党の優位政党(ないしは覇権政党)化の諸条件」	日本中東学会第 29 回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャンパス
	「文脈と過程追跡の論理的基礎: 比較歴史分析における着想と分析手法の発展」	日本国際政治学会	2013.10.27	新潟コンベンションセンター
粕谷 元 (研究協力者)	「トルコはいかにして「政教分離国家」になったのか—トルコにおける政教関係の歴史」	日本トルコ文化交流会第 31 回セミナー	2013.7.13	トルコ文化センター
	「オスマン帝国はいつ滅亡したか?」	東洋文庫現代イスラーム研究班研究会	2014.2.21	東洋文庫
金谷 美紗 (研究協力者)	「エジプトの混迷する移行期政治における利害調整の失敗: 権威主義 体制時代の競合性と移行後のルール不在」	日本比較政治学会	2013.6.23	神戸大学
小村 明子 (研究協力者)	「宗教団体によるボランティア活動の在り方とその課題: 日本ヒューマニティ・ファースト及びある日本人改宗者による支援活動について」	日本中東学会第 29 回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャンパス

清水 雅子 (研究協力者)	「非民主制下の競合的選挙と権力共有政権:「パレスチナ国民和解合意」に伴う政治過程とその膠着」	日本中東学会第 29 回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャンパス
	「非民主制下の半大統領制と政治的不安定:パレスチナ自治政府の執政内部の緊張と憲政危機」	日本比較政治学会	2013.6.22	神戸大学
鈴木 啓之 (研究協力者)	「『パレスチナ革命』の胎動と発展:1970年代における揺れ動く国家間関係とパレスチナ」	日本中東学会第 29 回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャンパス
SUZUKI Hiroyuki (研究協力者)	“Japanese Society and Palestine: Through Images from Japanese Books and Journals in the 1970s”	Korean Association of Middle East Studies (KAMES)’s International Conference	2013.10.11	Dongguk University, KOREA
TOBINAI Yuko (研究協力者)	“A Study of the Christian Revival Movement in Greater Sudan: From the Perspective of Kuku’s Migration”	Sudan Studies Association 32th Annual Conference	2013.5	University of Pennsylvania
	“How had People Become ‘True’ Christians?: Kuku’s Migration and the Christian Revival Movement in Greater Sudan” (ポスター発表)	京都大学アフリカ地域研究資料センター、科学研究費基盤 S「アフリカの潜在力を活用した紛争解決と共生の実現に関する総合的地域研究」共催国際シンポジウム	2013.10	京都大学
飛内 悠子 (研究協力者)	「祈りと呪いの間?:南スーダン-ウガンダ国境地帯におけるキリスト教徒の行為と言説」	日本文化人類学会第 47 回研究大会	2013.6	慶応大学
	「「国内避難民」とは誰か:スーダンの歴史的文脈から」	上智大学アジア文化研究所主催第4回アジア研究セミナー「スーダンの国内避難民を巡って:地域研究の視点と人道支援の現場から」	2013.7	上智大学
浜中 新吾 (研究協力者)	「中東諸国の体制転換/非転換の論理」	日本比較政治学会	2013.6.23	神戸大学
福永 浩一 (研究協力者)	「ムスリム同胞団形成期におけるハサン・バンナーの活動と思想-回想録と初期原則集を中心に-」	日本中東学会第 29 回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャンパス
錦田 愛子・浜中 新吾 (研究協力者)・高岡 豊 (拠点構成員)・溝渕 正季 (研究協力者)	「レバノン在住パレスチナ人にみられる越境移動と政治意識:2012年世論調査に基づく比較分析」	日本中東学会第 29 回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャンパス

溝渕 正季 (研究協力者)	「シリア危機はなぜ長期化しているのか？変容する叛乱勢力と国際介入のジレンマ」	国際安全保障学会 第5回定例研究会	2013.7.6	同志社大学
青山 亨 (研究協力者)	「東南アジアの「インド化」再考」	第58回国際東洋学 者会議	2013.5.24	日本教育会館
	“Social Integration in Majapahit as Seen in an Old Javanese Court Narrative”	The Second International Symposium of Inter-Asia Research Networks	2014.3.9	東洋文庫
小河 久志 (研究協力者)	「周辺イスラームのダイナミズムータイ南部村落におけるイスラーム復興運動と宗教実践の変容ー」	第10回日本タイ学 会若手研究会	2013.10.26	京都大学
	「イスラーム教育の発展と社会・文化的インパクト：タイの事例」	静岡県立大学グロー ーバル・スタディー ズ研究センター特 別講演会「イスラ ームと教育」	2013.12.5	静岡県立大学
塩崎 悠輝 (研究協力者)	「ジョホールのムフティー、サイイド・アラウィー・アル＝ハッダードとサラフィーをめぐる論争ー1930年代の東南アジアにおける法学論争と中東からの影響ー」	日本中東学会第29 回年次大会	2013.5	大阪大学豊中キャンパス
SHIOZAKI Yuki (研究協力者)	“The Controversy between Ahmad Hassan and Sayyid Alawi Tahir al-Haddad: The Conflict between the Traditional Shafi’i School and Salafi in Southeast Asia in 1930s”	“Conflicts and Coexistence in the Contemporary Muslim World”	2013.6	京都大学
	“The Dilemma of the Shafi’i School on the Issue of the Categorization of Non-Muslims in Malaysia”	“Shariah, Governance, and Interreligious Relations”	2013.11	マレーシア国際イスラーム大学
塩谷 もも (研究協力者)	「旅と信じること：インドネシアからのメッカ巡礼を例として」	島根県立大学総合 文化講座	2013.10.16	島根県立大学
山口 元樹 (研究協力者)	「オランダ領東インドにおけるアラブ人コミュニティの教育活動：1920年以降の停滞と対応」	東南アジア学会（関 東例会）	2013.6.22	東京外国語大学
	「オランダ領東インドにおけるアラブ人コミュニティの教育活動：1920年代以降の展開とアイデンティティの形成」	東南アジア学会・第 90回研究大会	2013.12.7	東京外国語大学
小牧 幸代 (研究協力者)	「インド・パキスタン・バングラデシュ・スリランカ・イラン・トルコにおけるイスラーム聖遺物信仰調査：オリジナルとレプリカとグッズの種類と分布を通して見えてくる「イスラーム地域」像」	海外学術調査フォー ラム：南・西アジ ア・北アフリカ分科 会	2013.6.29	東京外国語大学ア ジア・アフリカ言 語文化研究所

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 イスラーム地域研究センター

代表：小杉泰（京都大学イスラーム地域研究センター・センター長、
大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授）

中心テーマ 『イスラーム世界の国際組織』

【研究組織】

（研究拠点構成員）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
小杉 泰	京都大学イスラーム地域研究センター・センター長、アジア・アフリカ地域研究研究科・教授	研究拠点代表 研究総括・中東コーディネーター・「イスラーム経済とイスラーム法」研究班責任者 (イスラーム法、イスラーム学、現代中東政治)
東長 靖	イスラーム地域研究センター・副センター長、アジア・アフリカ地域研究研究科・教授	「広域タリカ」研究班責任者 (スーフィズム思想研究)
岡本 正明	イスラーム地域研究センター研究員、東南アジア研究所・准教授	東南アジアコーディネーター
帯谷 知可	イスラーム地域研究センター研究員、地域研究統合情報センター・准教授	中央アジアコーディネーター
今井 静	イスラーム地域研究センター研究員、立命館大学・日本学術振興会特別研究員(PD)	「国際関係」研究班研究協力者 (現代ヨルダン研究)
黒田 賢治	イスラーム地域研究センター研究員、広島大学大学院総合科学研究科・日本学術振興会特別研究員(PD)	「国際関係」研究班研究協力者 (イラン、シーア派、北米)
末近 浩太	イスラーム地域研究センター研究員、立命館大学国際関係学部・准教授	「国際関係」研究班研究分担者 (中東地域研究、国際政治学、比較政治学)
須永恵美子	イスラーム地域研究センター研究員、大阪大学・日本学術振興会特別研究員(PD)	「国際関係」研究班研究協力者 (南アジアのイスラーム)
竹田 敏之	イスラーム地域研究センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科・非常勤講師/特任研究員	「国際関係」研究班研究協力者 (アラビア語学、現代アラブ文化)
千葉 悠志	イスラーム地域研究センター研究員、東京大学・日本学術振興会特別研究員(PD)	「国際関係」研究班研究協力者 (中東メディア論、国際コミュニケーション論、現代メディア論)

所 木綿子	イスラーム地域研究センター研究員、東京外国語大学・日本学術振興会特別研究員(PD)	「広域タリカ」研究班研究協力者(北アフリカのイスラーム思想)
飛奈 裕美	イスラーム地域研究センター研究員、京都大学学際融合教育研究推進センター(人間の安全保障開発連携教育ユニット)・特定講師	「国際関係」研究班研究協力者(パレスチナ研究)
長岡 慎介	イスラーム地域研究センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究分担者(イスラーム金融、イスラーム経済論)
子島 進	イスラーム地域研究センター研究員、東洋大学国際地域学部・准教授	南アジアコーディネーター
萩原 淳	イスラーム地域研究センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科・非常勤講師	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者(湾岸諸国のエネルギー経済)
平野 淳一	イスラーム地域研究センター研究員、千葉大学大学院社会文化研究科・日本学術振興会特別研究員(PD)	「国際関係」研究班研究協力者(近代イスラーム政治思想)
藤井 千晶	イスラーム地域研究センター研究員、大阪大学大学院言語文化研究科・日本学術振興会特別研究員(PD)	「広域タリカ」研究班研究協力者(東アフリカにおけるイスラーム知識人)
堀抜 功二	イスラーム地域研究センター研究員、一般財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター・研究員(東京大学拠点研究協力者)	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者(湾岸アラブ諸国の政治・社会動態の研究)
丸山 大介	イスラーム地域研究センター研究員、京都大学・日本学術振興会特別研究員(PD)	「広域タリカ」研究班研究協力者(イスラームの聖者論と聖者信仰)
安田 慎	イスラーム地域研究センター研究員、帝京大学経済学部観光経営学科・講師	「広域タリカ」研究班研究協力者(中東地域研究、イスラミック・ツーリズム、中東観光史)
山尾 大	イスラーム地域研究センター研究員、九州大学大学院比較社会文化研究院・専任講師	「国際関係」研究班研究協力者(イラク政治、中東政治、比較政治学)
山尾 博子	イスラーム地域研究センター研究員	「広域タリカ」研究班研究協力者(東南アジアと中東のネットワーク)
山根 聡	イスラーム地域研究センター研究員、大阪大学大学院言語文化研究科・教授、京都大学・非常勤講師	南アジア・コーディネーター・「国際関係」研究班責任者(南アジアのイスラーム文化、ウルドゥー文学)
イディリス・ダニシマズ	イスラーム地域研究センター研究員、同志社大学グローバル・スタディーズ研究科・助教	「広域タリカ」研究班研究協力者(イスラーム思想、イスラーム地域研究)

ムハンマド・ハーキミー	イスラーム地域研究センター研究員、マレーシア国民大学経済学部・講師	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者 (イスラーム農業経済)
メフブーブ・ウル＝ハッサン	イスラーム地域研究センター研究員、国際イスラーム大学客員・教授	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者 (イスラーム経済・金融、開発経済)
今松 泰	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科・客員准教授	「広域タリーカ」研究班研究分担者 (オスマン朝史/宗教史・文化史)

研究グループ：「イスラーム世界の国際組織とグローバル・ネットワーク」

(研究グループメンバー)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
小杉 泰	京都大学イスラーム地域研究センター・センター長、アジア・アフリカ地域研究研究科・教授	研究グループ代表 研究総括・中東コーディネーター・「イスラーム経済とイスラーム法」研究班責任者 (イスラーム法、イスラーム学、現代中東政治)
東長 靖	イスラーム地域研究センター・副センター長、アジア・アフリカ地域研究研究科・教授	「広域タリーカ」研究班責任者 (スーフィズム思想研究)
末近 浩太	立命館大学国際関係学部・准教授	「国際関係」研究班の研究分担者 (中東地域研究、国際政治学、比較政治学)
長岡 慎介	イスラーム地域研究センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班の研究分担者 (イスラーム金融論、イスラーム経済学)
濱田 正美	龍谷大学文学部・特別任用教授	「広域タリーカ」研究班の研究分担者 (東洋史)
保坂 修司	一般財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター・研究理事	「国際関係」研究班の研究分担者 (湾岸地域近現代史)
森 伸生	拓殖大学海外事情研究所・教授、同大イスラーム研究所・所長	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班の研究分担者 (イスラーム法)

山根 聡	大阪大学大学院言語文化研究科・教授、京都大学・非常勤講師	南アジア・コーディネーター・「国際関係」研究班責任者 (ウルドゥー語学、文学、南アジアにおけるイスラーム文化)
今松 泰	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、アジア・アフリカ地域研究研究科・客員准教授	「広域タリーカ」研究班の研究分担者 (オスマン朝史/宗教史・文化史)

(研究グループ海外共同研究者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
ティエリ・ザルコンヌ	フランス国立科学研究センター・主任研究員	海外協力者、「広域タリーカ」研究班の研究分担者
トゥリア・ガイベス	ブレーズパスカル大学・准教授	海外協力者、「国際関係」研究班の研究分担者
メフメット・アシュタイ	英ダラム大学・上級講師	海外協力者、「イスラーム経済とイスラーム法」研究班の研究分担者

(研究グループ研究協力者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
石黒 大岳	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター・研究員 (東京大学拠点、上智大学拠点研究協力者)	「国際関係」研究班研究協力者、比較政治学、クウェート、バーレーン
伊藤 寛了	東京外国語大学外国語学部・非常勤講師/(公財)アジア福祉教育財団難民事業本部業務課	「国際関係」研究班研究協力者、トルコ近現代史、トルコ地域研究
今井 静	立命館大学・日本学術振興会特別研究員(PD)/客員協力研究員	「国際関係」研究班研究協力者、現代ヨルダン研究
小倉 智史	京都大学文学研究科西南アジア史学研究室・博士課程	「国際関係」研究班研究協力者、カシミール地方の歴史
小田 尚也	立命館大学政策科学部・教授	「国際関係」研究班研究協力者、開発経済・南アジア地域研究
吉川 卓郎	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部・准教授 (東京大学拠点、上智大学拠点研究協力者)	「国際関係」研究班研究協力者、比較政治学、国際政治学、中東地域研究
黒崎 卓	一橋大学経済研究所・教授	「国際関係」研究班研究協力者、開発経済・南アジア(パキスタン)経済

黒田 景子	鹿児島大学法文学部・教授	「国際関係」研究班研究協力者、 南タイ・北部マレーシアにおける タイ語話者ムスリム居住地域の歴史研究
黒田 賢治	広島大学総合科学研究科・日本学術振興会特別 研究員(PD)	「国際関係」研究班研究協力者、 イラン、シーア派、北米
幸加木 文	東京外国語大学大学院地域文化研究科・博士後 期課程	「国際関係」研究班研究協力者、 地域研究（トルコ）
佐々木拓雄	久留米大学法学部・准教授	「国際関係」研究班研究協力者、 インドネシア・イスラーム研究
澤江 史子	東北大学大学院国際文化研究科・准教授 （東京大学拠点研究協力者）	「国際関係」研究班研究協力者、 トルコ現代政治
須永恵美子	大阪大学・日本学術振興会特別研究員（PD）	「国際関係」研究班研究協力者、 南アジアのイスラーム
竹田 敏之	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究 科・非常勤講師/特任研究員	「国際関係」研究班研究協力者、 アラビア語学・現代アラブ文化
多和田裕司	大阪市立大学大学院文学研究科・教授	「国際関係」研究班研究協力者、 文化人類学、マレーシア地域研究、 東南アジア研究
千葉 悠志	東京大学人文社会系研究科・日本学術振興会特 別研究員（PD）	「国際関係」研究班研究協力者、 中東メディア論、国際コミュニケーション論、現代メディア史
飛奈 裕美	京都大学学際融合教育研究推進センター(人間の 安全保障開発連携教育ユニット)・特定講師	「国際関係」研究班研究協力者、 パレスチナ問題
西野 正巳	防衛省防衛研究所研究部・主任研究官	「国際関係」研究班研究協力者、 近現代政治思想
野中 葉	慶応義塾大学 SFC 研究所・上席所員（訪問）、同 大学総合政策学部・非常勤講師 （上智大学拠点研究協力者）	「国際関係」研究班研究協力者、 現代インドネシア研究
平野 淳一	千葉大学大学院社会文化研究科・日本学術振興 会特別研究員（PD） （早稲田大学拠点研究協力者）	「国際関係」研究班研究協力者、 近代イスラーム政治思想
樋口 征治	中東調査会・嘱託	「国際関係」研究班研究協力者、 中東の政治と社会
松村 耕光	大阪大学言語文化研究科・教授	「国際関係」研究班研究協力者、 ウルドゥー文学、イクバル研究
萬宮 健策	東京外国語大学大学院総合国際学研究院・准教 授	「国際関係」研究班研究協力者、 シンディー語、パキスタン・ア フガニスタン情勢

宮坂 直史	防衛大学校国際関係学科・教授	「国際関係」研究班研究協力者、安全保障政策論
山尾 大	九州大学大学院比較社会文化研究院・専任講師	「国際関係」研究班研究協力者、現代イラク政治、中東地域研究
イディリス・ダニシマズ	同志社大学グローバルスタディーズ研究科・助教 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、スーフィズム、スーフィーによるクルアーン解釈
外川 昌彦	広島大学大学院国際関係協力研究科・准教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、文化人類学(南アジアのイスラーム研究)
石田 友梨	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、イスラーム思想史
上野 愛美	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、トルコ・タリカ研究
内山 明子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、イラン・イマームザーデ研究
遠藤 春香	ロンドン大学東洋アフリカ研究学院・研究生 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、イスラーム思想史
岡戸 真幸	上智大学グローバルスタディーズ研究科・日本学術振興会特別研究員(PD) (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、地域研究、文化人類学、社会的ネットワーク論、移動
加藤 瑞絵	上智大学・非常勤講師 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、イスラーム思想史
鎌田 繁	東京大学東洋文化研究所・教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、シーア派イスラーム思想
苅谷 康太	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・助教 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、西アフリカのイスラーム
川本 正知	奈良産業大学地域公共総合研究所・教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、中央アジア史
木下 博子	京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科イスラーム地域研究センター・研究員 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、東南アジアと中東のネットワーク
後藤 明	東京大学・名誉教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、前近代聖者信仰

小牧 幸代	高崎経済大学地域政策学部・教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、社会人類学(南アジア・ムスリム社会)
斎藤 剛	神戸大学大学院国際文化学研究科・准教授 (東京大学拠点、上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、近現代における政治・社会思想の形成と動態
坂井 信三	南山大学人文学部・教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、西アフリカのイスラーム
澤井 真	東北大学大学院文学研究科・博士後期課程 カイロ・アメリカン大学大学院・修士課程 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、宗教学・初期スーフィズム、神秘主義方法論
塩崎 裕子	上智大学外国語学部・日本学術振興会特別研究員 (PD) (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、文化人類学・マレー世界におけるイスラーム的知の伝達
篠田 知暁	名古屋大学・非常勤講師 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、シャリーフ王朝期モロッコにおける諸社会集団の形成と変容
高尾賢一郎	一般財団法人中東協力センター、上智大学アジア文化研究所・共同研究所員 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、現代シリアにおけるシャイフ・アフマド・クフターローのイスラーム理解、スーフィズム思想
所 (柝掘) 木綿子	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・日本学術振興会特別研究員 (PD) (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、マグレブにおける近代とスーフィズム
飛内 悠子	上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻・博士課程 日本学術振興会特別研究員 (DC) (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、人類学・スーダン国内避難民北部スーダンの教育人類学
中西 竜也	京都大学白眉センター・特定助教 (早稲田大学拠点、上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、東洋史、中国イスラーム史
仁子 寿晴	関西学院大学・非常勤講師、同志社大学・非常勤講師、立命館大学・非常勤講師、関西大学・非常勤講師、京都大学文学部・非常勤講師 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、イスラーム哲学、倫理学
二宮 文子	青山学院大学・准教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、インド・イスラーム史
藤井 千晶	大阪大学大学院言語文化研究科・日本学術振興会特別研究員 (PD) (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、東アフリカにおけるイスラーム知識人

二ツ山達朗	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、北アフリカ聖者・タリカ研究
丸山 大介	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・日本学術振興会特別研究員 (PD) (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、イスラームの聖者論と聖者信仰
茂木 明石	上智大学外国語学部・非常勤講師 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、オスマン朝エジプトの聖者信仰・スーフィズム
守川 知子	北海道大学大学院文学研究科・准教授 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、イラン・イスラーム史
森山 央朗	同志社大学神学部・准教授 (早稲田大学拠点、上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、中世西アジア・ムスリム社会文化史
矢島 洋一	奈良女子大学人間文化研究科人文科学系・准教授 (早稲田大学拠点、上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、スーフィズム史
安田 慎	帝京大学経済学部観光経営学科・講師 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、現代シーア派と聖者廟参詣
吉田 京子	東京大学大学院人文社会系研究科・助教 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、初期シーア派思想
リュイザール, ピエール＝ジャン	フランス国立科学研究センター・主任研究員	「広域タリカ」研究班研究協力者、エジプトおよびイラクのタリカ研究
若松 大樹	日本大学文学部・日本学術振興会特別研究員 (PD) (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、現代トルコにおけるアレヴィー集団のオジャク (タリカ)・聖者
和崎 聖日	京都大学地域研究統合情報センター・研究員 (上智大学拠点研究協力者)	「広域タリカ」研究班研究協力者、ウズベキスタンのイスラーム社会
大橋 一寛	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、アラビア半島におけるイスラーム法と社会
大道 峻	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、イスラーム経済
川村 藍	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程／日本学術振興会特別研究員(DC1)	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、イスラーム法学、イスラーム金融論

黒田 彩加	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程	アラブ・イスラーム政治思想
佐藤麻理絵	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、中東地域研究
萩原 淳	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・非常勤講師	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、湾岸アラブ諸国の政治と社会
堀抜 功二	一般財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター・研究員 (東京大学拠点研究協力者)	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、中東地域研究、湾岸アラブ諸国の政治と社会
メフブーブ・ウル＝ハサン	国際イスラーム大学（イスラマバード）・教授	「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究協力者、イスラーム経済

【2013 年度事業の活動内容】

1. 拠点整備

本年度も、アジア・アフリカ地域研究研究科が入る京都大学本部構内総合研究 2 号館東に隣接する同 2 号館別館 2 階東側のイスラーム地域研究センターに、事務局、データ解析室および編集制作室を設置して、学術誌およびブックレットの編集、データベースの維持・更新・作成などを行った。また総合研究 1 号館 3 階 304 号室、総合研究 2 号館地階 024 号室および 025 号室の三部屋を京都大学より供与された。これら三部屋は、昨年度購入された、2 万 6 千点を数えるウルドゥー語文献大型コレクションであるアキールコレクションの整理のため主に使用された。

学術資料の整理保管・利用はアジア・アフリカ地域研究研究科アジア専攻図書室の協力を得て行った。

また、KIAS 運営委員会を例年通り 2 回、2013 年 6 月 7 日および 2014 年 2 月 12 日に開催した。

(東長靖)

2. 研究・教育活動

(1) 拠点全体としての活動

① 第 1 回 KIAS グローバル研究セミナー

日時：2013 年 11 月 12 日(火) 14:30～17:30

場所：京都大学吉田キャンパス総合研究 2 号館 4 階第 1 講義室(AA401)

共催：科学研究費補助金 基盤研究(A)「グローバル化時代に対応する 21 世紀型イスラーム学の構築」
(研究代表者：小杉泰)

題目：“The Sacred Book in Islam, the Holy Quran, and its Recitation”

講演者：Ustadzah Dra. Hj. Maria Ulfah (Director, Central Institute for the Development of Quranic Recitation)

概要：本セミナーは、数多くの女性クルアーン朗誦家の中でも国際的に最も著名な実力派として知られているインドネシア・クルアーン朗誦研究院院長のハッジヤ・マリア・ウルフア女史を迎えて開かれた。セミナーでは、クルアーン朗唱に関する基本的・体系的な序論から、朗唱方法の地域差、地域的多样性について、ウルフア女史による朗唱の実演を踏まえながら解説が行われた。出席者の多くにとって、クルアーンの朗唱を自らのフィールドにおいて聴く機会があったが、朗唱の理論や作法、その地域的多样性を実演も踏まえながら聴く機会はほとんどなく、非常に貴重な機会であった。

(長岡慎介)

② 第 2 回国際セミナー “New Horizons in Islamic Studies”

日時：2013 年 11 月 25 日(月) 9:00～26 日(火) 17:00

場所：Sultan Omar 'Ali Saifuddin Centre for Islamic Studies (SOASCIS), Universiti Brunei Darussalam, Jalan Tungku Link Gadong, BE1410

共催：UBD-SOASCIS(ブルネイ大学)

概要：本セミナーでは、2 日間にわたり幅広いトピックについて研究報告、議論が交わされた。イスラーム文明の現代的有効性、アジアにおける現代イスラーム研究の意義とその重要性に関わるものから、中東、南アジア、東南アジアのそれぞれの地域における現代イスラームの動態に関する多様な実証研究が報告された。非常に密な研究交流が行われ、活発な議論が展開され、新たな知見を得ることができた。

(長岡慎介・今松泰)

③第3回 KIAS/IMS 合同セミナー “Society and Culture of the Mediterranean World”

日時：2014 年 2 月 4 日(火) 13:00～17:20

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階大会議室(AA447)

共催：釜山外国語大学地中海研究所(Institute of Mediterranean Studies, Pusan University of Foreign Studies)

概要：本合同セミナーは 3 つのセッションに分かれ、のべ 6 本の報告が行われた。それぞれのセッションは、宗教と社会、政治と社会、文化と社会を扱うものであった。第一セッションの 2 本の発表はそれぞれ、①現代トルコのイスラームにおいてシンクレティックな相貌を見せる「アレヴィー」と称される信仰共同体・集団についての概観と②スーダンにおける二つのタリーカ（神秘主義教団）を、道徳と教育の二面から比較し、タリーカのあり方を分析した報告であった。第二セッションでは、③現代エジプトにおいて活動を展開する中道派イスラーム知識人に注目し、彼らのイスラーム国家像を宗教共存の視点から論じた考察、④現在のシリアにおける内戦をテーマとして、特に反体制派の政治勢力の動きをアイデンティティの観点からつかもうとする報告がなされた。第三セッションでは、⑤電子文化地図の作成及び海外研究への活用を論じた報告、⑥現代フランス映画のスター性の変化を通して、フランス社会でのアイデンティティの変化―多元性、複合性―を論じた発表がなされた。本セミナーでの発表はテーマも手法も多岐にわたるものであり、それぞれに刺激を与え合う実りあるものであった。

(山本直輝・山本健介・渡邊 駿・今松泰)

プログラム

13:00-13:20 Opening Session

Chair: IMAMATSU Yasushi (Researcher of NIHU and Visiting Associate Professor of ASAFAS)

- ・ “Welcome Speech” TONAGA Yasushi (Deputy Director of KIAS[3] and Professor of ASAFAS)
- ・ “Greeting Speech” Yoon, Yong-Soo (Director of IMS and Professor in Arabic Dept)

13:20-14:20 Session 1: Religion and Society in the Mediterranean World

Chair: Choi, Chun-Sik (Previous Director of IMS and Professor in French Dept)

- ・ “The Possible Solution of the Alevi Issue in Turkey” Woo, Duck-Chan (Professor in Turkish and Central Asian Dept)

- “Ethics and Education: Comparison between al-Tariqa al-Qaridiya and al-Tariqa al-Rukayniya in Sudan”

MARUYAMA Daisuke (Postdoctoral Research Fellow of Japan Society for the Promotion of Science, Kyoto University)

14:40-15:40 Session 2: Politics and Society in the Mediterranean World

Chair: Yoon, Yong-Soo

- “Islamic State and Religious Coexistence: Visions of Islamic Intellectuals in Egypt” KURODA Ayaka

(Graduate Student, ASAFAS)

- “Nationalism, Confessionalism and Democratization: Reflections on Civil War in Syria” KOSUGI Yasushi

(Director of KIAS and Professor of ASAFAS)

16:00-17:00 Session 3: Culture and Society in the Mediterranean World

Chair: NAGAOKA Shinsuke (Associate Professor of ASAFAS)

- “A Study on Electronic Culture Atlas for Mediterranean Region Research” Kang, Ji-Hoon (HK Researcher in IMS)

- “Maghrebi stardom in contemporary French cinema: the case of Sami Bouajila” Park, Eun-Jee (HK Research Professor in IMS)

17:00-17:20 Closing Session

Chair: IMAMATSU Yasushi

- “Closing Remarks” KOSUGI Yasushi

④第2回 KIAS グローバル研究セミナー

日時：2014年2月7日(金) 16:00～18:00

場所：京都大学稲盛財団記念館3階小会議室I

共催：科学研究費補助金 基盤研究(B)「「アラブの春」の社会史的研究ーエジプト「1月25日革命」を中心にー」(研究代表者：大稔哲也)

題目：“Islamists, the Military and the 25th January Revolution”

講演者：Khaled Fahmy (The American University in Cairo)

概要：本セミナーでは、ハーレド・ファフミー教授によって、1月25日革命以降のエジプト情勢に関する講演がおこなわれた。講演では、革命翌年に成立したムスリム同胞団政権の崩壊はイスラーム的言説を通じて国を支配する試みの終焉であり、同胞団勢力が主導権を握る展開がもう一度起こるとは考えにくいとされた。講演において提示された国家の治安の問題は重要な観点のひとつであり、今後の展望としても、治安セクターの改革の必要性が指摘された。ムスリム同胞団の性格、政権獲得後の変化を含め、エジプト情勢を理解するために重要なポイントが明らかにされた講演であった。

(黒田彩加・今松泰)

●連続特別講義

・5月24日(金)、31日(金)、6月7日(金)、14日(金)、28日(金)

「南アジア・イスラーム論」(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科との連動講義)

講師：山根聡(大阪大学教授)

・8月5日(月)、6日(火)、7日(水)、8日(木)

「中東地域研究論」(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科との連動講義)

講師：臼杵陽(日本女子大学教授)

・2月17日(月)、18日(火)、29日(水)

「国際機構・国際NGO論」(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科との連動講義)

講師：子島進(東洋大学准教授)

●大学院講義(前期)

- | | |
|---------|-------------------------------|
| ・月曜2限 | 地域研究論(小杉泰、長岡慎介) |
| ・月曜3・4限 | アジア・アフリカ地域研究演習(小杉泰、東長靖) |
| ・月曜5限 | イスラーム世界論Ⅶ/スーフィズム・タリーカ論Ⅰ(東長靖) |
| ・火曜3限 | イスラーム社会経済論Ⅲ(小杉泰、長岡慎介、竹田敏之) |
| ・火曜4限 | 熱帯乾燥域生存基盤論(小杉泰、長岡慎介) |
| ・火曜5限 | イスラーム世界論Ⅰ/イスラーム世界論研究(小杉泰、東長靖) |
| ・水曜3～6限 | グローバル地域研究演習Ⅰ・Ⅲ(小杉泰、東長靖、長岡慎介) |
| ・木曜4限 | アラビア語Ⅰ(竹田敏之) |
| ・木曜5限 | アラビア語Ⅲ(福田義昭) |
| ・金曜2限 | ペルシア語Ⅰ(東長靖) |
| ・金曜4限 | 持続型生存基盤研究の方法Ⅰ(小杉泰、長岡慎介) |

●大学院講義(後期)

- | | |
|---------|------------------------------|
| ・月曜5限 | イスラーム世界論Ⅷ/スーフィズム・タリーカ論Ⅱ(東長靖) |
| ・月曜6限 | トルコ語Ⅰ(今松泰) |
| ・火曜3限 | 国際エネルギー論(長岡慎介、萩原淳) |
| ・火曜4限 | イスラーム社会経済論Ⅰ(小杉泰、長岡慎介) |
| ・火曜5限 | イスラーム世界論Ⅸ/イスラーム国際関係論(小杉泰) |
| ・水曜2限 | イスラーム世界論Ⅱ/イスラーム思想研究(小杉泰、東長靖) |
| ・水曜3～6限 | グローバル地域研究演習Ⅱ・Ⅳ(小杉泰、東長靖、長岡慎介) |
| ・木曜4限 | アラビア語Ⅱ(竹田敏之) |
| ・木曜5限 | アラビア語Ⅳ(福田義昭) |
| ・金曜3限 | グローバル地域研究の方法(小杉泰、東長靖、長岡慎介) |

(2)研究グループの活動

①KIAS / SIAS ワークショップ “Conflicts and Coexistence in the Contemporary Muslim World”

日時：2013 年 6 月 2 日(日) 10:30～17:15

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階大会議室(AA447)

共催：科学研究費補助金 基盤研究(B)「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」（研究代表者：赤堀雅幸）、科学研究費補助金 基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」（研究代表者：東長靖）

概要：本ワークショップでは 7 本の発表が行われ、プリンストン大学のマイケル・クック教授による詳細なコメントが付された。それぞれの発表は、以下の考察・分析を行ったものであった。①シリアにおけるシーア派巡礼地でのサダカを中心とした贈与行為について、②タンザニアでのイスラーム運動団体 UAMSHO の活動とザンジバル住民の支持について、③フランスによるアルジェリア植民地化に反抗したアブドゥルカーディル・ジャザーイリーのキリスト教理解について、④マレーシアにおける新しい形のマウリド（生誕祭）の「創造」と「聖者像」の新たな形成について、⑤1930 年代のマレー半島におけるシャーフィイー学派法学とサラフィー主義の関係について、⑥南スーダンの一部族ククの人々におけるキリスト教信仰覚醒運動について、⑦北部スーダンにおいて、2010－2012 年にみられたスーフィーの政治態度について。これらの発表によって、アフリカや東南アジアといったイスラーム世界の周縁と考えられてきた地域における、19 世紀から現代に至るさまざまな思潮や運動が明らかにされた。

（山本直輝・Yu Weixing・中村遥・今松泰）

プログラム

10:30-11:00 Opening Session

[First Session]

11:00-11:30 “*Ṣadaqa* in Religious Tourism: Gift Economy in Syrian Shi’ite Visits” YASUDA Shin (Teikyo University)

11:30-12:00 “We Don’t Want Union! We Want Our Country!: The Independence Movement in Zanzibar” FUJII Chiaki (Osaka University)

12:00-12:30 “Between the Understanding about Christianity and French Occupation of Algeria: According to al-Amīr ‘Abd al-Qādir al-Jazā’irī” TOCHIBORI Yuko (Tokyo University of Foreign Studies)

12:30-14:10 Lunch

[Second Session]

14:10-14:40 “Reformation of the Image of Saints through Maulid Celebrations in Contemporary Malaysia” KUSHIMOTO Hiroko (Sophia University)

14:40-15:10 “The Controversy between Sayyid Alawi Tahir al-Haddad and Ahmad Hassan: The traditional Shafi’i School and the Salafi movement in Southeast Asia in the 1930s” SHIOZAKI Yuki (Doshisha University)

15:10-15:25 Coffee Break

[Third Session]

15:25-15:55 “How Had People become ‘True’ Christians?: Kuku’s Migration and the Christian Revival Movement in Greater Sudan” TOBINAI Yuko (Sophia University)

15:55-16:25 “Clashes, Conflict and Contradiction: Šūfī Power Struggles in Sudan” MARUYAMA Daisuke (Kyoto University)

16:25-16:40 Coffee Break

[Concluding Session]

16:40-17:00 General Comment by Michael A. COOK

17:00-17:15 Concluding Remarks

②第1回「イスラーム経済とイスラーム法」研究班研究会

日時：2013年7月12日(金) 14:00～17:00

場所：京都大学本部構内総合研究2号館4階第2講義室(AA415)

概要：本研究会で行われた2本の発表のうち、第一の発表では、イスラーム金融商品に焦点が当てられ、それがイスラーム法とどのように関係し発展してきたのか、そして、それがどのようにグローバル化してきたのかについての分析が行われた。本発表は、実務面からのアプローチと学術面からのアプローチの双方を融合したものであり、イスラーム金融に関する理解と展望がともに示された有意義なものであった。第二の発表では、湾岸諸国におけるイスラーム金融の民事紛争がどのように処理されているかという問題が明らかにされ、さらに、新たに登場したドバイ・アプローチの特徴や、その実効性についての分析が行われた。

(上原健太郎・今松泰)

プログラム

報告者1「イスラーム金融商品の発展系譜と展望：非ハラーム制約か Maqasid al Shariah か」

吉田悦章（国際協力銀行参事役、早稲田大学ファイナンス研究センター客員主任研究員）

報告者2「イスラーム金融に係る民事紛争処理制度のフロンティア：ドバイ・アプローチの実効性と可能性」

川村藍（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程、日本学術振興会特別研究員）

③スーフィズム・聖者信仰研究会(KIAS / SIAS 連携研究会)2013年度合宿研究会

日時：2013年7月23日(火) 13:00～7月24日(水) 12:00

場所：山喜旅館

共催：科学研究費補助金 基盤研究(B)「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」(研究代表者：赤堀雅幸)、科学研究費補助金 基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」(研究代表者：東長靖)

プログラム及び概要：詳細は、上智大学拠点の報告を参照

④第1回スーフィズム・聖者信仰研究会(KIAS/SIAS 連携研究会)

日時：2013年9月29日(日) 13:00～17:00

場所：京都大学本部構内総合研究2号館4階第1講義室(AA401)

共催：科学研究費補助金 基盤研究(B)「近現代スーフィズム・聖者信仰複合の動態研究」(研究代表者：赤堀雅幸)、科学研究費補助金 基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」(研究代表者：東長靖)

概要：本研究会は、2013年11月22日にパリで開催される CNRS/SIAS/KIAS 共催国際ワークショップに向けたプレセッションであり、日本側からの発表者である小牧幸代氏が現代インドにおける聖遺物崇敬とイスラーム運動との関わり、中西竜也氏が17世紀西北中国におけるスーフィズム文献と道教文献との関係をテーマに報告を行った。質疑応答では内容面についてだけでなく、国際ワークショップでの発表を踏まえ、発表の方法や流れといったより実践的な面についても活発な議論がなされた。

(高橋圭)

プログラム

13:00-13:10 開会の挨拶

13:10-14:55 “Islamic Reformist Movements and the Cult of Holy Relics” 小牧幸代(高崎経済大学)

14:55-15:15 休憩

15:15-17:00 “Sainthood and Numinous Texts” 中西竜也(京都大学)

⑤7th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance New Horizons in Islamic Economics, “Socio-Economic Role of Islamic Finance and its Potential at the Post-Capitalist Era”

日時 2013年10月1日(火) 13:00～18:15、10月2日(水) 9:00～10:45

場所：京都大学本部構内総合研究2号館4階大会議室(AA447)

共催：科学研究費補助金 基盤研究(A)「グローバル化時代に対応する21世紀型イスラーム学の構築」(研究代表者：小杉泰)、Durham Islamic Finance Doctoral Centre (SGIA & DBS), Durham University, UK

概要：第7回目を迎えた本ワークショップでは、2本の基調講演ののち、3つのセッションで合計9本の発表が行われた。基調講演のうち1本はイスラーム経済における理論研究の必要性を強調したものであった。各発表は理論研究と事例研究の2つに大きく分けられる。理論研究では、ワクフやザカートといった伝統的なイスラーム経済システムの復興、イスラーム経済の観点から福祉システムの構築を考える発表などが行われた。事例研究ではさらに多岐にわたる発表が行われた。その中にはイスラーム経済

の実践を研究する上で、どのように数式・数値化を分析に適用すべきかという重要な問題を含むものもみられた。本ワークショップでは、「従来の経済システムとの差異は何であるか」といったイスラーム経済の本質やその存在意義を問う議論が活発に交わされた。この分野の研究にとって新たな地平を開くものとして有意義であった。

(上原健太郎・今松泰)

プログラム

Day 1

13:00-13:15: *Opening Remarks* by Prof. Yaushi Kosugi (Kyoto University)

13:15-14:45: Keynote Session

"Locating Islamic Moral Economy within Emergence Economics: A Search in Post-Capitalist Era" Dr. Mehmet Asutay (Durham University)

"From Sharī'a-Compliance to Sharī'a-Based Islamic Economic System: A Proposal" Prof. Yasushi Kosugi (Kyoto University)

15:15-17:15 Session 1: New Waves of Islamic Economics

"Emerging the Integrated Islamic Economic System" Dr. Shinsuke Nagaoka (Kyoto University)

"Social Welfare Functions and Public Choice from the Islamic Political Economy Perspective: Correcting the Failure of Islamic Banking and Finance" Alija Avdukic (Durham University)

"Islahi Social Capital: a Conceptual Approach Towards Faith-Based Development and Poverty Alleviation" Dr. Maszlee Malik (International Islamic University Malaysia)

"Parallel Universes - What Islamic Finance can learn from Socially Responsible Investment" Frauke Demuth (Durham University)

17:30-18:15 Session 2: Case Studies of GCC in Islamic Finance

"The Relationship between Corporate Social Responsibility Disclosure and Financial Performance: Empirical Evidence from GCC Islamic Banks" Elena Platonova (Durham University)

"Examining the Sharia compliancy and the Realisation of Maqasid Al Sharia at the Contractual and Socio-Ethical Levels: The Case for Islamic Project Finance" Tareq Hesham Moqbel (Durham University)

"Dubai Approach as a New Dispute Resolution for Islamic Finance" Ai Kawamura (Kyoto University)

Day 2

9:00-10:30 Session 3: Case Studies of Southeast Asia in Islamic Finance

"Economic Significance of Mosque Institution in Malaysia" Dr. Azila Abdul Razak (Sultan Idris Education University)

"Islamic Microfinance in Indonesia: An Empirical Research" Dr. Dian Masyita (University of Padjadjaran)

⑥ 国際 WS “International Workshop on Civil Society Organizations in the Middle East and Asia”

日時：2013 年 10 月 2 日(水) 11:00～18:15

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階大会議室(AA447)

共催：京都大学臨地教育支援センター(COSER)、科学研究費補助金 基盤研究(A)「グローバル化時代に対応する 21 世紀型イスラーム学の構築」(研究代表者：小杉泰)、Durham Islamic Finance Doctoral Centre (SGIA & DBS), Durham University, UK

概要：本ワークショップは、中東およびアジア地域で近年その役割が大きくなりつつある市民団体・組織や中間組織—NGO、ソーシャルビジネス企業、慈善団体、業界組織など—を取り上げ、その実態についての地域間比較を行うことを目的として開催され、10 本の報告を得た。それぞれの発表では、ヨルダンにおける NGO、ガザ地区での NGO、宗教間対話を重視する法律家、エジプトの業界団体、パレスチナで慈善活動を行うイスラーム主義組織、インドにおける乳幼児支援団体、タイ、インドネシア、マレーシアそれぞれの国におけるイスラーム金融をめぐる問題などが報告された。本ワークショップの開催によって、研究分野をまたいだ国際的な研究交流がなされ、地域間比較の視座から活発な議論が展開された。このことで、第三セクターや市民社会組織と総称される新しいセクターの実態に関する新しい知見が得られた。

(佐藤麻理絵・今松泰)

プログラム

11:00-11:15: Opening Remarks by Marie SATO (Head of the Organizing Committee, ASAFAS, Kyoto University)

11:15-12:15: Session 1: Civil Society Organizations in the Middle East I

▪ “Islamic NGOs in the Contemporary Middle East: A Case of Jordan” Marie SATO (ASAFAS, Kyoto University)

▪ “People 2 People Empowerment Muslim Civil Society in Turkey and its Transnational Development Role in Palestine” Iyas SALIM (Doshisha University)

13:30-15:00: Session 2: Civil Society Organizations in the Middle East II

▪ “Islam and Religious Coexistence in Egypt: Preliminary Discussion” Ayaka KURODA (ASAFAS, Kyoto University)

▪ “Authoritarianism, Representation, and Political Participation: An Egyptian Dilemma” Shun WATANABE (ASAFAS, Kyoto University)

▪ “Politics of Demography and Palestine Question: A View from al-Khalil / Hebron” Kensuke YAMAMOTO (ASAFAS, Kyoto University)

15:15-16:15: Session 3: Civil Society Organizations: Comparative Perspectives I

▪ “The Role of Intermediate Group and the Social Relationships of Childcare: A Case Study of Integrated Child Development Services in Delhi, India” Tomoyuki WATANABE (ASAFAS, Kyoto University)

▪ “Islamists' Perspective on Good Governance and Human Rights: Pertubuhan Jamaah Islah Malaysia (JIM)'s

involvement in Abolish Internal Security Act (ISA) Movement (Gerakan Mansuhkan ISA), 2000-2012” Dr. Maszlee Malik (International Islamic University Malaysia)

16:30-18:00: Session 4: Civil Society Organizations: Comparative Perspectives II

▪ “Can Islamic Micro-financing Improve the Lives of the Clients: Evidence from a Non-Muslim Country” Dr. Tawat NOIPOM (Prince of Songkla University)

▪ “Exploring the Role of Islamic Microfinance Institution in Poverty Alleviation Through Microenterprises Development, A Case Study of Indonesia” Dr. Nur Indah RIWAJANTI (State Polytechnic Malang)

▪ “Islamic Retail Financial Products in Malaysia: Japanese Reflections” Kentaro KAMBARA (ASAFAS, Kyoto University)

18:00-18:15 Closing Remarks by Dr. Mehmet ASUTAY (Durham University)

⑦第2回 SIAS/KIAS - CNRS 合同セミナー “SAINT CULTS, MAUSOLEUMS AND SUFI LINEAGES”

日時：2013年11月22日(金) 10:00～18:30

場所：フランス国立科学研究センター

共催：本セミナーでは、4人のスピーカーが研究発表を行い、各発表へのディスカッサントによるコメントと質問の他、参加者による活発な議論が行われた。以上の国際研究集会を開催したほか、Thierry Zarcone氏、Pierre-Jean Luizard氏、Alexandre Papas氏など、現地の研究者たちと、スーフィズム聖者信仰をめぐる今後の研究展開や研究協力をめぐり、連日にわたる意見交換と今後の研究協力について打ち合わせを行った。(中西竜也・今松泰)

プログラム

10:00 Opening: AKAHORI Masayuki; Pierre-Jean LUIZARD; TONAGA Yasushi; Thierry ZARCONE

[Session 1: *Sacred Sufi objects in saint veneration*]

Chair: TONAGA Yasushi (Kyoto University)

10:15 “*Islamic reformist movements and the cult of holy relics*” KOMAKI Sachiyo (University of Takasaki)

11:00 Discussant: Pierre-Jean LUIZARD (GSRL - CNRS / EPHE)

11:15 Questions

11:30 “*Symbols and Ritual: sacred flags and banners in Sufi brotherhoods and at saints tombs*” Thierry ZARCONE (GSRL - CNRS / EPHE)

12:15 Discussant: AKAHORI Masayuki (Sophia University, Tokyo)

12:30 Questions

13:00-15:00 *Lunch*

[Session 2: *The saint and the Sufi*]

Chair: AKAHORI Masayuki (Sophia University, Tokyo)

15:00 “*Sainthood and numinous texts*” NAKANISHI Tatsuya (University of Kyoto)

15:45 Discussant: Alexandre PAPAS (CNRS – CETOBAC / EHESS)

16:00 Questions

16:15 “*The Kesnazaniyya Sufi lineage in Iraqi Kurdistan (19th-20th century): a family legitimacy with no link to tomb cult*” Pierre-Jean LUIZARD (GSRL - CNRS / EPHE)

17:00 Discussant: KEI Takahashi (Sophia University, Tokyo)

17:15 Questions

18:00-18:30 Closing

⑧「国際関係(国際組織・情報ネットワークを含む)」研究班講演会「パキスタンにおけるイスラーム思想のスペクトラム：モイヌッディーン・アキール先生講演会」

日時：2013 年 12 月 6 日(金) 15:00～17:00

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階第一講義室(AA401)

共催：NIHU プログラム・地域間連携研究の推進事業「南アジアとイスラーム」

科学研究費補助金 基盤研究(A)「グローバル化時代に対応する 21 世紀型イスラーム学の構築」(研究代表者：小杉泰)、科学研究費補助金 基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」(研究代表者：東長靖)

プログラム及び概要：詳細は、連携の報告を参照

⑨第 1 回「国際関係(国際組織・情報ネットワークを含む)」研究班研究会

日時：2014 年 1 月 17 日(金) 15:00～18:30

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階第一講義室(AA401)

共催：NIHU プログラム・地域間連携研究の推進事業「南アジアとイスラーム」

科学研究費補助金 基盤研究(B)「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」(研究代表者：東長靖)、科学研究費補助金 基盤研究(B)「9.11 後のパキスタンにおける権力構造の変化に関する複合的研究」(研究代表者：山根聡)

プログラム及び概要：詳細は、連携の報告を参照

⑩「国際関係(国際組織・情報ネットワークを含む)」研究班シンポジウム「日本と中東 日本と石油—エネルギーにまつわる温故知新—」

日時：2014 年 2 月 23 日(日) 13:30～17:30

場所：京都大学稲盛財団記念館 3 階大会議室

概要：本シンポジウムは、日章丸事件 60 周年、オイルショック 40 周年を記念して開催されたものである。保坂報告では一次エネルギー輸入における日本の中東依存の状況が明らかにされた。二本目は、坂梨氏の急病による欠席を承け、保坂氏が日章丸事件の本質的理解について、代理で報告を行ったもの

である。小野沢報告では、アラビア石油株式会社がサウジアラビア及びクウェイトとの間に結んだ利権協定を事例として、国際石油秩序の変質が示された。小堀氏は第二次世界大戦後のエネルギー問題を日本がどのように解決して、その後の高度成長を実現したのかという点を明らかにした。堀抜氏の発表は、日本の資源外交を主なトピックとして扱い、特にアラブ諸国との関係を中心に報告を行ったものである。本シンポジウムは、その後の質疑応答を含め、日本のエネルギー問題―「ポスト・フクシマ」後のエネルギー問題も視野に入れて一を考えるうえで、様々な側面からの考察・議論が行われ、重要な事実が明らかにされたものであり、まことに時宜にかなうものであった。

(渡邊駿・上原健太郎・山本健介・今松泰)

プログラム

13:30-14:00「日本と石油と中東をめぐる 40 年と 60 年と 400 年」保坂修司（日本エネルギー経済研究所研究理事）

14:00-14:30「イランから見た日章丸事件」坂梨祥（日本エネルギー経済研究所研究主幹）

14:30-15:00「アラビア石油と国際石油秩序の変質」小野沢透（京都大学大学院文学研究科准教授）

休憩 15:00-15:10

15:10-15:40「日本の高度成長とエネルギー問題」小堀聡（名古屋大学大学院経済学研究科准教授）

15:40-16:10「日本のエネルギー資源外交と中東」堀抜功二（日本エネルギー経済研究所研究員）

休憩 16:10-16:20

16:20-17:20 パネルディスカッション・質疑応答

17:20-17:30 総括・クロージングリマークス

小杉泰（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）

⑪「国際関係(国際組織・情報ネットワークを含む)」研究班シンポジウム「オスマン帝国末期の農地改革と抵抗運動に関する講演会」

日時：2014 年 3 月 5 日(水) 16:00～18:00

場所：京都大学本部構内総合研究 2 号館 4 階第一講義室(AA401)

共催：早稲田大学イスラーム地域研究機構

概要：本発表では、オスマン朝下の 19 世紀、タンズィマート期に起こった一連の体制変化に対し、農民たちがいかなる反応を示したのかについて、1849-50 年にブルガリアの Vidin で起こった反乱、1840 年代-60 年代に黒海沿岸の Canik で起こった反乱、1858-61 年のレバノンの Kisrawan で起こった反乱を事例に報告が行われた。報告の中では、農民に対する政府の態度に関して従来の見解とは異なる説が提示され、反乱も最初は非常に平和的なやり方が採られていたものの、次第に急進的なやり方に変化していったことなどが指摘された。地域的にもバルカン半島、アナトリア、アラブ地域の事例が取り上げられた本報告は、オスマン朝史研究の最前線の一端が示された有意義なものであった。

(佐治奈通子・今松泰)

プログラム

題目：“Agrarian Relations, Reform, and Peasant Protest in the 19th-century Ottoman Empire”

講演者： E. Attila Aytekin (Assistant Professor, Middle East Technical University)

⑫KIAS/SIAS: Joint International Workshop “Diverse Approaches to the Muslim People’s Life: Sufis, Saint Venerators, and Migrants”

日時：2014 年 3 月 29 日(土) 13:00～17:45

場所：上智大学四谷キャンパス 2 号館 5 階 510 号室

共催：上智大学アジア文化研究所

プログラム及び概要：詳細は、上智大学拠点の報告を参照

3. 海外派遣・調査

(1)拠点全体としての活動

①ウズベキスタンにおける調査

出張期間：2013 年 9 月 5 日～2013 年 9 月 12 日

出張先(国名)：ウズベキスタン

出張者：東長靖（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）、今松泰（NIHU 地域研究推進センター研究員/京都大学イスラーム地域研究センター客員准教授）

概要：近現代ウズベキスタンにおけるスーフィズム・聖者信仰複合の現地調査

②ラホール国際会議への参加

出張期間：2013 年 11 月 2 日～2013 年 11 月 4 日

出張先（国名）：ラホール（パキスタン）

出張者：東長靖（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）、今松泰（NIHU 地域研究推進センター研究員/京都大学イスラーム地域研究センター客員准教授）

概要：第 4 回イスラーム地域研究国際会議に出席

③国際セミナーへの参加

出張期間：2013 年 11 月 25～2013 年 11 月 26 日

出張先（国名）：ブルネイ・ダルサラーム国

出張者：小杉泰（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）、長岡慎介（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科准教授）、須永恵美子（大阪大学日本学術振興会特別研究員）、川村藍（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科日本学術振興会特別研究員）、佐藤麻理絵（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程）、黒田彩加（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研

究研究科博士課程)、上原健太郎(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程)、山本健介(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程)、渡邊駿(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・博士課程)

概要: UBD-KU Joint International Seminar “New Horizons in Islamic Studies”に出席

(2)研究グループの活動

③国際セミナーへの参加

出張期間: 2013 年 11 月 22 日

出張先(国名): パリ(フランス)

出張者: 東長靖(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授)、今松泰(NIHU 地域研究推進センター研究員/京都大学イスラーム地域研究センター客員准教授)

概要: “SAINT CULTS, MAUSOLEUMS AND SUFI LINEAGES” セミナーに出席

4. 外国人研究者の招聘

(1)拠点全体としての活動

①Hj. Maria Ulfah

所属(国籍): Central Institute for the Development of Quranic Recitation(ヨルダン)

期間: 2013 年 11 月 12 日

活動概要: KIAS グローバル研究セミナーにおいて、発表を行なった。

②Yoon, Yong-Soo

所属(国籍): Pusan University of Foreign Studies(韓国)

期間: 2014 年 2 月 4 日

活動概要: International Seminar "Society and Culture of the Mediterranean World" において、発表を行なった。

③Coi, Chun-Sik

所属(国籍): Pusan University of Foreign Studies(韓国)

期間: 2014 年 2 月 4 日

活動概要: International Seminar "Society and Culture of the Mediterranean World" において、発表を行なった。

④Woo, Duck-Chan

所属(国籍): Turkish and Central Asian Dept(韓国)

期間: 2014 年 2 月 4 日

活動概要： International Seminar "Society and Culture of the Mediterranean World" において、発表を行った。

⑤Park, Eun-Jee

所属（国籍）： Pusan University of Foreign Studies（韓国）

期間：2014 年 2 月 4 日

活動概要： International Seminar "Society and Culture of the Mediterranean World" において、発表を行った。

⑥Kang, Ji-Hoon

所属（国籍）： Pusan University of Foreign Studies（韓国）

期間：2014 年 2 月 4 日

活動概要： International Seminar "Society and Culture of the Mediterranean World" において、発表を行った。

⑦Khaled Fahmy

所属（国籍）： The American University in Cairo（エジプト）

期間：2014 年 2 月 7 日

活動概要： KIAS グローバル研究セミナーにおいて、発表を行なった。

(2)研究グループの活動

①Mehmet Asutay

所属（国籍）： Durham University（イギリス）

期間：2013 年 10 月 1 日～10 月 2 日

活動概要： 7th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics, "Socio-Economic Role of Islamic Finance and its Potential at the Post-Capitalist Era"において、発表を行なった。

②Alija Avdukic

所属（国籍）： Durham University（ボスニア・ヘルツェゴビナ）

期間：2013 年 10 月 1 日～10 月 2 日

活動概要： 7th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics, "Socio-Economic Role of Islamic Finance and its Potential at the Post-Capitalist Era"において、発表を行なった。

③Elena Platonova

所属（国籍）：Durham University（イギリス）

期間：2013 年 10 月 1 日～10 月 2 日

活動概要： 7th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics, "Socio-Economic Role of Islamic Finance and its Potential at the Post-Capitalist Era"において、発表を行なった。

④Tareq Hesham Moqbel

所属（国籍）：Durham University（イギリス）

期間：2013 年 10 月 1 日～10 月 2 日

活動概要： 7th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics, "Socio-Economic Role of Islamic Finance and its Potential at the Post-Capitalist Era"において、発表を行なった。

⑤Frauke Demuth

所属（国籍）：Durham University（ドイツ）

期間：2013 年 10 月 1 日～10 月 2 日

活動概要： 7th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics, "Socio-Economic Role of Islamic Finance and its Potential at the Post-Capitalist Era"において、発表を行なった。

⑥Azila Abdul Razak

所属（国籍）：Sultan Idris Education University（マレーシア）

期間：2013 年 10 月 1 日～10 月 2 日

活動概要： 7th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics, "Socio-Economic Role of Islamic Finance and its Potential at the Post-Capitalist Era"において、発表を行なった。

⑦Maszlee Malik

所属（国籍）：International Islamic University Malaysia（イラク）

期間：2013 年 10 月 1 日～10 月 2 日

活動概要： 7th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics, "Socio-Economic Role of Islamic Finance and its Potential at the Post-Capitalist Era"において、

発表を行なった。

⑧Tawat Noipom

所属（国籍）：Prince of Songkla University（イラク）

期間：2013 年 10 月 2 日

活動概要： International Workshop on Civil Society Organizations in the Middle East and Asia において、発表を行なった。

⑨Nur Indah Riwajanti

所属（国籍）：State Polytechnic Malang（イラク）

期間：2013 年 10 月 2 日

活動概要： International Workshop on Civil Society Organizations in the Middle East and Asia において、発表を行なった。

⑩Moinuddin AQEEL

所属（国籍）：Karachi University（パキスタン）

期間：2013 年 12 月 6 日

活動概要：「パキスタンにおけるイスラーム思想のスペクトラム：モイヌッディーン・アキール先生講演会」において、講演を行なった。

⑪E. Attila Aytekin

所属（国籍）：Middle East Technical University（トルコ）

期間：2014 年 3 月 5 日

活動概要：「オスマン帝国末期の農地改革と抵抗運動に関する講演会」において、講演を行った。

5. 資料収集

アラビア語資料を中心に、欧米諸語資料、及び日本語資料を収集した。アラビア語資料については、現代の政治・経済、国際関係から思想関係に至る図書を、欧米諸語資料は雑誌と図書を収集した。

主要な資料は次のとおり。

①資料名 アラビア語資料

- ・形態：図書
- ・冊数：1
- ・資料内容：Meyya Meyya 100%, Egyptian colloquial : self learning approach

- ・収集目的：イスラーム地域研究京都大学拠点の研究活動のため
- ・所蔵場所：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アジア専攻図書室の協力を得て、整理および NICSIS Webcat に登録後、上記図書室、KIAS 事務室あるいは京都大学附属図書館において所蔵
- ・収集方法：アラブ イスラーム学院を通して購入
- ・収集期間：2013 年 4 月

②資料名 欧米諸語資料

- ・形態：図書・雑誌
- ・冊数：66
- ・資料内容：Arabic Sciences and Philosophy: A Historical Journal ほか
- ・収集目的：イスラーム地域研究京都大学拠点の研究活動のため
- ・所蔵場所：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アジア専攻図書室の協力を得て、整理および NICSIS Webcat に登録後、上記図書室、KIAS 事務室あるいは京都大学附属図書館において所蔵
- ・収集方法：紀伊國屋書店、藤井洋書、丸善、ナガラ図書
- ・収集期間：2013 年 4 月～2014 年 3 月

③資料名 日本語資料

- ・形態：図書・雑誌
- ・冊数：12
- ・資料内容：『中東研究 特集：湾岸危機から二〇年 第 508 号』ほか
- ・収集目的：イスラーム地域研究京都大学拠点の研究活動のため
- ・所蔵場所：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アジア専攻図書室の協力を得て、整理および NICSIS Webcat に登録後、上記図書室、KIAS 事務室あるいは京都大学附属図書館において所蔵
- ・収集方法：京都大学生協同組合、紀伊國屋書店
- ・収集期間：2013 年 12 月～2014 年 3 月

6. 研究成果・発表（論文・図書等）

■拠点発行物

〔論文〕計（28）件

著者名	論文標題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
岩本 佳子 (京都大学大学院 文学研究科)	「イスラーム研究者のための ブルガリア研究案内・書店 案内」	『イスラーム世界研 究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	577-586
Mohd Yusof Hj Othman (Universiti Kebangsaan)	“Islamic Science (Tawhidic): Toward Sustainable Development”	『イスラーム世界研 究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	110-123
川村 藍 (研究協力者)	「湾岸諸国における金融危 機とその解決策——ドバ イ・アブローチの先進性と実 効性——」	『イスラーム世界研 究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	320-336
北田 信 (大阪大学)	「ウルドゥー文学前史—— 南インドのウルドゥー語文 献——」	『イスラーム世界研 究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	152-161
黒田 彩加 (研究協力者)	「現代エジプトにおけるイ スラーム政治思想 ——宗教共存の課題とサリ ーム・アウワーの構想から ——」	『イスラーム世界研 究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	350-361
篠置 理子 (大阪大学言語文 化研究科)	「ムイヌッディーン・アキ ール博士文庫 —— アブル・アアラー・マ ウドゥーディー関連書籍に 関して——」	『イスラーム世界研 究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	162-171
佐藤 麻理絵 (研究協力者)	「ヨルダンにおける難民支 援ネットワークの多様性と 有機的連帯」	『イスラーム世界研 究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	337-349
SHINODA Tomoaki (研究協力者)	“Kitāb Taḥbīr al-Ajrās fī Surā al-Anfās by ‘Abd Allah al-Ghazwānī of al-Jazūliya” Note sur <i>L’ornement des cloches, au voyage nocturne des souffles</i>	『イスラーム世界研 究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	10-52
Abdelkader Sellami (Durham University)	“al-Tarjama fī Ḍaw’ Ru’ya al-‘Ālam wa Thaqāfa al-Naṣṣ”	『イスラーム世界研 究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	1-9
竹田 敏之 (研究分担者)	「現代モリタニアにおけ るアラブ・イスラーム文化の 諸相」	『イスラーム世界研 究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	276-297
東長 靖 (研究分担者)	「スーフィズム・アンソロジ ー・シリーズ 6 イブン・タイミーヤ『書簡・ 提題論集』より聖者関連論考 解題・翻訳ならびに訳注」	『イスラーム世界研 究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	533-540
Ab. Hafiz Mat Tuah (Universiti Kebangsaan)	“Quranic Cosmogony: Impact of Contemporary Cosmology on the Interpretation of Quranic Passages”	『イスラーム世界研 究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	124-140

Frauke Demuth (Durham University)	“Parallel Universes: What Islamic Finance can Learn from Socially Responsible Investment”	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	20-32
NAGAOKA Shinsuke (研究分担者)	“Resuscitation of the Antique Economic System or Novel Sustainable System? Revitalization of the Traditional Islamic Economic Institutions (Waqf and Zakat) in the Postmodern Era”	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	3-19
長岡 慎介 (研究分担者)	「ムダーラバ・コンセンサス」のマレーシアの転回——イスラーム資本市場が切り開く新たな地平——」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	243-275
Tawat Noipom (Prince of Songkla University)	“Can Islamic Micro-financing Improve the Lives of the Clients: Evidence from a Non-Muslim Country”	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	67-97
Haslin Hasan (Universiti Kebangsaan)	“Quranic Cosmogony: Impact of Contemporary Cosmology on the Interpretation of Quranic Passages Relating to the Origin of the Universe”	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	124-140
堀内 勝	「意味を問えば文化が分かる——アラブ基層文化の追究：砂漠とラクダ・遊牧民に魅せられて アラブ言語文化と意味論」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	197-242
	「アル・ハマザーニー著『マカーマート』(3) 「終わり」に代えて」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	369-492
Maszlee Malik (the International Islamic University Malaysia)	“Islahi Social Capital: A Conceptual Approach towards Faith-Based Development and Poverty Alleviation”	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	33-48
松本 耿郎 (聖トマス大学)	「50 年イスラーム思想を研究して」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	173-194
松村 耕光 (研究協力者)	「「イスラームの夜明け」——イクバルのウルドゥー詩(7)——」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	493-498
山尾 大 (研究協力者)	「安定化した政党政治——第3回イラク地方県議会選挙の分析——」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	298-319
山根 聡 (研究分担者)	「京都大学アキール文庫について」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	143-151
山本 直輝 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)	「アブドゥルガニー・ナーブルスィー研究の軌跡と課題」	『イスラーム世界研究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	362-368

守川 知子・ ペルシア語百科全 書研究会	「ムハンマド・ブン・マフム ード・トゥーシー著『被造 物の驚異と万物の珍奇』(7)」	『イスラーム世界研 究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	499-532
Azila Abdul Razak <i>et al.</i> (Sultan Idris Education University)	“Economic Significance of Mosque Institution in Perak State, Malaysia”	『イスラーム世界研 究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	98-109
Nur Indah Riwijanti (Malang State Polytechnics)	“Exploring the Role of Islamic Microfinance Institution in Poverty Alleviation Through Microenterprises Development, A Case Study of Islamic Financial Cooperative (BMT) in Indonesia”	『イスラーム世界研 究』 <i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i>	7	2014	49-66

〔図書〕計（３）件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
加賀谷 寛	『南アジアの政治と文化—加賀谷寛 著作集 2—』 (Kyoto Series of Islamic Area Studies)	京都大学大学 院アジア・アフ リカ地域研究 研究科附属イ スラーム地域 研究センター	10	2014	ix,388
東長 靖 (研究分担者) 松村耕光 (研究協力者) 山根 聡 (研究分担者) 編	『南アジアの政治と文化—加賀谷寛 著作集 2—』 (Kyoto Series of Islamic Area Studies)	京都大学大学 院アジア・アフ リカ地域研究 研究科附属イ スラーム地域 研究センター	10	2014	ix,388
小杉 泰 (編) (拠点代表)	『環インド洋地域における宗教復 興・テクノロジー・生命倫理』	京都大学大学 院アジア・アフ リカ地域研究 研究科附属イ スラーム地域 研 究 セ ン タ ー・同附属現代 インド研究セ ンター		2013	250

〔学会発表〕計（ 24 ）件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
UCHIYAMA Akiko (研究協力者)	The Commonly Held Images of Holy Shrines: Through the Narratives of People in Tehran regarding Emāmzāde	KIAS/SIAS Joint International Workshop	2014.3.29	Sophia University
Kawamura Ai (研究協力者)	Islamic Finance's Exit from Dubai Shock: An Assessment of Dubai Approach from Financial Dispute	7th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economic and Finance	2013.10.2	Kyoto University
	Islamizing Financial Disputes: A New Trend in Dispute Resolution for Islamic Finance	2nd UBD-KU Joint International Seminar "New Horizons in Islamic Studies: Asian Perspective"	2013.11.25	Universiti Brunei Darussalam, Jalan, (Darussalam)
Kuroda, Ayaka (研究協力者)	"Islam and Religious Coexistence in Egypt: Preliminary Discussion."	International Workshop on Civil Society Organizations in the Middle East and Asia	2013.10.2	Kyoto University
	"Islamic Civilization and Religious Tolerance: Contemporary Egyptian Debates."	2nd UBD-KU Joint International Seminar "New Horizons in Islamic Studies: Asian Perspectives"	2013.11.25	Universiti Brunei Darussalam, Jalan, (Darussalam)
KOSUGI Yasushi (拠点代表)	Principal and Strategic Tasks of Islamic Economics in the Current and Coming Decades	7th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance	2013.10.1	Kyoto University
	Forming a New Stage of Islamic Studies in the Global Age: Asian Initiatives	2nd UBD-KU Joint International Seminar: New Horizons in Islamic Studies	2013.11.25	Universiti Brunei Darussalam, Jalan, (Darussalam)
KOMAKI Sachiyo (研究協力者)	'The Barelwi Movement and Its Influence on the Cult of Islamic Relics in Contemporary India	2nd CNRS -KIAS/SIAS JOINT SEMINAR, SECOND FRENCH-JAPANESE SEMINAR, SAINT CULTS, MAUSOLEUMS AND SUFI LINEAGES	2013.11.22	CNRS/GSRL, Ecole Pratique des Hautes Etudes - Sorbonne, Paris (France).
黒崎 卓 (一橋大学)	2013 年パキスタン総選挙での投票行動に関する定量分析	NIHU プログラム・イスラーム地域研究京都大学拠点	2014.1.17	京都大学

SATO marie (研究協力者)	“Islamic NGOs in the Contemporary Middle East: The Case of Jordan”	COSER/ KIAS/ Durham Univ. International Workshop on “ <i>Civil Society Organizations in the Middle East and Asia</i> ”	2013.10.2	Kyoto University
	“Islamic Charity and Refugee Relief in Jordan”	SOASCIS-ASAFAS Second Joint International Seminar on “ <i>Islamic Studies in the Age of Globalisation: the New Horizons</i> ”, at Universiti Brunei Darussalam	2013.11.24-25	Universiti Brunei Darussalam, Jalan, (Darussalam)
SUNAGA Emiko (研究協力者)	Development of Islamic Publications and Urdu Bazar: A Study of the Book Industry in Pakistan	NIHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference	2013.11.2-4	Lahore University of Management Sciences (Pakistan)
	Publishing Qur’anic Interpretations in South Asia and Maulana Maududi's Contributions	SOASCIS Universiti Brunei Darussalam, ASAFAS Kyoto University Second Joint International Seminar, Islamic Studies in the Age of Globalization: The New Horizons	2013.11.25	Universiti Brunei Darussalam, Jalan, (Darussalam)
TOKORO Yuko (研究協力者)	“The Jihad by ‘Abd al-Qadir al-Jazairi in Algeira and Territorial Occupation in 19 th Century”	NIHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference	2013.11.2-4	Lahore University of Management Sciences (Pakistan)
	“Jihad and Sulh: Concerning the Relationship between al-Amir ‘Abd al-Qadir and Morocco”	KIAS/SIAS: Joint International Workshop “Diverse Approaches to the Muslim People’s Life: Sufis, Saint Venerators, and Migrants”	2014.3.29	Sophia University
NAGAOKA Shinsuke (研究分担者)	Revivals of the Traditional Islamic Economic Institutions with Novel Devices in the Second Decade of the 21st Century	7th Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance	2013.10.1	Kyoto University
	Creating a Sustainable Economic System: Lessons from Islamic Economics and Finance	2nd UBD-KU Joint International Seminar: New Horizons in Islamic Studies	2013.11.25	Universiti Brunei Darussalam, Jalan, (Darussalam)

NAKANISHI Tatsuya (研究協力者)	Sainthood and Numinous Texts: Why Did Chinese Qadiri Sufis Preferably Use Taoist Words?	SECOND CNRS-KIAS/SIAS JOINT SEMINAR, SECOND FRENCH-JAPANESE SEMINAR, SAINT CULTS, MAUSOLEUMS AND SUFI LINEAGES	2013.11.22	CNRS/GSRL, Ecole Pratique des Hautes Etudes - Sorbonne, Paris (France).
NINOMIYA Ayako (研究協力者)	“Life and Legend of Ashraf Jahāngīr Simnānī”	NIHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference	2013.11.2	Lahore University of Management Sciences (Pakistan)
保坂 修司 (研究分担者)	日本と石油と中東をめぐる 40年と60年と400年	NIHU プログラム・ イスラーム地域研 究京都大学拠点	2014.2.23	京都大学
堀抜 功二 (研究協力者)	日本のエネルギー資源外交と 中東	NIHU プログラム・ イスラーム地域研 究京都大学拠点	2014.2.23	京都大学
YAMANE So (研究分担者)	“Correlation between Sense of Crisis and Islamic Revivalism through the Study of Jama’at-e Islami in Pakistan”	NIHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference	2013.11.3	Lahore University of Management Sciences (Pakistan)
山根 聡 (研究分担者)	2013 年総選挙をめぐるパキ スタン情勢とムスリム諸派の 動向	NIHU プログラム・ イスラーム地域研 究京都大学拠点	2014.1.17	京都大学
YAMAO Dai (研究協力者)	“From Mesopotamian Iraq to What? The Transformation of “Official Nationalism” after the Iraqi War in 2003”	International Conference, Iraq 10 years on	2013.6.3-4	American University in Cairo (Egypt)

■拠点発行物以外の研究成果物

〔論文〕計（54）件

著者名	論文標題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
石田 友梨 (研究協力者)	「インドにおけるイスラーム改革 思想とスーフィズム—シャー・ワリ ーウッラーをめぐる学者ネットワ ークからの考察—」	京都大学大学院 アジア・アフリ カ地域研究研究 科博士論文			
荻谷 康太 (研究協力者)	「14 世紀のスーダン西部の金産 地を巡る情報操作：マンサー・ムー サーの語りの分析を中心に」	『アジア・アフ リカ言語文化研 究』	86	2013	55-80
	「セネガルのスーフィー教団図書 館に関する覚書—トゥーバ、ジュ ールベル、カオラク」	『アフリカ研 究』	82	2013	25-29
	「西アフリカに関する史的研究と アラビア語資料」	『歴史と地理 世界史の研究』	235	2013	50-53
川村 藍 (研究協力者)	「民事紛争と法体系の摩擦—湾岸の 法制度とイスラーム金融を事例に」	『環インド洋地 域における宗教 復興・テクノロジー・生命倫理』		2013	151-162

KAWAMURA Ai (研究協力者)	“Dubai Approach as a New Resolution System for Islamic Finance Dispute Case”	アジア・アフリカ地域研究	13-1	2013	1-23
吉川 卓郎 (研究協力者)	『生存の政治』における政府－イスラーム関係－2011 年民主化運動とヨルダンのムスリム同胞団」	『アジア経済』	55-1	2014	28－52
小杉 泰 (拠点代表)	「イスラーム的身体観と生命倫理の再構築－グローバル化時代におけるその意義－」	環インド洋地域における宗教復興・テクノロジー・生命倫理		2013	241-250
	「現代イスラームの宗教文化と政治・社会」	學士會会報	903	2013	34-45
	「イスラームはどう世界につたえられたか」	広がり続けるイスラームの秘密		2014	9-81
KOSUGI Yasushi (拠点代表)	“In the Path of Islamic Area Studies: Understanding Islamic Societies through Primary Sources and Fieldwork”	<i>Raku-Yu Kyoto University Newsletter</i>	24	2013	8-9
小牧幸代 (研究協力者)	「聖なる複製・商品の信仰空間：イスラームの聖遺物とフェティシズム」	田中雅一編『フェティシズム研究 2 越境するモノ』京都大学学術出版会		2014	219-243
齋藤 剛 (研究協力者)	第 10 章「ムフタル・スーフィーと『治癒をもたらす妙薬』——モロッコ南部ベルベル人とイスラーム的知の伝統」	柳橋博之編『イスラーム 知の遺産』東京大学出版会		2014	97-338
佐藤 麻理絵 (研究協力者)	「第 4 部 第 2 章 ヨルダン」	山内直人編『世界の市民社会』大阪大学大学院国際公共政策研究科 NPO 研究情報センター		2014.3	196-205
末近 浩太 (研究分担者)	「クサイルへの道：シリア『内戦』とヒズブッラー（焦点 中東の政治変動とイスラーム主義）」	『中東研究』	518-2	2013	54-65
	「シリア問題は世界に何を突きつけたのか（特集 現代思想の論点 21）」	『現代思想』	41-17	2013	183-189
	「シリアのムスリム同胞団：ハマー虐殺のアナロジー」	黒木英充編『シリア・レバノンを知るための 64 章』明石書店		2013	181-186
	「レバノンの抵抗運動：ヒズブッラーの伸張」	黒木英充編『シリア・レバノンを知るための 64 章』明石書店		2013	199-204
	「アントウン・サアーダ」	黒木英充編『シリア・レバノンを知るための 64 章』明石書店		2013	109-111
	「ミシェル・アフラク：アラブ「復興」の夢に生きた思想家」	松本弘編『現代アラブを知るための 56 章』明石書店		2013	129-130

吉原博幸・ 加畑理咲子・ 谷悠一郎・ 西垣昌代・ 藤澤道子・ 道和百合・ 平田義弘・ 小野加奈子・ 千石真理・ 丸山晃央・ 須永恵美子 (研究協力者)	「第 10 次京大ブータン友好訪問 団調査報告」	ヒマラヤ学誌	15	2014	23-48
須永 恵美子 (研究協力者)	「ウルドゥー・イスラーム文化圏と 啓典解釈学の展開」	小杉泰編『環イ ンド洋地域にお ける宗教復興・ テクノロジー・ 生命倫理』		2014	111-122
高尾 賢一郎 (研究協力者)	「宗教の社会貢献についての一考 察——サウジアラビアの勸善懲惡 委員会を事例とした社会における 両価性の検討」	『宗教と社会』	19	2013.6	65-78
	「サウディアラビアのメディアに 見るイラン批判」	『中東研究』	518	2013.10	47-53
東長 靖 (研究分担者)	「イブン・アラビー学派のグローバ ル性」	『環インド洋地 域における宗教 復興・テクノロジー・生命倫理』		2013.4	25-31
二宮 文子 (研究協力者)	「インドにおけるイスラーム「聖 地」の創造——シャムスの貯水池 Ḥauḍ-i Shamsī と『求道者の鍵 <i>Miftāḥ al-Ṭālibīn</i> 』——」	『史壇』	138	2013.12	1-17
	「インドのイスラーム思想 修行 論に見られるインド思想との交流」	堀川徹(編)『シ リーズ 知のユ ーラシア 第五 巻 イスラーム は東西をめざす ——知の継承と 展開』明治書院		2014.3	3-21
堀抜 功二 (研究協力者)	「GCC 諸国における体制の脅威認 識と治安同行の展開——アラブ首 長国連邦とイスラーム問題を事例 に——」	『JIME 中東動 向分析』	12-3	2013	1-12
	「カタール外交の戦略的可能性と脆 弱性——『アラブの春』における外 交政策を事例に——」	土屋一樹(編) 『中東地域秩序 の行方——「ア ラブの春」と中 東諸国の対外政 策』		2013	83-98

保坂 修司 (研究分担者)	「クウェート国民議会選挙」	中東協力センターニュース	38-3	2013	44-55
	「日本・中東・石油ー40年前と10年前と60年前」	中東協力センターニュース	38-5	2013	66-72
	「イナメナス事件再考」	中東動向分析	12-2	2013	1-9
	「湾岸諸国の近代ー大国の野心と小首長国の興亡」	現代アラブを知るための56章		2013	131-134
	「湾岸諸国の現代ー石油とイスラームと体制の護持」	現代アラブを知るための56章		2013	135-140
	「アブドゥルアジーズ・ビン・アブドゥッラフマーニー沙漠の豹イブン・サウード」	現代アラブを知るための56章		2013	141-142
	「イスラーム過激派とアラブー現代中東の病巣」	現代アラブを知るための56章		2013	187-192
	「メディアとアラブー非民主的体制下の公共圏」	現代アラブを知るための56章		2013	193-199
松村 耕光 (研究協力者)	「ムハンマド・フサイン・アーザードのペルシア詩論について」	言語文化研究	40	2014.3	143-152
宮坂 直史 (研究協力者)	「国際テロリズムー暴力のトランスナショナル化」	吉川元ほか編『グローバル・ガヴァナンス論』		2014.2	173-186
森 伸生 (研究分担者)	「イスラーム法規定における容易化の可能性ー巡礼の諸規定を例にしてー」	『シャリーア研究第10号』拓殖大学イスラーム研究所		2013.9	35-70
	「クルアーン解釈 第8章戦利品第1節～31節」	『シャリーア研究第10号』拓殖大学イスラーム研究所		2013.9	111-152
森山 央朗 (研究協力者)	「地方史人名録：ハディース学者の地方観と世界観」	柳橋博之編『イスラーム 知の遺産』東京大学出版会		2014	61-94
	「イスファハーンの2篇の「歴史」：ハディース学者が同じような著作を繰り返し編纂した理由」	東洋史研究	72-4	2014	34-70

山根 聡 (研究分担者)	「近代ウルドゥー文学に見る食文化」	『NARASIA Q』奈良県	4	2013	53-56
	「2013 年総選挙にみるパキスタン情勢」	国際情勢紀要	84	2014	197-210
	「パキスタンにおける女性自立支援」	南 ア ジ ア と NGO -南アジアからの比較研究		2014 刊行予定	1-18
	「臓器移植とイスラーム—20世紀半ばのパキスタンにおけるイスラーム復興—」	『環インド洋地域における宗教復興・テクノロジー・生命倫理』小杉泰編		2013	203-213
	“Pakistan men Nazar-e bad ka Tasawwur aur us ki Riwayat” (パキスタンにおける邪視の概念とその伝統)	印度民俗研究	13	2014	1-33
	「ナワーズ・シャリーフ」「ベーナズィール・ブットー」など	『世界人名大辞典』岩波書店		2014	
YAMANE So (研究分担者)	“Faqr Muhammad Goya Khan”	Encyclopedia of Islam (Brill)		2013	139-140
	“The Horizons of Islam in South Asia: Iqbal and Maududi”	“Armaghan-e Rafi ud-Din Hashmi” (Rawalpindi: Al-Fath Publications)		2013	63-105
YAMAO Dai (研究協力者)	“Foreign Impacts Revisited: Islamists’ Struggles in Post-war Iraq”	World Political Science Review,	9(1)	2013	155-172
山尾 大 (研究協力者)	「和解が生み出した政治対立——戦後イラクにおける排除と包摂のポリティクス」	佐藤章編『和解過程下の国家と政治——アフリカ・中東の事例から』アジア経済研究所		2013	97-126

〔図書〕計（10）件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
川本 正知 (研究協力者)	『モンゴル帝国の軍隊と戦争』	山川出版社		2013.11	252
佐藤 麻理絵 (研究協力者)	『中東・アジアにおける市民社会組織』	2013 年度国際研究発信力強化プログラムリサーチ C&M 報告書		2014.3	110
末近 浩太 (研究分担者)	『イスラーム主義と中東政治：レバノン・ヒズブッラーの抵抗と革命』	名古屋大学出版会		2013	480

千葉 悠志 (研究分担者)	小杉泰 (編)『環インド洋地域における宗教復興・テクノロジー・生命倫理』(共著)	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター・同附属現代インド研究センター		2013	139-149
保坂修司 (研究分担者)	『サイバー・イスラーム——越境する公共圏』	山川出版社		2014	128
小笠原高雪・ 栗栖薫子・ 広瀬佳一・ 宮坂直史・ 森川幸一編著 (研究協力者)	『国際関係・安全保障用語辞典』	ミネルヴァ書房		2013.4	382
森伸生 (研究分担者)	『サウディアラビア 二聖都の守護者』(イスラームを知る 19)	山川出版社		2014.3	122
YAMANE So (Supervise) (研究分担者)	<i>Urdu Works of Abū al-A'ḷā Maudūdī: An Annotated Bibliography</i>	京都大学イスラーム地域研究センター		2014.3	114
YAMANE So (研究分担者)	<i>Regional Routes, Regional Roots? – Cross-Border Patterns of Human Mobility in Eurasia</i>	Slavic Research Center, Hokkaido University		2014	111
山根聡 (研究分担者)	上級ウルドゥー語読本	溪水社		2014	425

〔学会発表〕計 (32) 件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
石黒 大岳 (研究協力者)	「アラブ諸国の政治変動における司法の役割：エジプトとクウェートにおける議会解散をめぐる政治過程」	日本比較政治学会	2014.6.22	神戸大学
加藤 瑞絵 (研究協力者)	「伝承と禁欲主義（ズフド）の関わりについて」	第 72 回日本宗教学会学術大会	2013.9.7	國學院大学
荻谷 康太 (研究協力者)	「非境界型世界の境界性と非境界性：中世アラビア語圏の地理学とサハラ以南アフリカ」	国立民族学博物館共同研究『非境界型世界の研究——中東的な人間関係のしくみ』（代表：堀内正樹・成蹊大学教授）	2013.10.20	国立民族学博物館
川村 藍 (研究協力者)	ドバイ・アプローチの先進性：イスラーム金融における民事紛争処理制度をめぐって	日本中東学会第 29 回年次大会	2013.5.13	大阪大学豊中キャンパス

吉川 卓郎 (研究協力者)	「ヨルダンのムスリム同胞団の動向：2011 年民主化運動以降の活動を中心に」	日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所・地域研究センター・中東研究グループ「ムスリム同胞団とイスラーム運動の国際連関」	2013.7.27	JETRO 本部
	「ヨルダンの難民政策：承認を巡る議論の整理と考察」	京都大学地域研究統合情報センター（CIAS）「南欧カトリシズムの変容と福祉ビジネスの展開に関する地域間比較」第 2 回研究会	2014.2.16	京都大学地域研究統合情報センター
KURODA Ayaka (研究協力者)	“Islamic State and Religious Coexistence: Visions of Islamic Intellectuals in Egypt”	the 3rd KIAS-IMS joint seminar, “Society and Culture of the Mediterranean World	2014.2.4	Kyoto University, Kyoto, Japan
小牧 幸代 (研究協力者)	「イスラーム改革主義と聖遺物信仰：バレーリー派の思想とチシュティー系聖者廟の実践」	日本南アジア学会 第 26 回全国大会	2013.10.5	広島大学東広島キャンパス
齋藤 剛 (研究協力者)	「ムフタル・スーフィーとロベール・モンターニュ：モロッコにおける地域をめぐる二つの眼差し」	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「地域民族誌の方法論と人類学的空間構想力の可能性の探求」	2013.11.10	東京外国語大学本郷サテライト
佐藤 麻理絵 (研究協力者)	「ヨルダン首都アンマンにおける難民受入と都市の変容」	日本中東学会 第 29 回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャンパス
末近 浩太 (研究分担者)	「多宗派社会における国軍：レバノンの宗派制度と暴力装置」	2013 年度日本比較政治学会研究大会・分科会 E「紛争と国家建設における軍・準軍事組織・治安機関の役割」	2013.6.24	神戸大学
末近浩太・ 吉川卓郎・ 横田貴之 (研究分担者)	“Islamism in Democratizing States: Comparative Studies on the Muslim Brotherhood Movements in Egypt, Syria and Jordan after the 2011 Arab Spring”	Panel “Egypt and Internal Security Issues,” PSS-ISA Joint Conference 2013	2013.6.28	Corvinus University, Budapest (HUNGARY)

須永 恵美子 (研究協力者)	「イスラーム学関連原典における人名—IV ウルドゥー語」	科研基盤 A「グローバル化時代に対応する 21 世紀型イスラーム学の構築」第 3 回研究会	2013.7.2	京都大学
	「イスラーム思想家マウラーナー・マウドゥーディーとその生涯—アキール文庫を中心に」	科研費基盤 B「南アジア諸語イスラーム文献の出版・伝播に関する総合的研究」2013 年度第 2 回研究会	2013.11.29	京都大学
SUNAGA Emiko (研究協力者)	“Printing Culture and Religious Literature in Pakistan: Development of Urdu Books”	韓 国 中 東 学 会 (KAMES) 国際シンポジウム Beyond the New Paradigm in the Middle East: Political Affairs, Islamic Value and Multi Culture	2013.10.12	東國大学 Dongguk University (韓国)
	“Study on Printed Qur’anic Interpretations in South Asia”	Pakistani Studies in Japan 2014	2014.2.20	バハウッディーン・ザカリヤー大学 (パキスタン)
TAKAO Kenichiro (研究協力者)	“Reconsidering the Social Role of the Committee of the Promotion of Virtue and the Prevention of Vice in an Evolving Saudi Arabian Society”	Preliminary Workshop Program: IN SEARCH OF THE KINGDOM; EMERGING SCHOLARSHIP ON SAUDI ARABIA: FROM THE FIRST SAUDI STATE TO THE PRESENT	2013.6.14	Zentrum Moderner Orient, Berlin, (Germany)
千葉悠志 (研究分担者)	「現代アラブ世界における衛星放送とイスラーム復興—宗教系放送局に焦点をあてて—」	日本マス・コミュニケーション学会 2013 年度春季研究発表会	2013.6.8	松山大学
CHIBA Yushi (研究分担者)	“Tunisian Media before and after the Jasmine Revolution: Continuity and Discontinuity”	KAMES/KGC/RISS/GMC International Symposium	2013.10.13	Dungguk University (韓国)
CHIBA Yushi (研究分担者) 所 木綿子 (研究協力者)	“Jordanian Broadcasting Strategy in the Changing Regional Media Landscape”	The Seminar Sponsored by Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCCA), Tokyo University of Foreign Studies	2013.11.23	中東研究日本センター (レバノン)
	「アブドゥルカーディル・ジャザーイリーにおけるキリスト教と西欧理解」	日本オリエント学会第 55 回大会	2013.10.26	京都外国語大学

NAGAOKA Shinsuke (研究分担者)	“Revitalization of the Traditional Islamic Economic Institutions (Waqf and Zakat) in the Twenty-First Century: Resuscitation of the Antique Economic System or Novel Sustainable System?”	9th International Conference in Islamic Economics and Finance	2013.9.10	WoW Convention Center, Istanbul (Turkey)
長岡慎介 (研究分担者)	「イスラーム金融の新展開—そのビジョンとグローバル経済へのインパクト」	アジア法学会秋季研究大会創立 10 周年特別企画「シャリーアとイスラーム金融」	2013.11.16	立命館大学朱雀キャンパス
平野淳一 (研究分担者)	「ジャーヒリーヤ時代人の理性主義的見方の諸特徴」	イスラーム地域研究・イスラームの知と権威：動態的研究・フサイン・ムルーワ読書会	2013.11.30	早稲田大学
HORINUKI Koji (研究協力者)	“An Independency in a State of Dependency: Socio-Economic Challenges and Politics in the Northern Emirates of the UAE,”	日本中東学会第 29 回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャンパス
松村耕光 (研究協力者)	「ウルドゥー語における不定詞の名詞的用法について」	日本南アジア学会第 26 回全国大会	2013.10.5	広島大学
森山央朗 (研究協力者)	「ハディース研究とハディース学（者）研究」	「イスラーム学の最前線」研究会（科研基盤 A「グローバル化時代に対応する 21 世紀型イスラーム学の構築」）	2013.12.7	京都大学
	「預言者ムハンマドを「継いだ」学者たち：10-13 世紀のムスリム社会の研究」	基督教研究会公開講演会	2014.1.21	同志社大学
山根聡 (研究分担者)	「2013 年総選挙をめぐるパキスタン情勢とムスリム諸派の動向」	IAS-INDAS 連携事業「南アジア現代社会の政治と思想」研究会	2014.1.17	京都大学
	「パキスタンにおける邪視をめぐる習俗 — ことばの力」	京都大学 CIAS 共同研究個別ユニット「宗教実践における声と文字」研究会	2014.3.4	京都大学
YAMANE So (研究分担者)	“A Study of the Sophisticated Terms in Urdu Writings on Cuisine Culture under the British Raj”	“Food in History” 82nd Anglo-American Conference for Historians	2013.7.12	University of London (Great Britain)
	“Urdu Writings on Food”	Pakistani Studies in Japan	2014.2.20	Bahauddin Zakariya University, Multan, (Pakistan)

〔書評〕計（２）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
川村 藍 (研究協力者)	「田中民之・西村あさひ法律事務所(編)2013『中東諸国の法律事情とUAEの民法典』経済産業調査会」	UTCMES ニューズレター	4	2013	10
二宮文子 (研究協力者)	「山根聡『4億の少数派 南アジアのイスラーム(イスラームを知る8)』(山川出版 2011年)」	現代インド研究	4	2014.2	149-151

〔短報・雑録・エッセイなど〕計（６）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
佐藤 麻理絵 (研究協力者)	「セルビス事情@アンマン」	『アジア・アフリカ地域研究情報マガジン：フィールド便り』		2013.3	Web 上
	「多様性と混沌とその先にーヨルダンの新聞社を訪ねてー」	アジア・アフリカ地域研究	13-1	2013.9	70-73
須永恵美子 (研究協力者)	「ラホールの新交通機関メトロバスー開通から１年」	パーキスターン	249	2014	2-9
高尾賢一郎 (研究協力者)	「サウジアラビアの勧善懲悪委員会の調査に関する覚書」	UTCMES ニューズレター	4	2013.9	8-9
真下裕之監修、 二宮文子・ 真下裕之・ 和田郁子訳注 (研究協力者)	アブル・ファズル著『アーイーニ・アクバリー』訳注(2)	神戸大学文学部紀要	41	2014.3	75-120
二宮文子 (研究協力者)	(新刊紹介)「間野英二著『バーブル ムガル帝国の創設者』(世界史リブレット 人046)」	史学雑誌	122(12)	2013.12	104

〔受賞〕計（２）件

受賞者氏名	受賞内容	受賞年月日
KAWAMURA Ai (研究協力者)	Best Performance Award (Silver) at Durham-Kyoto International Workshop in Islamic Economics and Finance	2013.10.2
	Best Performance Award (Gold) of SOASCIS-ASAFAS Second Joint International Seminar 2013	2013.11.25

〔講演録〕計（１）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
小杉 泰 (拠点代表)	「知のるつぼ」としての研究 者――地域と日本を往還する	第 9 回松下幸之助国際ス カラシップフォーラム 後援：外務省		2013	3-16, 講評： 53-54

〔編集校閲〕計（１）件

編集者名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
小杉 泰 (拠点代表)	『世界人名辞典』（アラブ人名 ほか）	岩波書店		2013.12	

公益財団法人東洋文庫研究部・イスラーム地域研究資料室

代表：三浦 徹（東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室・室長、
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科・教授）

中心テーマ 『イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓』

【研究組織】

（研究拠点構成員）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
三浦 徹	東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室室長・お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授	拠点代表 (総括、アラブ史資料の収集・研究)
堀川 徹	東洋文庫研究員、京都外国語大学外国語学部教授	研究分担者 (文書史料の比較制度研究)
磯貝 健一	東洋文庫研究員、追手門学院大学国際教養学部准教授	研究分担者 (中央アジア史資料の収集・研究)
大河原知樹	東洋文庫研究員、東北大学大学院国際文化研究科准教授	研究分担者 (アラブ史資料の収集・研究)
近藤 信彰	東洋文庫研究員、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授	研究分担者 (イラン史資料の収集・研究)
秋葉 淳	東洋文庫研究員、千葉大学大学院人文社会科学研究科准教授	研究分担者 (トルコ史資料の収集・研究)
徳原 靖浩	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、東洋文庫研究員	研究分担者 (イラン史資料の収集・文献情報ネットワーク形成)

研究グループ：「イスラーム地域研究史資料ネットワークの構築」

（研究グループメンバー）

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	役 割 分 担 等 (担当研究テーマ)
三浦 徹	東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室室長、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授	研究グループ代表 (アラブ史資料の収集・研究)
堀川 徹	東洋文庫研究員、京都外国語大学外国語学部教授	研究分担者 (文書史料の比較制度研究)

磯貝 健一	東洋文庫研究員、追手門学院大学国際教養学部准教授	研究分担者 (中央アジア史資料の収集・研究)
大河原知樹	東洋文庫研究員、東北大学大学院国際文化研究科准教授	研究分担者 (アラブ史資料の収集・研究)
近藤 信彰	東洋文庫研究員、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授	研究分担者 (イラン史資料の収集・研究)
秋葉 淳	東洋文庫研究員、千葉大学大学院人文社会科学研究科准教授	研究分担者 (トルコ史資料の収集・研究)
渡辺 浩一	国文学研究資料館教授	研究分担者 (文書史料の比較制度研究)
原山 隆広	東洋文庫研究員	研究分担者 (アラブ史資料の収集・研究)
柳谷あゆみ	東洋文庫研究員	研究分担者 (アラブ史資料の収集・文献情報ネットワーク形成)
徳原 靖浩	人間文化研究機構地域研究推進センター研究員、東洋文庫研究員	研究分担者 (イラン史資料の収集・文献情報ネットワーク形成)

(研究グループ海外共同研究者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
ランディ・ドゥギエム	フランス国立科学研究センター教授	文書史料の比較制度研究
シュテファン・クノスト	バイルート東洋学研究所研究員	文書史料の比較制度研究
ネッリー・ハンナ	カイロ・アメリカン大学教授	文書史料の比較制度研究

(研究グループ研究協力者)

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	担当研究テーマ
伊藤 知義	中央大学法科大学院教授	「シャリーアと近代」オスマン民法典研究
上野雅由樹	大阪市立大学大学院文学研究科講師	オスマン帝国史料の総合的研究
江川ひかり	明治大学文学部教授	「シャリーアと近代」オスマン民法典研究

小笠原弘幸	九州大学大学院人文科学研究院准教授	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究、オスマン帝国史料の総合的研究
奥田 敦	慶應義塾大学総合政策学部教授	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究
桑原 尚子	高知短期大学社会科学科教授	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究
後藤 敦子	お茶の水女子大学附属図書館非常勤職員	中東・イスラーム研究文献情報の収集と整備
高松 洋一	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授	イスラーム圏におけるイラン式簿記術の成立と展開
中田 考	株式会社カリフメディアミクス代表取締役社長	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究
長谷部圭彦	駒澤大学文学部非常勤講師	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究・オスマン帝国史料の総合的研究
浜本 一典	同志社大学神学研究科博士後期課程・日本学術振興会特別研究員	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究
藤波 伸嘉	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・研究機関研究員	オスマン帝国史料の総合的研究
堀井 聡江	桜美林大学リベラルアーツ学群准教授 (早稲田大学拠点研究協力者)	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究
前野 直樹	イスラミックサークルオブジャパン日本人部代表	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究
松尾有里子	お茶の水女子大学研究員	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究・オスマン帝国史料の総合的研究
松山 洋平	東京大学東洋文化研究所・日本学術振興会特別研究員	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究
黛 秋津	東京大学大学院総合文化研究科・教養学部准教授	オスマン帝国史料の総合的研究
宮下 修一	静岡大学大学院法務研究科教授	「シャリーアと近代」 オスマン民法典研究
吉田 達矢	名古屋学院大学経済学部講師	オスマン帝国史料の総合的研究

【2013 年度事業の活動内容】

1. 拠点整備

- ①現地語史資料の収集・整理：エジプト・イラン・トルコから現地語資料を購入し、NACSIS-CAT への登録を含む整理を行った。これらの収集資料は拠点ホームページ上の OPAC にて検索することができる。
- ②研究文献情報の整備と普及：日本中東学会との連携でデータを整備・公開している「日本における中東・イスラーム研究文献データベース 1868～」は、2014 年 3 月現在で 51,500 件の書誌データを収録しており、中東イスラーム研究の専門の研究文献目録としては他に類のない網羅的な書誌データベースとなっている。また、人間文化研究機構の連携研究事業によりオスマン民法典関係文献データベースのための書誌データの収集を行い、14 カ国語にわたる計 716 件の書誌データを収集することができた。
- ③拠点ホームページをリニューアルし、「アラビア文字資料の整理のための手引き」ページを開設したほか、「オスマン帝国史料の総合的研究」研究会によるウェブ資料「イスラーム地域文書館・研究機関ガイド」、「オスマン帝国史料解題」を更新した。

2. 研究・教育活動

(1)拠点全体としての活動

①卒論を書くための情報検索リテラシーセミナー

日時：2013 年 8 月 5 日（月）10:00～17:00

場所：東洋文庫 2 階講演室

概要：卒業論文の執筆者を対象とする本セミナーは今年で 3 回目を迎えた。関西圏からの 4 名を含む 14 名の参加があった。論文の執筆法、検索の基本的な方法をレクチャーした後、各自の研究テーマで文献を検索し、文献リストを作る実習を行った。知識として学ぶだけでなく、実習を行うことにより、検索スキルが実際にどの程度身についているかがよく分かった。これらの経験を今後のセミナー等に活用していきたい。

（徳原靖浩）

プログラム

1. 「東洋文庫閲覧室の利用方法と書庫見学」
2. 「論文作成の技法」担当：三浦徹（東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室室長・お茶の水女子大学教授）
3. 「現地語資料の検索と利用」担当：徳原靖浩（東洋文庫）
4. 「研究文献の検索と利用」担当：後藤敦子（東洋文庫）
5. 検索実習「文献リストを作ろう！」

②北米中東学会 (MESA) 年次大会ラウンドテーブル「The Need to Compare: Going beyond the Area Studies Approach to Waqf Endowments」

日時：2013 年 10 月 11 日 (金)

場所：ニューオリンズ

共催：科学研究費補助金 基盤研究(B)「ワクフ (イスラーム寄進制度) の国際共同比較研究」(研究代表者：三浦徹)、CNRS 国際共同研究

概要:CNRS 国際共同研究代表 Randi Deghuilhem 教授(東洋文庫拠点研究分担者)の基調報告につづき、Jean-Pierre Dedieu (CNRS) が西欧中近世の家族寄進制度が「宗教」を名目とした家族財産の保全という点でワクフと共通することを、三浦が日本・中国の寄進制度と類似性を、Tunku Alina Alias (マレーシア・イスラーム金融大学研究員) がマレーシアの 18-20 世紀のワクフ制度の展開について報告を行い、地域をこえる比較研究の展望を示した。早朝のセッションにもかかわらず、D.Eickelman (文化人類学)、S.Humphreys (中世アラブ史)、A. K. Rafeq (近現代シリア史)、C. Petry (マムルーク朝史) らの著名な研究者の参加をえて、活発な質疑が行われた。

(三浦徹)

③国際セミナー「ワクフとイスラーム経済」

日時：2014 年 2 月 8 日(土) 14:00～17:00

場所：東洋文庫 2 階講演室

共催：科学研究費補助金 基盤研究(B)「ワクフ (イスラーム寄進制度) の国際共同比較研究」(研究代表者：三浦徹)

概要：招聘講演者チザクチャ教授 (マレーシア、イスラーム金融大学) はワクフ制度の歴史的展開を踏まえ、イスラームの経済・金融制度のなかにワクフを位置付ける研究と教育を精力的に行っている。本セミナーでは、ワクフだけでなく、税制度をふくめて、イスラーム史における富 (財) のマネジメント (富の蓄積と分配) の問題を考察し、15-16 世紀以降国家権力の強大化によって下降したイスラーム経済を現代世界において復活させる金融システムとしてのイスラーム銀行やワクフの意義を示した。ディスカッサントの松原健太郎氏 (中国法史、東京大学法学研究科) は、宗族による祠堂への寄進財との比較の観点から問題を提示した。

(三浦徹)

プログラム：

Professor Murat Çizakça (INCEIF, The Global University of Islamic Finance Kuala Lumpur, MALAYSIA)
“Islamic Wealth Management in History and Present”

ディスカッサント：松原健太郎 (東京大学法学研究科准教授、中国法制史)

④アラビア文字資料司書連絡会

日時：2014年2月26日（水）13:30～17:00

場所：東洋文庫2階講演室

概要：アジア経済研究所図書館、国立国会図書館関西館、国立情報学研究所のほか、アラビア文字資料を所蔵する大学図書館の担当者ら計24名が参加し、当該資料の収集と整理に関する情報を交換した。各館の報告から、資料整理のノウハウの継承や費用対効果の問題が浮き彫りになったほか、OPACでは検索できない特別コレクションや滞貨資料が少なからず存在することが明らかになった。また、検索や整理に関するトピックだけでなく、主要なアラビア文字資料所蔵機関間でのリソースシェアリングについても東洋文庫が中心となって議論をして欲しいとの要望も提出され、今後当拠点が中心となって、大学・研究機関における現地語資料の収集について、長期的な展望を視野に入れつつより高い段階へと議論を進めることの必要性が感じられた。

（徳原靖浩）

(2)研究グループの活動

①「シャリーアと近代」研究会

日時：25年度第1回（通算40回） 2013年4月21日（日）

25年度第2回（通算41回） 2013年5月19日（日）

25年度第3回（通算42回） 2013年6月16日（日）

25年度第4回（通算43回） 2013年7月27日（土）～28日（日）

場所：東洋文庫（第1～3回）、高知短期大学（第4回）

共催：科学研究費補助金 基盤研究(B)「イスラーム法の近代的変容に関する基礎研究：オスマン民法典の総合的研究」（研究代表者：大河原知樹）

概要：本年度は、オスマン民法典（メジェッレ）の賃約（第3篇）の検討を引き続き進めた。定例の研究会を3回行ったほか、7月末に高知において研究会を実施し、これまでの懸案も含めて、賃約の最後まで訳文の検討を終えた。高知の研究会では研究協力者である桑原尚子氏（高知短期大学）が、メジェッレの東南アジアでの法の継受例とも言えるマジヤラ・アフキヤム・ジョホールに関して研究発表を行い、その比較法的、歴史的な位置づけに関して活発な討議が行われた。年度の後半は主にメールによって、最終的な訳文の確定に向けた話し合いを行った。

（大河原知樹）

②近代中央ユーラシア比較法制度史研究会（旧・中央アジアの法制度研究会）

日時：第1回 2013年7月6日（土） 14:00～20:00

第2回 2013年11月30日（土） 13:00～21:00

場所：京都外国語大学国際交流会館4階会議室（第1回）、B-nest（ビネスト）・静岡市産学交流センタ

ー7階演習室1（第2回）

共催：科学研究費補助金 基盤研究(B)「近代中央ユーラシア地域における帝国統治の比較法制度・法社会史的研究」（研究代表者：堀川徹）

概要：（第1回）今回の研究会は19名の参加者を迎えた。冒頭で堀川徹氏は、2001年より毎年継続している中央アジアの古文書調査・研究の進捗状況を紹介し、その成果をユーラシア諸帝国の事例と比較する必要性について説明を行った。さらに参加者の間からは、他の研究プロジェクトと連携した研究会実施についての提案が出された。引き続き磯貝健一氏（追手門学院大学）は、「ロシア帝国領中央アジア・シャリーア法廷における裁判文書作成プロセス」と題する報告を行い、これまでの中央アジア古文書研究（とくにイスラーム法廷文書研究）の成果および氏の最近の新知見を紹介し、これまでの中央アジアの法制度研究会とこれから行っていく近代中央ユーラシア比較法制度史研究会との関連について解説を行った。とりわけ台帳化されずに紙片状で、現地に民間所蔵の形で多数伝存しているファトワー（ムフティーがその法的判断を提示したもの）の反対面に記載されたタズキラの作成過程を復元し、その法廷における役割を明らかにした点は、近年盛んになった古文書研究の中でも、重要な発見である。紙片状文書よりもまとまった記述が得られる台帳に注目する世界的な研究潮流の中で見落とされている古文書研究のあり方に一石を投じた。

（塩谷哲史）

プログラム：

（第1回）

14:00～14:10 開会挨拶（堀川徹）

14:10～14:40 出席者自己紹介

14:50～16:50 研究報告・質疑応答

磯貝健一（追手門学院大学国際教養学部）「ロシア帝国領中央アジア・シャリーア法廷における裁判文書作成プロセス」

16:50～17:10 コーヒーブレイク

17:10～18:10 研究会開催計画に関する会議

18:20～20:00 科研費による研究計画に関する会議

20:00～ 懇親会

（第2回）

13:00～13:10 開会挨拶（堀川徹）

13:10～13:30 参加者自己紹介

13:30～15:30 研究報告1・質疑応答

田口宏二郎 氏（大阪大学大学院文学研究科）「土地他項権利証明書存根—近代南京の不動産公証制度」

16:00～18:00 研究報告2・質疑応答

額定其勞(エルデンチロ)氏(京都大学白眉センター)「ロシア帝国治下のブリヤート・モンゴルの法制度」

18:20～19:00 総合討論

19:30～21:00 懇談会

③第2回オスマン史研究会

日時：2013年7月7日(日) 14:30～17:30

場所：東洋文庫7階会議室

概要：山下真吾氏の報告は、オスマン朝バヤズィット二世時代の年代記『八天国』を、オスマン朝の「興隆」と「没落」の記述のされ方に焦点をあてて分析した。熊倉和歌子氏の報告は、ナイル川の灌漑における、ジスルと呼ばれる「土手」の維持管理についてオスマン朝史料を用いて解明を試みたものであった。研究会には、学部学生1名、大学院生(修士課程)3名を含む21名の参加者があり、多岐にわたって議論が交わされた。

(秋葉淳)

プログラム：

司会 鈴木董

14:30～15:50 山下真吾(東京大学大学院)「バヤズィットⅡ世時代の歴史記述に見られる「興隆」と「没落」の言説—イドリース・ビトリースィーの『八天国』を中心に—」

16:00～17:20 熊倉和歌子(日本学術振興会)「16-17世紀エジプト・デルタ地方におけるナイルの灌漑—スルターンのジスルの維持管理体制と村落社会—」

④第6回オスマン文書セミナー

日時：2013年12月22日(日)～23日(月)

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所3階大会議室

共催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

概要：研究協力者の高松洋一、研究分担者の秋葉淳を講師として、2日間の日程で開催された。主にシャリーア法廷に関係する文書が取り上げられ、法廷台帳に含まれる結婚と離婚の文書、カーディーに対する嘆願の文書などの講読を行った。北海道と九州からの参加者も含め、全国から20名以上の参加者があった。特に、修士課程の大学院生が多く、この分野の研究の将来に希望を与えるセミナーとなった。

(近藤信彰)

プログラム：

12月22日(日)

14:00-14:15 趣旨説明 講師・自己紹介

14:20-16:00 解説・講読：結婚と離婚Ⅰ(秋葉淳)

16:20-18:00 講読：結婚と離婚 II（秋葉淳）

12月23日（月・祝）

10:30-12:10 解説・講読：上申文書 ilam（嘆願）I（秋葉淳）

13:00-14:40 講読：上申文書 ilam（嘆願）II（秋葉淳）

15:00-16:40 講読：法廷記録簿と Ahkam defteri（高松洋一）

17:00-18:00 総合討論

⑤第12回中央アジア古文書研究セミナー

日時：2014年3月22日（土） 12:00～20:30

場所：京都外国語大学国際交流会館4階会議室

概要：2014年3月22日に京都外国語大学において、恒例の中央アジア古文書セミナーが開催された。通算12回目となる今年のセミナーには、学部学生や修士課程の学生からも参加者を得ており、関西圏東京圏だけでなく幅広い顔ぶれが集った。例年に引き続き、磯貝健一氏（追手門学院大学）と矢島洋一氏（奈良女子大学）が講師を務め、「婚姻認証文書」と仮称する文書、裁判の過程で作成されたタズキラと呼ばれる文書、ファトワー文書を講読した。本セミナーは、研究成果の共有および若手研究者の教育という側面も持ち、大変貴重な学術交流の機会である。

（阿部尚史）

プログラム：

12:00-12:20 趣旨説明（堀川）、参加者自己紹介

12:20-13:50 文書講読(1)「ブハラとヒヴァの婚姻認証文書」

講師： 矢島洋一（奈良女子大学大学院人文科学系）

13:50-14:10 コーヒーブレイク

14:10-17:30 文書講読(2)「帝政期フェルガナ州のタズキラとファトワー」

講師： 磯貝健一（追手門学院大学国際教養学部）（15:40-16:00 休憩）

17:30-17:40 休憩

17:40-18:40 総合討論

19:00-20:30 来年度研究計画についての打ちあわせ

⑥「イスラーム圏におけるイラン式簿記術の成立と展開」研究会

日時：第1回 2013年7月25日（木） 16:00～19:30

第2回 2013年9月26日（木） 16:00～19:30

第3回 2013年10月31日（木） 16:00～19:30

第4回 2013年12月12日(木) 16:00～19:30

第5回 2014年1月23日(木) 16:00～19:30

第6回 2014年2月20日(木) 16:00～19:30

場所：東洋文庫7階会議室

共催：科学研究費補助金 基盤研究(B)「イスラーム圏におけるイラン式簿記術の成立と展開」(研究代表者：高松洋一)

概要：第一回研究会で、『簿記術に関するファラキーヤの論説』に続いて、どの簿記術文献を扱うかを検討した結果、サファヴィー朝シャー・タフマースプ時代に著されたギヤース・アッディーン・アブー・イスハーク・ケルマーニーの簿記術論説を取り上げることに決定した。この文献は刊本がなく、これまでに、マルアシー図書館、マジュレス図書館(2写本)、アースターネ・ゴッズ図書館所蔵の主要写本の収集に成功し、これを比較検討して、仮校訂テキストを作成した。

(近藤信彰)

⑦国際ワークショップ「Armenian and Persian Bookkeeping Systems: A Comparison」

日時：2014年3月23日(日) 13:30～17:00

場所：東京外国語大学本郷サテライト4階セミナー室

共催：科学研究費補助金 基盤研究(B)「イスラーム圏におけるイラン式簿記術の成立と展開」(研究代表者：高松洋一)

概要：オックスフォード大学のエドモンド・ハーツィック氏を招聘し、アルメニアとイラン式簿記術を比較する目的で開催された。渡部報告は、『ファラキーヤ』からケルマーニーの論説に至るこれまでのプロジェクトの成果に基づくもので、研究会の国際的意義を明らかにした。ハーツィック報告においては、アルメニアの簿記術のさまざまなテクニックが具体的に解説され、複式帳簿を持つその独自性とペルシア語から多くの術語を借用している同時代性が明らかとなった。

(近藤信彰)

プログラム：

WATABE Ryoko (Part-time Lecturer, the University of Tokyo) "The importance of Persian siyaq manuals for the studies on fiscal administration and bookkeeping system in Persianate societies: A comparative case study on Ilkhanid and Safavid manuals"

Edmund HERZIG (University of Oxford) "Armenian Merchants and their Bookkeeping System during the Safavid Period"

3. 海外派遣・調査

研究グループの活動

①トルコにおける資料調査

出張期間：2014年2月12日(水)～2014年2月24日(月)

出張先(国名)：アタテュルク図書館(トルコ)、ベヤズト図書館(トルコ)、イスラーム研究センター(トルコ)ほか

出張者：佐々木紳(東京大学研究員)

概要：本出張では、イスラーム地域研究東洋文庫拠点(TBIAS)における「イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓」の業務の一環として、トルコ共和国イスタンブールの図書館、研究施設、および市内の書店で史資料の調査・収集をおこなった。また、イスラーム歴史・芸術・文化研究センター(IRCICA)図書館を訪問し、施設の概要や利用方法などの情報を収集した。

(佐々木紳)

4. 外国人研究者の招聘

(1)拠点全体としての活動

該当なし

(2)研究グループの活動

該当なし

5. 資料収集

主要な資料は次のとおり。これらの資料は拠点サイト OPAC にて検索可能である。

①資料名 アラビア語資料

- ・形態：図書
- ・冊数：210冊
- ・資料内容：「アラブの春」やエジプト現代政治関連資料、イランのコムで公刊された『ガディール事典 *Mawsuat al-Ghadir fi al-kitab wa-al-sunnah wa-al-adab*』(14巻)などを含む歴史・政治関係資料
- ・収集目的：アラビア語史資料の収集・研究と研究者の共同利用に資するため
- ・所蔵場所：東洋文庫書庫
- ・収集方法：エジプトの書店および国内取次より購入
- ・収集期間：2013年4月～2014年2月

②資料名 ペルシア語資料

- ・形態：図書および雑誌
- ・冊数：92 冊
- ・資料内容：ブハラからメッカまでの巡礼ルートに関するペルシア語で書かれた最古の史料 Abu Jafar Shams al-Din ibn Mazih, *Lataif al-adhkar lil-huddar wa-al-suffar fi al-manasik wa-al-adab* の校訂本、バルアミーによるタバリーの歴史書のペルシア語訳 *Tarikhnamah-i Tabari* (5 巻)、雑誌『法学と法律 *Fiqh va huquq*』(26 冊)、『法思想研究 *Pazhuhishnamah-yi Andishah-yi Huquqi*』(2 冊)、『シーア派の書 *Kitab-i Shiah*』(4 冊) など
- ・収集目的：ペルシア語史資料の収集・研究と研究者の共同利用に資するため
- ・所蔵場所：東洋文庫書庫
- ・収集方法：イラン現地の書籍商および国内取次を通して購入
- ・収集期間：2013 年 10 月～2014 年 3 月

③資料名 オスマントルコ語資料

- ・形態：図書
- ・冊数：88 冊
- ・資料内容：*Ukrayna, Rusya ve Türkiye* などの政治関係資料、*Münci Baba : tarikat 'aliye Bektashiye* などの宗教関係資料、*Dürrü'l-hukkam şerh-i Mecelletü'l-ahkâm* 1～2 巻などの法学関係資料を含む、19 世紀末～20 世紀初頭に出版された図書・雑誌資料
- ・収集目的：オスマントルコ語史資料の収集・研究と研究者の共同利用に資するため
- ・所蔵場所：東洋文庫書庫
- ・収集方法：トルコの書店より購入
- ・収集期間：2013 年 6 月

④資料名 欧文資料

- ・形態：図書
- ・冊数：32 冊
- ・資料内容：『イスラーム百科事典第三版 *Encyclopaedia of Islam Three*』(4 分冊) などの参考図書、『ライデン大学他トルコ語写本目録 *Catalogue of the Turkish Manuscripts in the Leiden University Library and Other Collections in the Netherlands: Minor Collections*』その他史料学に関する研究書、校訂・対訳本など
- ・収集目的：現地語史資料の研究と研究者の共同利用に資するため
- ・所蔵場所：東洋文庫書庫
- ・収集方法：国内取次およびオンライン書店を通じて購入
- ・収集期間：2013 年 4 月～2014 年 3 月

6. 研究成果・発表（論文・図書等）

■拠点発行物

〔学会発表〕計（ 2 ）件

発表者名	発表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
KONDO Nobuaki (研究分担者)	Judicial Reform and Shari'a in 19th Century Iran	NIHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference	2013.11.3	Lahore University of Management Sciences
OKAWARA Tomoki (研究分担者)	The 'Ottoman' Mecelle/ Majalla Reconsidered	NIHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference	2013.11.3	Lahore University of Management Sciences

■拠点発行物以外の研究成果物

〔論文〕計（ 55 ）件

著 者 名	論 文 標 題	掲載誌・書名	巻	発行年	ページ
三浦 徹 (拠点代表)	「もうひとつの世界システム：岩波人文書セレクションによせて」	J・L・アブー・ル ゴド『ヨーロッパ 覇権以前』（再刊、 岩波人文書セレク ション）岩波書店		2014.1.24	201-210
	「遠くて近いイスラーム世界」	三浦徹編『イスラ ームを学ぶ一史資 料と検索法』山川 出版社		2013.11	1-4
	「第1章 イスラームとの出会い」	三浦徹編『イスラ ームを学ぶ一史資 料と検索法』山川 出版社		2013.11	5-7, 10-28
	「Column#01 洋行した仏教 僧がみたイスラーム」	三浦徹編『イスラ ームを学ぶ一史資 料と検索法』山川 出版社		2013.11	8-10
	「イスラームから学ぶ」	三浦徹編『イスラ ームを学ぶ一史資 料と検索法』山川 出版社		2013.11	115-116
堀川 徹 (研究分担者)	「序章 シャリーアとロシア 帝国——その時代背景と 本書の構成」	堀川徹・大江泰一 郎・磯貝健一編『シ ャリーアとロシア 帝国 近代中央ユー ラシアの法と社会』臨川書店		2014.3.31	5-21, ix

大河原 知樹 (研究分担者)	「ヨーロピアン・グローバリゼーションとイスラーム世界:イギリス、オスマン帝国、ユダヤ人」	渡辺昭一編『アジア遊学 165 ヨーロピアン・グローバリゼーションの歴史的位相 「自己」と「他者」の関係史』勉誠出版		2013.6.28	175-188
	「ユダヤ教—古の宗教社会の「黄昏」」	黒木英充編著『シリア・レバノンを知るための 64 章』明石書店		2013.8.31	165-10
	「ムハンマド・クルド・アリー—あるシリア・ナショナリストの肖像」	黒木英充編著『シリア・レバノンを知るための 64 章』明石書店		2013.8.31	106-108
	「オスマン帝国時代のシリア—「暗黒時代」史観の修正—」	黒木英充編著『シリア・レバノンを知るための 64 章』明石書店		2013.8.31	94-99
KONDO Nobuaki (研究分担者)	“Between Tehran and Sultāniyya: Early Qajar Rulers and their Itineraries”	David Durand-Guédy ed. <i>Turko-Mongol Rulers, Cities and City Life</i> . Leiden&Boston: Brill, 2013		2013	385-416
近藤 信彰 (研究分担者)	「第7章 アフガニスタンの司法改革—イスラーム法裁判制度を中心に」	堀川徹・大江泰一郎・磯貝健一編『シャリーアとロシア帝国 近代中央ユーラシアの法と社会』臨川書店		2014.3	188-208, xxvi-xxvii
磯貝 健一 (研究分担者)	「第5章 シャリーア法廷裁判文書の作成システム—帝政期中央アジアのカーディーと「タズキラ」」	堀川徹・大江泰一郎・磯貝健一編『シャリーアとロシア帝国 近代中央ユーラシアの法と社会』臨川書店		2014.3	130-165, xx-xxii
AKIBA Jun (研究分担者)	“Ertuğrul Fırkateyni ile Japonya’ya Ulema Gönderme Girişimi”	<i>Annals of Japan Association for Middle East Studies</i> 『日本中東学会年報』	29(1)	2013.7.15	129-143
秋葉 淳 (研究分担者)	「オスマン帝国における近代国家の形成と教育・福祉・慈善」	広田照幸・橋本伸也・岩下誠編『福祉国家と社会: 比較教育社会史の新たな展開に向けて』昭和堂		2013.11	141-157
	「タンズィマート以前のオスマン社会における女子学校と女性教師: 18 世紀末~19 世紀初頭イスタンブールの事例から」	『オリエント』	56(1)	2013.9	84-97

渡辺 浩一 (研究分担者)	「災害対応と文書行政：江戸における二つの大水害から」	『歴史評論』	760	2013.8	63-77
	「江戸橋広小路の明地高札と都市社会」	『日本歴史』	779	2013.4	53-70
相原 佳之・ 徳原 靖浩 (研究分担者)	「東洋文庫における地域研究資源の情報化・共有化の取り組み」	『PNC2013 NIHU 企画セッション報告集』人間文化研究機構		2014.3.29	85-101
徳原 靖浩 (研究分担者)	「第3章 史料を探す、史料から学ぶ」	三浦徹編『イスラームを学ぶ一史資料と検索法』山川出版社		2013.11	58-75, 78-87
	「Column#03 現地語史料の日本語訳を探すには」	三浦徹編『イスラームを学ぶ一史資料と検索法』山川出版社		2013.11	76-77
柳谷 あゆみ (研究分担者)	「第4章 現地語資料の入手」	三浦徹編『イスラームを学ぶ一史資料と検索法』山川出版社		2013.11	88-95, 98-114
	「Column#04 中世の書店と愛書家」	三浦徹編『イスラームを学ぶ一史資料と検索法』山川出版社		2013.11	96-97
ザカリヤー・ターミル著・ 柳谷 あゆみ (研究分担者) 翻訳・解題	「ザカリヤー・ターミル『酸っぱいブドウ』」	『Phases』	4	2013.12	4-16
イハッブ・ザハダ、ムハンマド・ティティ、ラエッド・シュウヒイ作、 柳谷 あゆみ 翻訳・解題 (研究分担者)	『3 in 1』	『国際演劇年間2014』別冊『紛争地域から生まれた演劇5 アラブ・イスラム世界の現代戯曲』		2014.3.27	5-45
伊藤 知義 (研究協力者)	「第9章 社会主義ソ連時代における民事裁判のあり方——客観的現実主義と裁判所積極主義」	『シャリーアとロシア帝国 近代中央ユーラシアの法と社会』		2014.3.31	230-255, xxx
上野 雅由樹 (研究協力者)	「帝国末期オスマン・アルメニア人の学校選択：「イスラームと教育」部会セッション報告：2012年秋季大会報告」	『通信Ⅱ』(比較教育社会史研究会)	1	2013.4.30	4-5
EGAWA Hikari (研究協力者)	“Osmanlı Döneminde Yörüklerin İltizam Sistemine Girmesi: Yağcı Bedir Yörükleri Örneği”	İlhan ŞAHİN, Baktıbek İSAKOV, Cengiz BUYAR (eds.), <i>Ciépo Interim Symposium : The Central Asiatic Roots of Ottoman Culture, İstanbul</i>		2014	275-283

江川 ひかり (研究協力者)	「オスマン帝国における遊牧民の墓地と墓標—19・20世紀初頭西北アナトリアにおけるヤージュ・ベディルの事例から」	『明治大学人文科学研究所紀要』	74	2014.3.31	37-72
小笠原 弘幸 (研究協力者)	「オスマン帝国の歴史書」	『歴史と地理』	669	2013.11	26-32
奥田 敦 (研究協力者)	「第8章 ガバナンスと宗教：体制転換の狭間に学ぶ」	市川顕・奥田敦・稲垣文昭編著『体制転換とガバナンス』(ミネルヴァ書房)		2013.5	193-213
桑原 尚子 (研究協力者)	“Shari’a in Law and Politics: Polygamy Debate in Malaysia”	『高知短期大学・社会科学論集』	103	2013.12	29-58
	「イスラーム法における債権譲渡をめぐる諸問題とイスラーム債券(スクーク) —マレーシアを事例として」	『社会体制と法』		2014.3	
	「第8章 「近代法」の移植と土着法適用についての帝国の論理—マレーシアと中央アジアの比較から」	堀川徹・大江泰一郎・磯貝健一編『シャリーアとロシア帝国 近代ユーラシアの法と社会』臨川書店		2014.3.31	209-229, xxxvii-xxx
後藤 敦子 (研究協力者)	「第2章 研究文献を探す、読む、使う」	『イスラームを学ぶ—史資料と検索法』山川出版社		2013.11	29-39, 42-57
	「Column#02 目録あれこれ—イスラーム地域と日本」	『イスラームを学ぶ—史資料と検索法』山川出版社		2013.11	40-41
中田 考 (研究協力者) 監修	「「イスラームの本質とその秘儀」翻訳」	山本直樹著『日本でイスラームの精髓を生きる：ナールスィーと共に』日本サウディアラビア協会		2013.7	39-204
HASEBE Kiyohiko (研究協力者)	“An Ottoman Attempt for the Control of Christian Education: Plan of Fünûn Mektebi (School of Sciences) in the Early Tanzimat Period”	<i>The Journal of Ottoman Studies</i>	41	2013.8	231-251

長谷部 圭彦 (研究協力者)	「オスマン帝国の「大学」－イスタンブール大学前史－」	『大学史研究』(大学史研究会)	25	2013.12	83-102
	「討論のまとめ【ナショナリズム・世俗化・リベラリズム】」	広田照幸・橋本伸也・岩下誠編『福祉国家と教育：比較教育社会史の新たな展開に向けて』昭和堂		2013.11	158-165
	「史料・文献紹介：R.D.アンダーソン著、安原義仁・橋本伸也監訳『近代ヨーロッパ大学史－啓蒙期から 1914 年まで－』昭和堂、平成 24 年」	『歴史学研究』	915	2014.2	61
	「オスマン帝国の官報」	『明日の東洋学』	31	2014.3	8-10
浜本 一典 (研究協力者)	「キリスト教とイスラームにおける信教の自由－対話の重要性と合意の可能性－」	『多文化共生時代における一神教間の相互作用と対話』同志社大学一神教学際研究センター		2014	21-31
藤波 伸嘉 (研究協力者)	「オスマンとローマ近代バルカン史学史再考」	『史学雑誌』	122(6)	2013.6.20	55-80
	「ギリシア東方の歴史地理－オスマン正教徒の小アジア・カフカース表象」	『史苑』	74(2)	2014.3.26	67-101
	「オスマン帝国と『長い』第一次世界大戦」	池田嘉郎編『第一次世界大戦と帝国の遺産』山川出版社		2014.3.30	191-218
FUJINAMI Nobuyoshi (研究協力者)	“Decentralizing Centralists, or the Political Language on Provincial Administration in the Second Ottoman Constitutional Period”	<i>Middle Eastern Studies</i>	49(6)	2013	880-900
堀井 聡江 (研究協力者)	「第 7 章 ムハンマド・カドリー『ムルシド・アル＝ハイラーン』－イスラーム法学の近代－」	柳橋博之編『イスラーム 知の遺産』東京大学出版会		2014.2.25	191-219
堀井 聡江 (研究協力者) 邦訳、川島 緑 解説	「『新しい黎明』1960 年代カイロのフィリピン・ムスリム留学生論文集邦訳・解説(8)」	『上智アジア学』	31	2013.12.27	177-192
松山 洋平 (研究協力者)	「【研究動向】マートゥリーディー学派研究の諸側面」	『日本中東学会年報』	29(1)	2013.7.15	145-159
	「現代イスラーム法思想の概念的検討：ムスリム・マイノリティ法学がイスラーム法学に提起する問題を中心に(中東研究博士論文要旨)」	『日本中東学会年報』	29(1)	2013.7.15	183-185

宮下 修一 (研究協力者)	「第 10 章 ウズベキスタンにおける「法」の役割—担保法整備支援事業にみる一断面」	堀川徹・大江泰一郎・磯貝健一編『シャリーアとロシア帝国——近代中央ユーラシアの法と社会』臨川書店		2014.3.31	256-276
吉田 達矢 (研究協力者)	「戦前期の名古屋におけるタタール人の諸相 (2) 一名古屋回教徒団とイデル・ウラル・トルコ・タタール文化協会名古屋支部の活動を中心に—」	『名古屋学院大学論集：人文・自然科学篇』	50(1)	2013.7	15-34
	「19 世紀半ばオスマン帝国政府の正教徒統治政策—正教会総主教座法 (Rum Patrikligi Nizâmâtı) の編纂過程に関する考察から—」	『東洋学報』	95(2)	2013.9	01-026
	「戦前期における在名古屋タタール人の交流関係に関する一考察」	『アジア文化研究所研究年報』	48	2014.2	160(247)-149(258)

〔図書〕計（６）件

著 者 名	書 名	出版社	巻	発行年	ページ
三浦 徹 (拠点代表) 編 (徳原 靖浩 (研究分担者)・ 後藤 敦子・ (研究協力者) 柳谷 あゆみ (研究分担者) 共著)	『イスラームを学ぶ：史資料と検索法』（イスラームを知る、第 3 巻）	山川出版社		2013.11	125
堀川 徹 (研究分担者)・ 大江 泰一郎・ 磯貝 健一 (研究分担者) 編	『シャリーアとロシア帝国 近代中央ユーラシアの法と社会』	臨川書店		2014.3.31	276, xxxiii
小笠原 弘幸 (研究協力者)	『イスラーム世界における王朝起源論の生成と変容：古典期オスマン帝国の系譜伝承をめぐって』	刀水書房		2014.3	263
内田 樹・ 中田 考 (研究協力者)	『一神教と国家：イスラーム、キリスト教、ユダヤ教』	集英社		2014.2	256
浜本 一典 (研究協力者)	『多神教世界におけるイスラームの法と倫理』	同志社大学一神教学際研究センター		2014	43
柴 宜弘 監訳、 黛 秋津 (研究協力者) 他 7 名訳、 クリスティナ・クルリ統括責任 (著)	『バルカンの歴史—バルカン近現代史の共通教材』	明石書店		2013.5	552

〔学会発表〕計（18）件

発表者名	発 表 標 題	学会等名	発表年月日	発表場所
MIURA Toru (拠点代表)	“A New Approach to Analyze the Waqf Donation from Transregional and Comparative Viewpoints”	MESA 2013 Roundtable, The Need to Compare: Going Beyond the Area Studies Approach for “Thinking Waqf” organized by CNRS-GDRI-Waqf and Toyo Bunko, The 47th Annual Meeting of Middle East Studies Association of North America	2013.10.11	New Orleans, Louisiana (USA)
OKAWARA Tomoki (研究分担者)	“Economic Conditions of Waqf Properties in Mid-nineteenth Century Damascus”	GDRI Workshop, TELEMME-MMSH	2013.7.7	Aix-en-Provence,, France
AKIBA Jun (研究分担者)	“Uniformity and Diversity of Legal Practices in Late Eighteenth-Century Ottoman Anatolia: A Case Study on the Issue of Missing Husbands”	第47回北米中東学会 The 47th Annual Meeting of the Middle East Studies Association	2013.10.12	New Orleans, LA
秋葉 淳 (研究分担者)	「18 世紀オスマン帝国における法の適用と法学書の流通—アナトリアにおける地域的多様性」	日本オリエント学会 第55回年次大会	2013.10.27	京都外国語大学
	「カーディの町、カーディの村—18 世紀～19 世紀初頭オスマン社会における支配者層参入の道」	日本中東学会第29回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャンパス
徳原 靖浩 (研究分担者) 相原 佳之	「東洋文庫における地域研究資源の情報化・共有化の取り組み」	PNC Annual Conference and Joint Meetings 2013	2013.12.12	京都大学
柳谷 あゆみ (研究分担者)	「都市住民の降伏—549/1154 年ダマスカスの事例から—」	第55回日本オリエント学会大会	2013.10.27	京都外国語大学
	「ポスト・セルジューク朝期における「正しさ」の表明」	九州史学会イスラム文明学部会	2013.12.8	九州大学箱崎文系キャンパス
	「現代シリアの短編小説：ザカリヤー・ターミルを読む/春のはざま」	シンポジウム「文学から見たシリアの人々：ザカリヤー・ターミルの世界」	2014.2.21	鹿児島大学国際島嶼研究センター
小笠原 弘幸 (研究協力者)	「「愛国」なき国民史-オスマン帝国-アブデュルハミト二世専制下における歴史教科書の分析」	日本中東学会第29回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャンパス
	「忠誠と反逆—15 世紀のオスマン朝歴史叙述におけるオスマンとセルジューク—」	九州史学会平成25年度大会	2013.12.8	九州大学

桑原 尚子 (研究協力者)	Shari'a in Law and Politics: Polygamy Debate in Malaysia	アジア法学会	2013.6.22	早稲田大学
	「スクーク (sukuk) とイスラーム法における債権譲渡法理」	アジア法学会・秋季研究総会「シャリーアとイスラーム金融」	2013.11.16	立命館大学
HAMAMOTO Kazunori (研究協力者)	A Change in the Theory of Maqāṣid al-Sharī'ah: Thinking Human Rights	International Workshop "Islamic Law and Ethics in a Multi-Religious World	2013.10.10	Hartford, Connecticut, USA
藤波 伸嘉 (研究協力者)	「エキュメニズムの行方ー『小アジア歴史地理』から『カフカースのギリシア人』へ」	立教大学史学会大会	2013.6.22	立教大学
堀井 聡江 (研究協力者)	「シャリーアの時効制度におけるカーヌーンの影響」	日本オリエント学会第55回大会	2013.10.27	京都外国語大学
松山 洋平 (研究協力者)	「マートゥリーディー学派研究の射程と今後の課題」	日本中東学会第29回年次大会	2013.5.12	大阪大学豊中キャンパス
黛 秋津 (研究協力者)	Изучение истории Украины в Японии (日本におけるウクライナ史研究)	ヴィシュゴロド歴史文化博物館主催第19回国際会議	2013.5.30	ヴィシュゴロド歴史文化博物館 (ヴィシュゴロド、ウクライナ)